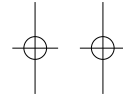
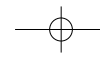
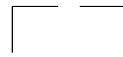
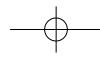


まえがき



2

3



# ENTER

- 第3章◆タイムラインを行き来する時間の不思議
- 1節 異なるタイムラインにジャンプする
- VII. 5次元の自由 寺本恵理  
〜異なるタイムラインにジャンプし続ける〜
- VIII. 神君が教えてくれた5次元の現実 辰巳和代  
〜願望達成する5次元の仕組み〜
- 2節 海外でタイムトリップする自己探求方法
- IX. ドアを開けるとそこはもう一つの次元 宮本 喜美代  
〜マジカル・タイム・トリップ〜
- X. 魂の記憶と出会う旅 中筋麻記子  
〜マジカル・タイム・トリップ〜
- 2節 5次元と6次元の境界線を越える
- V. 愛金運と姑と私 築木天彩  
〜命がけで 深い願望が達成されていく時〜
- VI. 光の道 街 公江  
〜命がけで 深い願望が達成されていく時〜

# ENTER

まえがき

第1章◆5次元ライフ

1節 この本での3次元、4次元、5次元、6次元、7次元の定義

- I. 5次元ライフナビゲーター JUJU JUNKO KOMIYA
- ・4次元とは3次元立体空間の内外に時間が発生している世界
  - ・5次元とは意図されたことが4次元世界に現れるアイデアの世界
  - ・6次元とは物体から離れた世界
  - ・7次元とは下位次元に影響を与える神々の次元

II. 想像を超えた創造の世界へ 藤井亜季  
〜異なるタイムラインにジャンプする〜

第2章◆5次元ライフ「ある」のリアル

1節 本当のポジティブ思考

- III. 5次元ライフで手に入れた結婚と独立 真碧カオリ  
〜願望達成する5次元の仕組み 結婚 独立編〜
- IV. 「ある」を前提にした生き方 進藤 詩愛  
〜願望達成する5次元の仕組み 引っ越し編〜

## 第1章◆5次元ライフ

# ENTER

### 第4章◆共振する世界

#### 1節 ヌメロロジー、シンクロニシティ、パラレルワールド、占星術

XI. ルノルマンと5次元 古宮三紗子

↳ 願望達成する5次元の仕組み 数字編

XII. すでにある未来からの「こんにちは！」 サリバン知美

↳ 現実化するシンクロニシティ

XIII. 天王星期に花を咲かせる前夜 池 真慧子

↳ 5次元と星の関係

### 第5章◆ライフ・ミッションを生きる

#### 1節 クリエイティブなライフ・ミッションを生きる

XIV. 神の雷 星音

↳ アーチストの5次元ライフ ミュージシャン編

XV. 日舞と5次元ライフ 西崎鼓美

↳ アーチストの5次元ライフ 舞踊編

あとがき

## II. 想像を超えた創造の世界へ 異なるタイムラインにジャンプする

ウイスタリア 亜季<sup>あき</sup>

〈プロフィール〉

あなた本来の力を最大限に引き出す5次元ナビゲーター。幼少期からヒーリング・リーディング能力を使い、無意識に5次元ライフを送る。看護師・保健師としても活動。セッション・相談件数は2万件以上。クライアントの心を開き、能力を引き出し「どうしたいか」に焦点をあてた5次元ナビゲーターを得意とする。「経営の才能があると知って、複数の店舗経営者になった」、「好条件の会社に転職した」、「最良の男性と結婚できた」と好評。



HP



ブログ



### ◆『5次元思考』という名の魔法

「あれが欲しいなあ、こんなことがあったらいいのに…」  
「こうしたいなあ…」

皆さんの望みは人それぞれかと思えます。

でも同時に、

「そんなにうまくいかないよね。」

「実現するには皆さんのプロセスがあるよね。」

「確率的には低いよね…」

そう考えてしまうことはありませんか？でもね、そこに9  
た皆さんの秘密が隠されていると思うのです。こどもたちは  
なんでも試してみますよね？「失敗するかも」などとは  
考えもせずに、たとえ失敗しても何度も何度も試すまで  
試します。

失敗を恐れないし、すごく集中してやっているエネルギー  
ギーがすごいです。

そして私たちが「できるわけがない」と思うことも、成  
功させてしまうのです！

いつから私たちは難しいことを考えるようになったので

しょうか。

果たしてそれは賢いのか…大人になったということなの  
か。

「あれ？子供の頃より楽しくないかも？」

そうお思いになる方はいらっしやいますか？

「今も変わらず楽しいよ！」

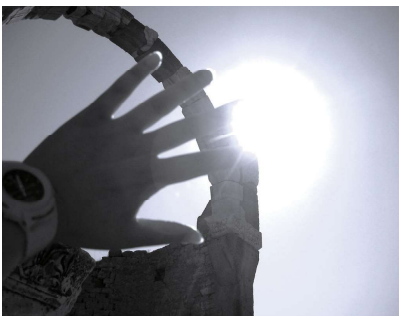
そういつも思えたら素敵ですよ。

大人になると、年齢・生活・仕事のことなど、無邪気では  
いられないことが多いかもしれません。また、『こうある  
べき』と周囲からの視線を必要以上に気にしたり、自分  
は気にしなくても社会に見せられてしまう機会があると思  
います。

いままで、うまくいかないこともあったかもしれませんが。  
でも、それと諦めてしまうことは違うのです。望む世界  
を現実化するには、どのようなプロセスを辿るのか。その  
ためには○○をしなくてはならない(必要だ)。と考える  
方も多いと思います。

そのプロセス思考を超えたところに、望む世界へ行くた  
めのヒントがあるのではないかと思います。

エフェソス遺跡の神殿と太陽





◆ないと思えばない。あると思えばある！

Aさんが、『ない』という方に意識を向けてしまった事例からお話しします。

Aさんは優しく、多くのことを乗り越えられるエネルギーをもったパワフルな方です。

しかし、「お金がない」と切実におっしゃるのです。仕事でも嫌なことばかりが目についている様子で、あまり楽しそうではありません。

Aさんは看護師の資格を持っており、その資格でお仕事されるが多かったそうです。また、看護師としての職場では、嫌な人が現れることが多いそうです。この職種は自分に向いていない。そうお思いになっいらっしゃる方でした。

しかしその仕事を頑張って続けていたため、不安や不満を抱いていらっしゃいました。同じ職種でも現場やデスクワークと種類が色々あったので、「形態を変えればなんとか続けられるのでは」と自分に言い聞かせ、続けているそうです。それでも今の仕事にも違和感を覚え、職場の悪いところばかり目が行ってしまうようでした。

やりたいことがあると言っても、『お金や環境を理由にやらない』のです。

ここでは、あえて『やれない』という言葉は使いません。『やらない』ということを認識してほしいからです。

そして看護師の仕事に納得がいかない為、様々な理由をみつけてはその仕事をしたくないと仰っていました。そのような状況では体にも影響してしまい、体調を崩されることもあり、自分で『タイムラインの檻』の中に閉じこもっている状態でした。

先ほど『意識の変換がなかなかできない要因』と言いましたが、実は全く関係ないのです！今まで囚われていたのは『過去のタイムライン』です。『今いるタイムライン』とは違うのです。

過去の大変だった『タイムライン』に意識が囚われてしまうことが多い要因は、過去の経験や、起きた事象を『評価』してしまうことにあります。「もっといいやり方があったのではないか？」「あの状況では仕方ないよね」とか、「あの時ああ思わなければ…」等と色々原因を探しては、自分を責めてしまったり、環境のせいにしてしまったりするのです。

心では「しんどいな、違うな」と感じているのに、同じ『タイムライン』（彼女の場面はある職種で働くこと）にいるのはかなり苦しいことだと思えます。

なぜ、『自分の望むタイムライン』にジャンプできないのでしょうか？

一つに、転職への不安があると思います。

先述しましたが、『お金がない』というところにフォーカスしてしまっています。

気持ちは十分にわかりますが、『自分はどうしたいのか？』という意識に変えていく必要があります。

Aさんが意識の変換がなかなかできない要因に、親御さんの介護のため、時間とお金に意識が行き、長年に渡り気の進まない仕事を続けていたこと。さらにはその収入の一部を家族のために自分の生活が苦しくなる金額まで使用し、首が回らないという状態を20年以上続けていたことが理由としてあげられます。

そして、『自分のことを後回しにした生活を続ける』という『タイムライン』に長期間いたため、自分の可能性も信じられなくなっていました。

そういった『ネガティブ評価』は、今望む『タイムライン』を見失う原因になり、ジャンプするタイミングをも逃してしまう恐れがあります。

これは『ポジティブ評価』にも言えることです。

ポジティブな事象に評価することで、可能性に制限がなくなります。予想以上のポジティブな事象が起きる余地がなくなってしまうのです。

つまり、『評価』は事象に意味づけを行うことは、『タイムラインを固定』してしまう行為だからです。起きたことに意味づけするのではなく、ありのままを受け入れたうえで、いかに『望むタイムライン』にジャンプし続けるかがポイントです。

意味づけしているのは自分だということを理解していれば、『事象は事象でしかない』ということも理解できると思います。

Aさんのお話にもどします。  
「本当は体を動かさず仕事したい」とヨガのインストラクターの資格を取得し、お仕事に従事されてもいました。ちゃんと『自分の望むタイムライン』に行こうと行動を起こされていたのです。そのエネルギーや行動力に感服しました。

メインのお仕事と並行して、やりたい仕事もこなしていたのですが、近年はコロナを理由に仕事がないとおっしゃっていました。

確かにコロナ禍では対面で教えるお仕事は難しかったと思います。ジムや公民館をはじめ複数人が同じ場所で一定時間過ごすというのは、かなり難しい話でした。

一方で、やり方によってはチャンスだったのかもしれない。彼女の教えている内容は、公園でも実施できるものでした。また、オンラインでのレッスンでも、パーソナルトレーニングでもやり方はあったかもしれないのですが、実行されていませんでした。いままでやったことがない、難しい」といった思い込みに囚われていたのかもしれない。そうなるどアイデアすら浮かんでこなくなります。

多くの人はこの『同時』にやってくることに不安を感じてしまうのです。  
あなたは、そこに『躊躇』や『迷い』が生じ、『タイムライン』をジャンプするタイミングを逃してはいないでしょうか？

『タイムライン』のジャンプは『条件反射』のように、『気づいたら乗っている』のです。もちろん意図的にジャンプすることもできます。

普通電車に乗っていて、目の前に快速電車が来た時、座席をさっと立って、前のプラットホームに滑り込んだ電車にさっと乗り込み、目の前に空いていた席にすっと座る…。そんなイメージです。

さて、その後のAさんの状況ですが、自分の気持ちをごまかすことをやめ、続けていた仕事をやめ、新たな『タイムライン』へと踏み出したのです！

『ないタイムライン』から、『あるタイムライン』へと変化を受け入れて飛び込みました。そのエネルギーのすがすがしいこと！

長身でスラっとした彼女の本来のカッコよさが光り始めました。

そしてコロナ禍でインストラクターのお仕事を一時断念していました。

では、コロナが人類に移行した後はどうされていたかという点、『準備期間』として、しばらくは変わらず同じ仕事をしていました。お話を伺った時点では、目立った活動はされていない様子でした。

この『準備期間』とは、『準備という行動を起こしている期間』と捉えることができます。『タイムライン』は意識を変えるだけでもジャンプできますが、うまくできない場合、具体的な行動を起こす必要があります。レッスンをを行うのなら貸しスタジオを検索し、具体的な使用料金を把握し、レッスンを決めてみる、ホームページを作成し周囲にわかるような情報発信を行うなどです。

行動を起こすと、その先のイメージをしやすくなりますし、望む未来がやってきたとき即座に反応しやすくなるからです。描いた光景が『あたりまえ』に感じられることが大切なのです。

タイムラインが変わると、即座に依頼やチャンス、やるべきことがやってくるので、『準備期間』も『実践』もほぼ同時にやることができます。

#### ◆偶然はない？！

『望んだ現実のタイムライン』にジャンプする時、ハプニングのようなことが起きることがあります。まるでいままでの道がなくなってしまうように感じます。

実際、『今までのタイムライン』が変わるので、いままでイメージしていた現実がなくなるのは当然でもありません。

私が、公共事業に関わる仕事をしていた時のことをお話ししましょう。

そのころ私は、仕事の在り方について考え、働き方を大きく変化させようとしていました。

いまのお仕事も満足している。でももっと自分のしたいこと、するべきことがあるのではないのかと漠然と感じていた時の話です。

そのお仕事は入札制で会社が引き受けていました。長年安定的に入札が通っていたのですがその年に入札を落としてしまうことになりました。競合会社が現れたのです。会社から、「来月から仕事がなくなります。」と言われ、仲間たちはいっせいに転職活動へ。これを機に退職される方もいらっしゃいました。

収入の半分以上を失うことになった私は、「どうしよう?!」と不安になりました。この全く経済的にゆとりのない状態に陥るタイミングで、大きな買い物も決断し、「なるようになるはず!」と思いました。

それと同時に、「これからは違う道を行きなさい」と最終通告されたような気分でした。ずーっと、自分のやりたことをやらずに、安定してそこそこ楽しめる道を選んでいました。

それが楽だと思っていたからです。でも、「いったい、いつになったら自分がやろうとしていることをやるの?」そう思う自分もいて苦しくもありました。

そこから、本当に自分のやりたいことから逃げられなくなりました。正確にいうと、そこから逃げるのがとって苦しく感じるようになったからです。

本格的に『5次元意識』を使って生きていく方法を伝える、『5次元ナビゲーター』として活動していきたい。心も体も環境も『自分の思い通りのタイムライン』を皆が作っていき、その力を取り戻すお手伝いをしたいと思ったのです。

私 「そっちに遊びに行くよ!」

友人 「嬉しい!いつ来れそうなの?」

私 「夏以降の土日かなあ。」

友人 「なら、9月の最初の日曜日と月曜日ね!」

私 「わかった!お休みを取って遊びにいくな!」

ほんの少しの時間の後、彼女から連絡が。

友人 「●●●っていう宿の、スイートルームを予約したから!」

私 「!?!」

友人 「こっちに来てくれるからプレゼントね!」

私 「!?!」

という展開に。彼女は以前から老舗旅館のスイートに泊まりたかったそうで、地元の人と行くには高価で誘いづらい。また、一人を招待すると角が立ってしまう可能性があり、行きたくても行けなかったそうです。

遊びに行くと言っただけなのに、その約10分後には宿に招待されている。旅行に行きたいと思っただけで、こんなにも早く決まってしまうなんて思いませんでした。しかも招待されるなんて!?!それなのにとっても喜んで招待してくれました。

ちなみに彼女はそれほど収入に余裕がある方ではありませんでした。

人に何かを伝えるにはまずは実践を…  
というわけで、この先たくさんのことが起きることになります。

まずは副業探し。

『5次元ナビゲーターとして』活動するにも、もう少し資金としてのお金が欲しいなと思っていました。仕事を半分失ってから、「か月後にメインの仕事の職場から電車で10分以内のところに、時間の融通の利く、以前していた仕事と似たような仕事をするようになりました。

副業が決まり、ひとまず落ち着いたところで、

「旅に出たい!」

という思いに駆られていた時に、パリツアー計画を聞いたのです。

しかしスケジュールや予算等諸々の都合がつかず、泣く泣くあきらめました。

「旅に出たい!」

という思いを捨てきれずにいた私は、石川県の友人と連絡を取ることになりました。

それでもとっっても喜んで招待してくれたのです。

また、その翌日。友人がイギリスから遊びに来ていました。

彼女と沢山近況を話し、お土産をプレゼントしてくれました。私もプレゼントを渡す、ここまではいつもと同じでした。その後別れ際に、彼女は閃いたようにバッグからルルドの水が入った青いボトルを取り出して、私にプレゼントしてくれました。「最近フランスに行ってきたから、お裾分けだよ。」とのことでした。

「.:。どれだけ私はフランス旅行に行きたかったのだろう!」と、思わず笑ってしまいました。その後も、これからの仕事をするのに新しいPCが必要だなど思っていたのですが、その矢先、誕生日に家族がプレゼントしてくれました。

びっくりしていると、「いつも私たちを助けてくれているお礼ねと言われました。意識して家族の為に何かをしていたわけはありません。

驚きましたが、突然のプレゼントを有り難くいただきました。

このように描いたものが瞬時にやってくる現象が次々と起こり始めたのです。

◆執着を手放すということ  
今までとの違いは何か？

以前の自分と違うことは、執着を手放したことです。  
『これがいい！』と強く願うのではなく、『こうだったいいな』とふんわりと思う程度で過ごすようになりました。そして、叶った情景を自然と思い描いていたのです。また、最終的に自分が描いた情景のようになるなら、『いま望む通りの状況になるかならないかはどっちでもいい』、『なるようになる』と思ったのです。

その後も、『お金がもう少し必要だー』と思った時も、その思いすら手放して『結果的に何とかなる』、という状況になるイメージに身をゆだねると、面白いように必要なお金が入るのです。方法はさまざまです。ちなみにこの時は働いて得たお金ではありませんでした。

旅行の直前も、もう少し欲しいなと思ったら、臨時収入が入りました。ちょうど必要な金額だけ入るのです。

この『お金の流れ』は、『5次元ライフ』独特のもので、こういったことが起こるかどうかは、手放せているかどうかの

さて、いままで『5次元ライフの構造』についてお話ししてきましたが、失敗した時にも『5次元意識』が働いた出来事をお話しします。

以前、学校保健室にて非常勤看護師として、変則的な時間勤務していました。

ひと月のうちでも勤務時間の変更が起こるので、思い違いが起きやすい状況ではありました。その日は本来14時30分まで勤務しなくてはならないのに、12時50分で退勤してしまいました。

一人勤務で、学生の急な体調不良やケガに対応しなくてははいけないので、授業が行われている時間は必ず待機していることが重要なのです。しかしその時の私は、何を勘違いしたのか、授業終了前に帰宅してしまっただけです。

その日は退勤時に、学生課にいる警備員に保健室のカギを返却し、職員の方々に「お疲れ様でした。お先に失礼します。」と伝え、職員の方々からも「お疲れ様でした」と声を掛けられ、迷うことなくタイムカードを押して大学を後にしました。

そして帰宅中の電車の中で、間違いに気づいたのです。

バロメーターになると言ってもいいと思います。  
人は望みがあると、『どうやったら手に入るか』と考えずしてしまいます。プロセスを考える時に、考えられる障害やリスク・努力といったものも無意識に考えているのではないのでしょうか。

5次元化していくとき、どちらに意識が傾いているかが、実現化のカギになります。

リスク・マネジメントは現実化に際してはなくてはならないシミュレーションですから、これをしてはいけないというわけでは決してありません。

しかし、恐れや不安・リスクの方へばかり意識が偏ってはいけません。

そして何かが足りないと、どうやって手に入れるかを考えがちです。

それ自体は悪いことではないのですが、『どうやって』を考えた時点で、考えうる方法からの実現化に範囲が狭まってしまふのです。

重要なものは、『必要なものが必要な時に手に入る』こと。方法やプロセスはそれほど重要ではないのです。

「あれ？私なんで電車に乗っているのかしら？」

授業はまだ終わっていないし、まだ勤務時間じゃない？

えっ？ウソみたい…

だって、誰も私を引き留めなかったし。」

それはもう、焦りました…

動揺しました…

冷汗が止まりません…

「今から引き返しても残りの勤務時間は10分程度…」

土曜日の来室人数はほぼゼロ。

「10分の勤務のために引き返す方が良いのだろうか…」

生徒のケガや病気など、何かあれば電話がかかってくるはず…

このまま問題がないのであれば、今は帰ってしまおう！」

そう決断しました。

無理して戻った方が、現場の職員を混乱させ、その場にいる  
た方の管理責任問題になると思っただからです。

そこで、私は気をとりなおして『早く退勤したことが明る  
みになっても、問題にならないタイムライン』にいる自分を  
イメージし、罪悪感や不安感と一緒に手放しました。

何度も何度も罪悪感や不安感はやってきました。  
その度にそれらの感情に支配されないようにしました。

例えるなら、『罪悪感』や『不安感』は視界の片隅に入  
れたまま、『望むタイムライン』の光景を見ているといっ  
た感じでしょいか。

次に同じことを繰り返さないために起きたことを直視し、  
反省することは重要です。しかし、罪悪感や不安という感  
情は不要なのです。もし指摘されたら素直に謝ればいいた  
けなのです。

結果はというと、早く帰った事実を指摘されることはあ  
りませんでした。

管理者が私のミスに気づくタイミングは、

- ・ 退勤時（タイムカードを押す時）
- ・ オンライン出勤システムも併用していたので、日々  
の勤務申請を承認する時
- ・ オンライン出勤システムでの、半月に一回の締め承認時
- ・ オンライン出勤システムの、月締め最終承認時
- ・ 月末のタイムカード回収時

この回ものチェックをかくぐり、一度も指摘を受ける  
ことなく事なきを得ました。もちろんミスはよくないこと  
です。しかし自分が誤って退勤しても、傷病者が出て学生  
や職員が困ることがなく、明るみになって叱責を受ける職  
員がいなかったのです。結果、『問題が起らないタイム  
ライン』にジャンプできました。

ここで身をもって実感したのは『あると思えばある。な  
いと思えばない。』と『タイムライン』を選ぶことができ  
るのだと思いました。そのときの心情と言えば『私さえよ  
ければよい』等とは思っていませんでした。

私が意識を向けたのは『私がいと思うタイムライン』  
でした。

『私さえよければよい』となると、『周囲のことはどうで  
もいい』といった思考がベースにあり、周囲との調和がと  
れません。周囲との調和が取れないということは、エネル  
ギー的な抵抗が生まれます。『抵抗』が生まれると、『他の  
タイムライン』との摩擦が生じてうまくジャンプできない  
のです。

『望むタイムライン』にジャンプするには、『軽やかさ』や、  
『なめらかさ』が必要になるので、周囲にとっても良い状  
態になるという『調和』が大切になります。

『自分が望むタイムライン』にジャンプした場合、必然  
的に『調和』がとれているので、周りにとっても都合の良  
い状況になります。そういう意味での、『自分が良いと思  
うタイムライン』なのです。

これは、パートナーに関しても同じことが言えます。

多くの人は、「どうしたら出会えるのか？」と思ってい  
ると思われませんが、「どうやって出会う？」と考えると、  
出会い方に制限がかかってしまいます。より多く意識を向  
けた方に『タイムライン』が移行するので、『どうやって』  
と考えず、『既に出会っている状態』に意識を向けた方が  
うまくいくのです。

『執着』や『方法』を手放していく方が、今の自分にあっ  
た人と出会えるのです。

手放すことで望む関係が築かれ、不要な関係はみるみる  
清算されていくのです。

意識が変わった瞬間から、状況が面白いように一変します。

再び仕事に話を戻して、面白いエピソードをお伝えしま  
しょう。

いろいろと活動するにあたって、「もう少しお金が欲し  
いなあ」と思ったことがありました。まさかと思うかもし  
れませんが、その瞬間に先ほど話していた学校保健室の仕  
事依頼の電話が鳴ったのです。本当に、思ったのと同時に  
でした。

※

『5次元ライフ』では『時間は全方向からきている。全  
方向に進んでいる』のだからどうことを実感せざるを得ないこ  
とが起こるのです。思った瞬間に望むものがやってくる。  
そして誰も不利益にはならない、時にはお互いが必要とし  
ているタイミングに補い合うかの如く、ものや事象等のや  
り取りが起きるのです。ここでも、『私さえよければよい』  
ではないのです。ビジネスの世界では、よく『WinWin』  
という言葉が使われますが、まさに、その考えを採用すれ  
ば世界は更に良いところになるのだと思います。



◆不安定はよくないこと?!

では、最後の事例です。

メインの仕事の雇用形態が切り替わる時期が見えてきたときの話です。

『5次元ナビゲーター』としての活動を増やしていきたいので、仕事を辞める必要があるのかなと思っていた時の話をします。

勤務先が副業不可の会社でしたので、就業規則上でも仕事を辞めなければいけないかもしれないと覚悟していました。

以前より、私は正社員(副業不可)というのが苦手でした。苦手と思いつつ、正規雇用で長年続けてきました。しかし初めての仕事以外、正規雇用でも副業可の職場で働いていました。この時から、『正規雇用+副業可のタイムライン』を選んでいたと思います。

長期雇用で収入が安定して入る『安定』に対して、『閉塞感』を強く感じていました。

『安定した状態』というのは、自分にとっては『タイムライン』が動きにくく、可動域が狭いと感じました。それ以上の状態にジャンプしたい自分にとっては、『檻』のようなものを感じてしまったのです。

お二人は、何とかその条件に合う雇用契約書を作成してくれるとのことでした。

まず、そのことに驚きました。

後からほかの方に伺ったのですが、この会社での勤務がメインになっている人で、副業可になる人の前例がないとのことでした。

私はただ、『どのような状態でいたいのか』ということのみに意識を向けました。

後日、週5日の時短勤務に加え、副業可の条件で申請を通す予定とのお知らせをいただきました。その時、私の希望を通そうとくださっている上司の方々に、ただただ、ありがたいという気持ちでした。

でも欲を言えば、できれば平日に休みが1日あれば、『5次元ナビゲーター』の活動がしやすいのにとふんわり思っていました。

そして後日、最終の雇用条件について内々に提示されたのですが、

『週4日、副業可』でした!!

これは安定収入に安住してはいけなと言っているわけではありません。もちろん、安定収入があっても、引越し・旅行・趣味など『タイムライン』を大きく変える方法がいろいろあることもお伝えしておきます。それでも、人生の多くの時間を費やす『仕事』は、タイムラインに大きな影響を及ぼすと思います。

立っているだけでなく、歩いて先に進むのが人生。

歩くという行為は、足を出すたびにバランスを崩しているということになります。言葉をかえれば、自由度のある不安定ということになるかと思えます。

大事なのは、あなたが望む『安定・不安定のバランス』<sup>2)</sup> であることだと思います。

話を元に戻します。

ある日、私がお世話になっている管理職の方が〇名やってきました。そのお一人が、「どうやったら続けてくれますか?」とおっしゃるのです!こちらの意向を聞いてくれると思っていなかったのでびっくりしました。

私は「ほかのお仕事もしたいです。」と正直にお伝えしました。

これには驚きと嬉しさでいっぱい!今のお仕事もやりがいがあり、まだ続けていきたい。でも、『5次元ナビゲーター』としてもっと活動したい!

両立できる条件提示でした。しかもボーナスや福利厚生も充実し至れり尽くせり。

「これで思い切って『5次元ナビゲーター』をやれるわけよね?」と5次元以上の次元にいる私に言われた気がしました。

もう後回しする言い訳ができない環境が整ったのです。

ここまでお読みいただいておりますが、資格を持っていただけから転職がうまくいったわけではありません。

『どのような状態でいたいのか』ということに意識を向け、タイムラインをジャンプし続けたからこそ、うまくいったのだと思います。

## 第2章◆5次元ライフ「ある」のリアル

### 1節 本当のポジティブ思考

◆思い描く事象は『今ここ』に存在している

今までお話したことは、たった8カ月の間に起きた出来事です。

この状況を8カ月前の自分は想像できていたでしょうか？

いいえ。その先の自分がなりたいたい状態は描いていましたが、この状況は予想できていませんでした。

『どっやって？』を考える必要もないくらい、『望むタイムライン』に必要なタスクがやってきています。『未来はすでに今ここにある』のだと、目の前に展開される事象が語り掛けてきます。

思い描く事象は『今ここ』に存在しています。  
『ある』のです。

『あるタイムライン』も、『ないタイムライン』も、『他のタイムライン』とすべて繋がっていて、まるで『ハニカム構造』の様です。

どちらの『タイムライン』も、どんどん『ある』もしくは、『ない』という『タイムライン』につながりジャンプ

していくことができます。また、無意識かつ連鎖的にもジャンプしていきます。

こうして想像を超えた『あるあるのタイムライン』、『ないないだらけのタイムライン』へとジャンプしていくのです。

『タイムライン』を描くとき、  
あなたは『何』を望みますか？

26 × 14

### Ⅲ. 5次元ライフで手に入れた結婚と独立

〈願望達成する5次元の仕組み 結婚 独立編〉

まへき  
真碧カオリ

〈プロフィール〉

アダルトチルドレンでも幸せになれる！親の影響から本来の自分を解放し、現実化・幸運体質への変容をサポートするスピリチュアルセラピスト&アーティスト。ルーブル美術館等、国内・海外のアートフェアや展示会に出演。教育熱心な家庭方針により抑圧された幼少期を過ごし、そこから自分を取り戻していった経験からセラピストに。10年で1万人以上にセッションを提供。潜在意識ヒーリングや5次元思考を用いて根本から改善していくセッションが、多くの人の意識改革・癒し・心願成就に成功&好評。  
★メルマガ登録でセッション50%OFF！

HP



メルマガ



アートとスピリチュアルに奔走してきた人生。時に試練もありながらも、大変充実して幸せな日々を送っていました。

気づけば38歳。

それまで自分がパートナーは欲しいけど結婚という形を取りたいのか、家庭というものが欲しいのかが分からず、大好きな仕事にずっと打ち込んできましたが、出産のリミットが本能的にそう思わせたのか、「やっぱり結婚したい」「子供も欲しい」「温かい家庭を築きたい」と、非常に遅ればせながら思うようになりました。

当時お付き合いしていた彼に「結婚したい」旨を伝えると、彼の方は「結婚はしたくない」「これ以上関係を深めていくのに、経済的にも精神的にも決断出来ない」とのこと、残念ですがお別れすることに。

若い時は、自己肯定感の低さや親密感へ恐れから犠牲をしまい、結果的に自分を粗末にしてしまうような恋愛をしていました。

すぎたり、強いトラウマを持ち、幸せになる準備が出来て人を何とか癒していこうと試みたり、ドラマとしての恋愛に時間と苦労を重ねてきてしまいましたが、そういう実りない恋愛も十分やり尽くし、もう本当に心から安心して愛を育てていけるような、温かい関係性が欲しいと思っていました。

大好きな仕事と大好きな人との温かい家庭。両方が欲しいと。

私の周りも大切なライフワークを持ち、楽しまれていく方々が多いのですが、「良い仕事をしていくためにも、不毛な恋愛で消耗している場合」ではない。パートナーは安定した信頼関係を築ける人を選ぶこと。仕事も愛も満たされて両立していくにはそれが大事」と考える人が多いように思います。

38歳と11ヶ月で婚活開始。

一般的な感覚では大変無謀なことだと思いますが、30代のうちに結婚したいと目標を定めました。

39歳で好きな人と結婚する。

そう決めて2ヶ月で、今の旦那様と出会いました。綺麗な目と機転が利いて優しい人柄、竹を割ったようにシンプルで純粹で真っ直ぐで、そんな彼やその情熱的なアプローチに惹かれました。

彼の方が若かったので、「次は結婚を視野に入れてお付き合いしたいから、その気が無いならお付き合いという形ではなく、お友達として仲良くしてほしい」ことを伝えると、「将来結婚はしたいけど、今でなくてもいい。でも私が望むならしてもいい」とのことでした。

すぐに意気投合してお付き合いすることに。

私は自分も働いているし、仕事が好きなので、旦那様に食べさせてもらわねばとも思っていないければ、旦那様が私より稼ぎが少なかったとしても、家全体で、お金が回れば良いという考えです。

それ以上に気が合うこと、居心地が良いことを大切にしています。

私の母くらいの時代は、お見合いか恋愛結婚のどちらかという感じだと思いますが、セッションを通じてお客様と話し



ていても、今は婚活が広がり、マッチングサイトや結婚相談所などを利用するのも、シンクロを起こせる近道と感じている人が増えて

きているように思います。

手段はどうかあれ愛し合える人と出会えることが重要です。

そして「マッチングサイトに登録しないと、相談所に登録しないと出会えない」

そう思っていると実は出会えません。

出会う方法よりも、どういう波動、周波数帯にいるかが大切です。

幸せな恋愛をしている周波数になっていれば、時に人間の常識では考えられないような手段や経緯で、それが現実になってきます。

現実化する経緯・方法は宇宙に任せて、私達は意志の力を使って、欲しい状況を設定するだけ。

現実化にはリアルな体感がある方が有用です。良かったら是非お試し下さい。

話を戻して、彼とのお付き合いについて。

最初は恋愛や2人で過ごす時間をとても大切にする彼と、元々仕事が好きで私とで、すれ違うことも色々ありました。彼の方から先に歩み寄ってくれるお陰で、いつもすぐに仲直り出来、お互い価値観の擦り合わせや、関係を順調に深めていきました。

安心で温かくて。

出掛けても家に居ても、とても幸せで楽しかったです。

私は元来休むことなく動き続けてしまう性分で、食事なども一人だとササッと

適当に作って済ませてしまうことも多かったのですが…

彼と過ごすようになって、しっかりと休めるようになって、ゆったりと互いの好きな物を考えて料理し、ゆっくり二人の時間を豊かに過ごすようになりました。

「私自身でいけば、いつでもどこでも出会える」  
そう思って、ハッピーな気持ちでいたり、欲しい未来を様々な五感を使って、リアルにイメージしながら、いつ何時でもチャンスを掴めるようにしておくのと良いかと思えます。

もし貴方が幸せな恋愛の感覚が薄い場合は、手軽に近い感覚を得るのに日光浴が良いかもしれません。

幸せな愛を感じている時はオキシトシンが出ており、日の光を浴びている時もセロトニンが分泌され、どちらも幸福ホルモンとして認知されていて、私も体感としてこの二つの感覚は結構似ているなど感じています。

動物が好きなら、動物を飼ったり、触れ合ったりすることも良いです。

動物と接している時はオキシトシンが出ていますので。

「今幸せホルモンが出ている」「幸せの意識帯にいる」「この意識が更に幸運を連鎖させていく」ことを意識して、日々を過ごされると良いかもしれません。

彼と居るとリラックスして英気を養え、身体も心も穏やかに、日々にメリハリがつき、より毎日が充実するように。

趣味、好きなことが仕事になっている私は、以前は仕事以外のことに時間を使い過ぎることが嫌だったので、彼との時間は、「ああ、こんなに幸せならこういう生活も悪くないな」と思えました。

気兼ねなく話せる大切な友人達と過ごすこともとても楽しいですが、基本的に一人の時間が好きな私が、こんな風にかとずっと一緒に居て心地良いと感じるなんて…。

自分でも驚きです。

彼と出会って、愛の大切さや、誰かと居るからこそ得られるもの、一緒に創っていく幸せの尊さ、喜びを知りました。

お付き合いは勿論過去にありましたが、本当の意味でパートナーシップを築いていけたことは正直無かったかもしれない。

我が家の猫もたんと可愛がってくれる彼を眺めながら、「この人と結婚したい」「一緒に生きていきたい」と思いました。

私はその時に5次元にシーンを設定しました。

彼と手を繋いで一緒に婚姻届けを区役所に提出に行くシーンです。

私の誕生日の春。満開の桜。

まだ少し肌寒さの残る、でも日射しは完全に陽になって、命がキラキラと溢れてこぼれるようなエネルギー。

新しいタームの始まりに、無条件にどこか浮かれてしまっ  
うあの空気。

鳥のさえずりとお花見で賑わう人の声。

いつも触れている彼の手の感覚。細い指。

すぐ悪戯をしてくる彼に小言を言いながら、きつとその  
日も歩いているだろう。

駅を出て右に曲がって真っ直ぐ…

区役所が見えてきて、戸籍担当課に向かって…

ドキドキしながら婚姻届けを提出して、区役所の方に「お  
めでどうございませう」と笑顔で言って頂けたところ。

ホッとした気持ちと歓喜の気持ちで、また彼と手を繋い  
で役所を後にするシーンを描きました。

少し空を仰ぎながら。軽やかに、でも鮮明に。

それに加え、私は2次元の力も利用して、婚姻届けを事  
前に書いておいたのです。

証人の欄も友人に協力を願い、署名してもらいました。

世の中は大分ペーパーレスになってきたものの、紙の  
力はこの4次元世界では強力です。

特に公的な書類はとても現実化の力が強いのです。

実際に役所に提出したのは別の婚姻届けですが、それ  
でも一役買ってくれたと思います。

そしてコミットした通り、設定した通りに、39歳で結婚  
に至りました。

彼と晴れて夫婦に。

大好きな人と可愛い猫達と。

お陰様で夢に見た温かい家庭を築け、幸せな日々を送っ  
ています。

結婚して本当に良かったです。

一方仕事の方かというと、占い館で鑑定師として活動し  
ており、仲間やスタッフ、お客様に恵まれ、快適な環境で  
楽しみながら生計を立てられていました…。

ワークを受ける機会に恵まれました。

何をしに地球に来たか。

今回ここに生まれただか。

ワークの結果、「JOY」という言葉が浮かびました。

私は喜びの為にここに来た。

自分が目一杯この世界を楽しんで、最後はカップのエー  
スのカードのように、それが溢れて喜びが伝染していくこ  
と。

世界が喜びに満たされていくことの一因になっていけば  
いいと。

その本心に気付けた時、「ああ、一応好きなことを仕事に  
して楽しんではいけるけど、まだまだ生活を考えて生きてい  
たな」と思いました。

一人一人が幸せになっていくことは、全体の幸せに貢献  
します。

それによって更に幸せの輪が広がりやすくなります。

そんな中、5次元メンターから7次元ヘシフトしていく

「このままで良いのかな…」

どうしたら良いのか分からず、何となく漠然と行き詰  
まった感、停滞感のくすぶる毎日を過ごしていました。

不満というわけでは全然無いけど、どこか満たされてい  
ない…。

「今の生活も幸せだけど、でも、う〜ん…」

反面、セラピストとして駆け出しの頃に、店舗を構えて  
窮困してしまったこともあり、あの時のリスクを考えると  
独立はもうしたくないとも思っていました。

そうしたら私ももっと楽しいし、お客様ももっと良くし  
ていける。笑顔の人を更に増やしていける。

もっとフレキシブルにセッションのメニューを組んだ  
り、講座を開催出来たりしたらいいなという思いもありま  
した。

「館にはとても感謝しているけど、もっと自分の力を活かして地球の幸運力にも寄与するためには、館のルールに縛られながら活動している場合じゃない」

「喜んでいない日を作っている場合じゃない」  
 そう思ったら「ああ、独立しないとな」という結論に至ったのでした。

本心に蓋をして、80点の幸せで満足している場合じゃない。

次のステージに行かないと。  
 更に自分が快適でワクワク出来る日々を過ごさないと。

しかし、そうは言っても実際にちゃんとやっつけていけるのか。

過去に失敗していることもあり、館を辞めてしまうのはとても不安で怖いことでした。

家族のことで負ってしまった負債も沢山あったので、常識的に考えると独立をするようなタイミングでは全くなく。

80点の幸せを捨てて、全部失うかもしれないリスクを負ってまで、90点100点の幸せを目指すのか。

そんな中、「ひとまず物件でも見てみるか」と思い、不動産もあたりながら、自分でも探していたところ、うちからそう遠くなく、以前の勤め先からもそこまで離れていない、都心部にもまあまあ近く、お手頃な家賃で丁度良い場所が見つかったのです。

しかもキャンペーン中で、初期費用ゼロ、2ヶ月のフリーレント付き。

お部屋もセッションをするのに丁度良い広さで、綺麗で、ラウンジや会議室をはじめ、様々な設備が整っており、お客様をお招きするのにうってつけの物件でした。

こちらでセッションをして良い許可もあり、ものは試しに審査に申し込んだら、見事に通過。

再び恐れが後ろ髪を引っぺります。  
 「今ならまだ間に合うけどどうする？」

その時に一緒に励んできた同志の方々の顔が浮かびました。

皆もいるから。  
 もっと幸せな状況を求めてみよう。  
 本当に欲しいものに正直になろう。

本心は分かっても、どうしても一歩が踏み出せませんでした。

(書面の関係で今回は掲載出来ませんが、上記のトラブルの発生から解決までの経緯は、また他の方で読んで頂けたらと思います。そちらも皆様の豊かさの糧になれば幸いです)

そんな時に力をくれたのが愛金運ヴィーナスレイキでした。

過去の経験に囚われて、欲しい世界よりも恐れにフォーカスが向いてしまっているのを、レイキは波動を高め、宇宙から多大な愛が送られていることを思い出させてくれます。

お仲間の皆さんから送ってもらえるレイキはとてもとても温かかったです。

不安になってしまいう度に送って頂きました。

それによって最初の動機を思い出すこと、覚えていることが出来ました。

ワクワクに視線が自然に向くようになりました。

困ったらまたレイキを送ってもらったり、アイデアを聞いてみたり、助けてもらえばいい。

そう思って、バンジージャンプしながら、独立をすることに。  
 「是非お部屋をお借りしたい」とお返事しました。

ひとたびコミットすると、内装もイメージした通り、欲しい家具は全て良質で、お部屋にピッタリのサイズと好ましい値段でトントンと手に入りました。  
 空間が広く見えるよう白を基調として、ルノルマンが使っていたというグリーンのクロスをアクセントに、綺麗な天然石も沢山置いて。

こちらでニコニコしながらセッションして、沢山のお客様が笑顔で帰っていくシーン。

それをいつも描きながら開店準備を進めていきました。そして着々と進んでいく準備とは裏腹に、もう引き返せないのは分かっているけど、お勤め先に辞めたい旨をなかなか言えず…

一ヶ月前のギリギリになっても、「辞めます」というメールを送信出来ずにいました。

大好きな場所でしたので。今迄の館での楽しかった思い出が脳裏をよぎり、仕方ありませんが人によってはこれっきりのご縁になってしまう人もいるだろう。

ある程度の安定した収入が絶たれる恐怖も最後の最後に襲ってきましたが、変わりたい気持ちが強くと、また本場に必要人とは何かしらで必ず繋がるだろうと思いつつ前から書き終えていたメールを、震える指で「えい！」とついにエンターキーを押しました。

本場に行き先が定まって、ここからは一層目指す未来に集中した感じです。

決意の下に、様々なネガティブな思いが浮かび上がりました。同時に未知の世界へのワクワクも。

自分で作った新しいサロンは、当たり前ですが私の好きなもので溢れ、大変居心地が良く。今まで以上に好きな時に好きなだけ働き、休むことが出来るようになって、自由さに感動しました。

余裕の出来たその時間で、何年ぶりにじっくり聴き入るように音楽を聴いたんだろう…。嬉しくて涙が出たくらいです。

そしてひとたびお客様達をお迎えしてセッションを始めると、いつもの楽しさが瞬時に蘇ります。講座も望み通りに作って、私なりに考えたお客様の幸せにより効果的に貢献出来ました。

そして諸々の支払い予定日にどうしても残高が足りない時。支払い前の数日間はずりずりした思いと共に頭を抱えていました。

そしてこれまでも色々乗り越えてきたことを思い出しました。いつも最後は生かされたこと、助けられたこと。今回も大丈夫。必要なものは与えられる。

そうして沢山の方に見送られながら感謝と共に退館。新しい生活・ステージのスタートです。

ひとまず目の前の一番大きなハードルを越えて、その分の覚悟も腹も据えていましたが、それでもどれだけの収入が得られるのか、全く目途が立たず…

つましく生活していくだけならまだしも、多くの返済をしながら生活を成り立たせることが出来るのか。大きなプレッシャーになっていました。

「以前サロンをオープンした時と同じ失敗をまた繰り返すのか」

「ただ同じことをしているだけなのではないか」

「私は変わっていないのではないか」

「支払いきれず生活がままならなくなるのでは」

「今度こそ法的な処置をしなければならなくなるのでは」

ネガティブも感じ切るとあとは上昇していくだけになります。

不安に飲み込まれていることに気付く、

「この意識帯に居てはいけない」

「今どれだけ負債があっても、『無い』ということや苦しみはフォーカスしない」

「お金を私の幸せを預けない」

「お金を私より優位に置かない」

そんな風にお金に支配されないコミット、お金に困る世界線から出ていく

コミットをしました。

そして原点の喜びにフォーカスを。

楽しく、お客様と前進しているシーン。

幸せが倍増しているシーン。

「豊かな世界線へ」

すると、支払いを先送りに出来たり、支払わないで良かったり、先の予定の入金及早まったり…

はたまた大きな仕事舞い込んできたり、仕事以外でも想定外のお金が入ってきたりしました。

5次元ライフの特徴ですが、必要なものや金額が、丁度ピッタリの分量、タイミングでやってきます。

お金も支払う動機の元が喜びになっているかを一層大切にして使うようになりました。手元にあるお金は決して多くなかったため、常識的に考えると節約をしないとなりません。

でもそれ以上に私達の笑顔がより想像出来る方の選択をしていきました。そのエネルギーが豊かさを作っていくことに真に貢献することが分かっていたからです。

「ああ、使い過ぎてしまった…」ではなくて、  
「今日、私が幸せで良かったね」と。

今出来る範囲で、いかに自分を喜ばせてあげられるか。機嫌良く過ごさせてあげられるか。

愛しているこう。大事にしているこう。  
そんな気持ちで過ごしていました。

また、5次元思考で教わりましたが、「お金が無いこと自体が貧しさに直結するわけではなく、アイディアが無い

ことが貧しさに繋がるのだ」と。

その言葉も元に、「お金が無いと出来ない」ではなく、「どうしたら欲しい状況を手に入れられるのか」「実現できるのか」を、一層考えるようになりました。

地に足はつけないながら、でも自分に正直に、やりたくないことはやらず、犠牲にならず、出来るだけ楽しくて、皆がWIN・WINであるように、創意工夫していくことを心掛けました。

それに没頭していると、実際はお金がなくても、そちらに意識が向かないのです。お金が無いことが気にならないのです。

ビジョンにしか目が向かないのです。  
いつも「どうしたらいかに良くなるか」に頭がフル回転しながら、凄い勢いでビジョンが進むというか濃くなっていく感じでした。

表面的な状況が一切上手くいっていなくても、「叶わないわけがない」という確信。

「だってここに『有る』じゃない？」という確信。  
「誰が何と言おうと、地球のルールだろうと、こんなに

確かに感じている『私の感覚の方が正しい』『正しいに決まっている』という変に絶対的な確信。

「有る」「有る」「有る」に凄くフォーカスが向いて、向こうからそれがやってくる感じでした。

(誤解のないようにお伝えしておきますが、それは他の概念を踏み倒して王様のように『私が正しい!』と主張する感じではなくて、『私の世界ではそれが絶対的に正しい』という感じです)

そうしているうちに、お客様や周りの人が楽しく開運出来るような企画や講座をどんどん行いながら、想定外の幸運やチャンスにも恵まれ、予算オーバーしていた所もあったという間にバランスが取れて、気付けば今まで以上の豊かさや自由、幸せを手に入れていました。

描いた通り、設定した通り。  
大好きなお客様達と、楽しみながら心願成就し。  
自由な人、幸せな人を増やしなから、好きな時に好きなように働いて休んで。

勿論全責任は私にありますが、売上は全部自分のものに

なりますし、サラリーだと基本的には毎月決まった額しか入ってきませんが、自営は上限もありません。  
これまでと同程度の収入なら、お勤めの時間は半分でいいわけです。  
空いた時間は更に勉強や家族との時間や余暇の活動に当てることが出来るようになりました。

当時は怖かったけど、あの時、飛び込んで本当に良かったです。

潤沢な資金どころか経済的に余裕が無い状態での起業。  
無いからこそその起業。

なんで遅れたの間に合うのか。  
なんでお金が無いのに支払えるのか。

4次元の常識よりも、5次元の設定が強い。  
自分が信じたことが強い。

本当に5次元ライフはなんて面白いんでしょう。

私達は4次元から5次元にダイヤモンドシフトするの



HP



ブログ



Facebook

ではなく、元々の次元以上の存在で、その世界から、この地球を、時間を、物質を、様々な体験をして、「こういう世界がある」ということをある意味証明するために、ここに来ているとも言われています。

私達はそんなことはどうに忘れてしまっていますが、今一度その魂の一つの原点を思い出すと、今この世界で直面している、翻弄されてしまうような局面も、より高い視座で、別の角度から眺めることで、さらりと越えていってしまふものかもしれません。

そんな風に、軽くしなやかに、宇宙の叡智にふれながら、これからもこの地球での人生・物語を、命ある限り楽しみたいと思います。

この書籍を通じて、より次元の高い喜びの輪が、一層広がっていきますように。

26w×33行+5行

#### IV. 「ある」を前提にした生き方 (願望達成する5次元の仕組み 引越し編)

進藤 詩愛  
しんどう しあ

〈プロフィール〉

あなた本来の力を最大限に引き出す5次元ナビゲーター。幼少期からヒーリング・リディング能力を使い、無意識に5次元ライフを送る。看護師・保健師としても活動。セッション・相談件数は2万件以上。クライアントの心を開き、能力を引き出し、「こうしたいか」に焦点をあてた5次元ナビゲーターを得意とする。「経営の才能があると知って、複数の店舗経営者になった」、「好条件の会社に転職した」、「最良の男性と結婚できた」と好評。

◆「ある」を前提にすると、スムーズに引越ができた。

私はこの1年前に思いがけない引越を経験しました。かつて友人との会話の中で、広々とした快適な生活空間への憧れを語っていたことがあります。

北海道生まれと育ちには私は、雪が降らない土地に住んでみるのも面白いだろうなとぼんやりと思ったこともありました。

周囲に高層の建物がない札幌のマンションの部屋から眺める景色は、遠くに連なる藻岩山が見える美しい光景でした。その部屋には心地よさを感じていましたが、人が訪ねてきた際に手狭さを感じた時がありました。そして、もう一つ部屋があったら広くて使いやすいだろうと思ひ描きました。

そんなこともあって、2021年の秋頃から、もう一部屋があるとより快適に過ごせたらうと友人に話すようになりました。

2022年の札幌の冬は、例年にないほどの大雪に見舞われました。



毎日の積雪量に驚きながらも、思いがけず沖繩への直行便の航空券が手に入ったので、直観的に友人に会いに行くことにしました。

沖繩に到着した私は、雪に慣れていたため、季節も秋や雪解け後の春のように感じました。

しかし、その時、私は自分の中で大きな気づきを得ました。札幌から沖繩に移り住んだ友人を見て、ふと、人はどこに住んでも良いということ、冬に雪が降らない土地に住む自由だってあるということに気づいたのです。

以前は、冬の季節は雪が降っている生活は当たり前前で、冬は雪の降らない場所に住んでみることは思い浮かなかったのです。

まあ、それには私が札幌の街も、雪も大好きだと言う理由もあったわけですが。

それから、私は、心の中で部屋がひとつ多い室内をイメージしたり、冬に寒さをあまり感じない土地に住んでいるような感覚をふわっと想像して、時折友人に話していました。札幌に戻ってきた後、素敵な家や別荘を見つけたら、「こんな素敵な家に住めたらいいな」と思って、人気がないステキな別荘に向かって「ひと部屋貸してくだ

すでに持ち物は整理されていたのです。実は、前年度に不要なものをかなり整理していたので、梱包するだけで済んだのです。

そのため、移動のための手続きや、連絡、手配に集中することができました。

引越し業者を選ぶ際も、何を優先すべきか明確にしてから、複数の会社に連絡しました。

スムーズに引越するという目標がイメージとしてはつきり見えていたので、まるで未来と今が同期しているように物事がスイスイと決まっていきました。

そして、希望通りの料金設定で運送してくれる会社を、すぐに見つけることができました。

2023年2月、札幌から神奈川県に移住することになりました。

実際に移住することを決めた際は、理想の部屋を探すため細かく考えました。

周囲の環境は、近くのスーパーや、公園の有無、駅までの距離、部屋の明るさ、収納の広さ、水回りの状態など、私の好みや要望を詳細に考えました。

さい！」と冗談めかしことをやって、笑いあったりしていたこともあります。

そして、そのリラックスした時のイメージが現実となったのです！

引越しの具体的な時期や話題が増えると、時折、私の中で小さな抵抗の音がぐるぐると回り始めてきました。

「何から準備したらいいのか、移住する当日までに手続きに行き、連絡したり荷造りしたりする時間は充分にあるのかしら」と、不安の感情が。

しかし、以前引越した時と今とでは、まったく異なる状況だと認識すると、焦りや不安はすぐに消え去りました。以前は、物事はこうでなくてはならないという気持ちの方が先に立っていたのですが、五次元思考を使って、自分の過去の方法ややり方を捨て、今の状況に適した方法を考えるとその瞬間、安心感が湧いてきました。

何も心配する必要はありませんでした。

同時に、ワクワクと少し興奮気味な喜びの感情が高まってきました。心機一転という言葉が心の中で心地よく響きました。そこに住むことで新しい経験をするのだと思うと、新鮮な気持ちになりました。

お部屋が見つかり、内覧を迎えた私は魔法に包まれたような感覚を覚えました。私にとって、その部屋の空間がとても穏やかで、安心できました。まるで以前から知っていたかのように感じていたのです。

その日は、曇り空で、部屋の明るさを確かめる絶好の機会でした。物件を見に行くのは天気が悪い日の方が良いといいますが、それは本場で、日中は太陽の光がどれだけ差し込むのかを想像できました。

台所に面した部屋では、私が自由に音楽に合わせて踊っているような姿が目に見えられました。ここに住むことを決めたら、私が喜んで生活している感じがしました。また、周囲にはスーパーや公園など、まさに求めていた環境が広がっており、収納や水回りも私の希望通りでした。

当日の内覧後、私は不動産会社とその部屋の契約を交わしました。

新生活の場所を決めた後、気づきました。

なんと、部屋が一つ増えていた上に、冬の降雪がほとんどない土地に住むことになっていったことを！

これには驚きましたが、振り返って思うと、未来の可能性に向けて、私自身がそれは「ある」と決断をしたことで、最高の現実が訪れたのだと理解しました。

心の揺れが起きている時は、あるかもしれない、ないかもしれないと思っているため、自信もなく行動することができず、良い情報も受取ることができませんでした。

そんな風に揺れてしまう時には、自分が考えていることを一度確認すると良いです。考えがはっきりしない時は、通常、過去の方法や古い固定観念にとらわれていることが多いと思います。

その考えは、「今の私」にはそぐわない偏りが生じたものであり、行動する一歩を阻害することが推測されます。そして、行動することを阻む制限の言葉が口からでてきます。

しかし、「ある」とい視点で物事を見ていくと、簡単に前に進める良い情報が自然と入ってくるようになると思えます。その結果、現実になるスピードが速くなるのです。

#### ◆旅先で「ある」の応用編 1階ダウン翼711室

「ある」を意図して現実になった経験を書いてみて、私の心よみがえってきたのは、2023年5月のフランスで「ある」を決めて行動した体験です。

私は、フランス革命時代に実在した才能溢れる伝説の占い師マドモアゼル・ルノルマンのルノルマン・カード・リーディングが好きで行っているので、お墓参りや、彼女の住んでいたサロン、それからマルセイユタロットのモチーフとなる石の彫刻がある神聖シャルトル大聖堂などを訪ねる旅に出かけました。

滞在中に、ルーヴル美術館を訪れました。私が特に見たかったのは、ルノルマンのクライアントでもあった画家ダヴィッドの描いた「ナポレオン一世の戴冠式」と、レオナルド・ダ・ヴィンチの描いた「モナ・リザ」の絵でした。美術館の広大なフロアを進む中、数多くの観光客と共に、まず私の目に飛び込んできたのは、ナポレオンの輝かしい戴冠式の場面でした。一部分も見逃さぬよう描かれたその壮大な光景に、私は感動しました。そして、次の目的であるモナ・リザ」の絵でした。

また、「期限」を決めて行動することで、『方向性』や『目的』が定まるため、当然、良いタイミングで物事がスムーズに進展していくのです。

私の場合は、引越し先について、自らの好みや要求を細かく整理して考え、想像してみることをしました。その建物周辺や、室内を内覧するところまで思い描いてみました。そして、引越しを思った通りに、簡単に終わらせることが予想できました。

それは、可能性いっぱい5次元に「ある」というポジティブな状況をクリエイティブしていたということだと言えます。

美術館の広大なフロアを進む中、数多くの観光客と共に、まず私の目に飛び込んできたのは、ナポレオンの輝かしい戴冠式の場面でした。一部分も見逃さぬよう描かれたその壮大な光景に、私は感動しました。そして、次の目的であるモナ・リザの絵画を求めて進路を選ばずでしたが、不思議なことに、古代ギリシャローマの彫刻が展示されたコーナー迷い込んでしまいました。館内マップを見ながら歩いていたのですが、ルーヴル美術館はさすがに広くて、焦ると余計に通路を見つけれないという状態に陥ってしまいました。

そんなときに、「ある」という考え方をういたのです。「必ずモナ・リザを見に行ける」、「見ることが出来る！その部屋は見つかる！」「モナ・リザを見るという状況はある」と、今一度落ち着いて確信を持った後、持っていたルノルマンカードを引こうと思いつきました。そこで、すぐに同行していた友人たちとルノルマンカードを一枚ずつ引いてみたのです。

質問はこうでした。「左右どちらの方向に進めばモナ・リザの絵画にたどり着くのか？」と、カードを引くことによつて「ある」という可能性が「見える化」されました。



2枚引いたカードの結果は、左は紳士のカード。右は雲のカードが出ました。

右の道には迷いと不透明さが広がっており鑑賞したい絵画はないとわかりました。左は、ハートのエース、紳士のカードでした。行動力を象徴していると感じたので、心の声に従い、私たちは、即座に左側へ進むことを選びました。

すると、私たちが通り過ぎる回廊の途中で、後ろから男性の音が響きました。

「Are you from Tokyo?」

と、尋ねるその言葉に反応して振り返ると、ゆったりとした歩調で若い男性が友人と共に私に向かって歩いて来るではありませんか。

私は、(厳密には東京からではないのですが、日本のことを聞かれていると思ったので)「はい」と答えて振り返ると、その人は友人と一緒に絵画を鑑賞中だというアメリカの方でした。

彼はかつて横浜に住んでいたとのことで、時々流暢な日本語を披露してくれました。私は、彼がモナ・リザの展示会場を知っているかもしれないと感じ、直感に従い、「私はモナ・リザを見たいのです。でも、どこに展示している

かわかりません、もし、知っていたら教えていただけませんか？」とたどたどしい英語でお願いしました。

すると、彼は快く「もちろん」と答えて、モナ・リザが展示している方向へ、わざわざ連れて行ってくれました。

なんて、親切な人なんでしょう。私は深く感謝の意を伝え、お別れをしました。

そのあと気づいたのですが、その男性は、まさにルノルマンカードの「紳士」が具現化したかのような存在であり、「カード」の絵の通りに実際に現れて導いてくれたのだと思います。

私たちは、無事に「モナ・リザ」の微笑みを鑑賞することができました。

さすがにこの絵は大人気だったため、会場はとても混雑していました。

わずかな時間でしたが、私たちは目的地に到着し、お目当ての絵画を鑑賞することができたので、とても満足でした。

#### ◆転居予知

約10年前からのことですが、その頃から私は不思議な体験をし始めました。隣人の引越し時期がなんとなく分かるようになったのです。

賃貸のマンションやアパートには、なかなか長期間、暮らす方は少ないかもしれません。引越しは日常茶飯事とも言えるでしょう。そんな日常茶飯事の中の引越しを、私はその『アパートの変化』として感じる事ができるようになりました。

具体的には以下のような体験です。

・誰かが、引越してくる、という時には…

引越し業者のトラックを、1日に何回も見たり、友人、知人の間で、引越の話が多く出るようになってきます。

また、寝ている間に、引越するというストーリーの夢を見たりするようになります。

・誰かが、引越してくる、という時には…

お隣の部屋の空気が一変し、密度が濃くなっていく気配を感じるのです。

まあ、気のせいかもしれないなど、一時的に忘れてしまっ

ていると、1か月もしないうちにその予感的中し、新たな住人が引越してくるのです。

また、引越していく、という時にも特別な感覚が現れます。2〜3か月前、まるでざわめく波動のようなエネルギーが充満したかと思うと、不思議なことに、空間が虚無へと姿を変えていきました。

その部屋番号がおとなしくて『鎮静状態』というように感じてくるのです。

これは言葉にはできない微妙な感覚です。言葉にすると、何か違う印象になってしまうので、こういう表現は難しいといつも感じていきます。

これらの体験は私自身の「肌感覚」から生じたものです。普段は気にしていないけれど、空間の情報を感じていたのだと思います。

同時に、外側に起きている現象は、自分の内側でも起きているのだと思えます。よく考えてみると人が移動する時、自分もその前後に、旅をしたり、仕事の部署が変わったりするなどの変化を経験していたなと思います。

不思議な感覚ですが、人のオーラの方が、先に動いていくと言えはいいのでしょうか。旅もそうですが、オーラが先に現地に行ってしまうって感覚…なのです。

◆『5次元ライフ』は「ある」という前提で行動すると、いくらでも応用ができる。

さて、新年を迎え、突如として、右隣のお部屋の住人さんが決まったようです。そういえば昨年暮れに感じた、引越しの到来、を思い出しました！

誰かがやってくるというエネルギーを肌で感じていたのです。

そのお隣の方から、先日、お引越しの挨拶を受けました。その際に「ななつぼし」という名前のお米をいただいたのですが、まあ、この突然の贈り物に、私は驚きました。

ちょうど前日、故郷北海道産の同じ名前のお米を買おうと思っていたからです。

すると、さらに驚くことが起こりました。友人たちから誕生祝いに、綺麗なシンビジュームの鉢植えをいただきました。

なんと、その花の名前も、お米と同じく「ななつぼし」だったのです。

私は、たまたま食べることが大好きだから、ラッキーマ『シンクロニシティ』が起こったのだと思いましたが、これも、リラククスしているときに、「ななつぼし」が食べ

もう一つ重要なのは、「ある」という状況を自分自身に与えることを許し、「ある」を決めて、行動して喜んで受けとることです。

では、最近の私には、何の変化が起きているのでしょうか？  
実は、2月に入ってから、フルタイムの事務の仕事ができる会社を探し始めました。

探し始める直前は、新しい仕事をイメージする時に、ちょっととした不安や緊張感を覚えました。かつての職場のシフト体制、休憩時間の取り方や有給申請をするときのルールなどを思い出しました。ロッカーの使い方、PCのを使う際の決まりごと、定型文の文書作成や言葉遣いなどの決まり事に慣れる期間などが頭の中を駆け巡り始めました。仕事中に経験した失敗した時の悲しい感情や、成長して改善できた時の喜びの感情などが順番によみがえってきました。

そのため、そわそわして落ち着かず、違和感を感じていたのです。

これからも、以前と同じようなことがあるような錯覚を覚え、追体験するような感情が出てきました。記憶が頭の中で自動的に再現されてしまうのです。

しかし、「ある」をもとに考えて、心の平静を取り戻し

たいなくと、自然体で思い浮かべていたからこそ起きた現実だと思えます。

私は、食に関するシンクロを起こすことがどうも上手だそうで、これまでも思いがけない形で欲しいお料理をいただく機会に恵まれたり、行きたいと思っていたレストランにもすぐに連れていってもらえることが多くありました。

特に、食に関することは、毎日のことだから「受取ることは簡単」だと思っているからだと思えます。実際にスーパーに行き手にとって購入できるし、お料理をして味わったことがあるものは、それらが現実的に「ある」ものとして認識しており、私たちは普段からそれらを目にしているため、簡単に「ある」状態を現実にするができるからだと思います。

「ある」のは当たり前で、その状況を考えて創造することができると私が私たちなのです。

見えるものも、見えないものも区別しないで、自由に範囲を広げていくと、「ある」の応用編はいくらでも実践できると思えます。

応用していくと予想外の『シンクロニシティ』はさらに起こりやすくなり面白い情報が、タイミングよくやってくるのです。

てみると、なあんだ、私はあれこれ先回りして極端に心配していただけではありませんか。

記憶を使って昔の感情を呼び起こし、前向きに行動する自分を、自分で邪魔をしていることに気づきました。

「私は、もう以前の私ではない」と認識すると、言い知れない違和感は一掃されました。

すると、履歴書と職務経歴書を書くスピードが、俄然速くなってきた。

更には、書いているうちに、未知の職場や新しい仲間との出会いに期待感と好奇心が芽生えていることも感じられました。

そうです、ここでも「ある」の設定を使うことが大切だったのです。私は、私が働くその会社が「ある」と決めることにしました。

すると未来からエネルギーがやって来て、意欲が湧き、積極的に既に「ある」状況について考え始めることができようになったのです。

しかし、「ある」をもとに考えて、心の平静を取り戻してみると、なあんだ、私はあれこれ先回りして極端に心配していただけではありませんか。

記憶を使って昔の感情を呼び起こし、前向きに行動する自分を、自分で邪魔をしていることに気づきました。

私は、どんな会社で働きたいのか、まささらな気持ちで安心しながら想像してみました。

躊躇せずに、私が求めている会社の詳細を自由に思い描いてみました。

例えば。最寄りの駅から近く、職場には明るい笑顔の人たちがいて、熱心に協力的に働いている、窓から差し込む太陽の光が明るくて、穏やかでゆったりとしたアットホームな感じ、歓迎されている感じ、ほのかに良い香りがする空間など、その雰囲気を感じて、言葉にしてみました。

同様にイメージするのは、私が充実して仕事をしている様子です。客観的な視点で私を想像すると、とても立体的で細かい部分と全体像が見えてきました。まるで、写真の解像度が高くなったかのように。

書類選考後の連絡を待っている間、そのような想像を巡らせていました。

ところが、予想外の展開が起きました。

2月中旬に、面接先の会社で、応募した職種以外にも専門職の仕事が募集されていると告げられたのですが、求め

26w×33行

ていた以上の基本給や福利厚生など、魅力的な条件の仕事をご提案いただきました。

すぐにその職場を見学し、再度面接を受けた結果、当日中に採用が決まりました。

このように「ある」を選択して行動した先は、自分の考えを突き抜けた面白い現実がやってくるのがわかりました。これは、日常生活のどんな場面でも、また人生の大きな節目にも、応用できると思えました。

新しい職場では、過去の記憶の中のネガティブな出来事を払拭し書き換えるようなことが、目の前でどんどん起きて来ます。

「ある」を前提に未来ビジョンを見ていくだけで、現実ってこんなに変わってしまうんだ！と、面白くてしかたがありません。

「ある」と言う思考法を、ぜひ多くの方に使っていただいて、より自由で創造的な人生に役立ててほしいと思っています。

私は「ある」のエキスポートです。

そんな5次元ナビゲーターになりたいと思っていたので、やっぱり、なってしまったようです。

26w×33行

## 第2章◆5次元ライフ「ある」のリアル

### 2節 5次元と6次元の境界線を越える

## V. 愛金運と姑と私 命がけて 深い願望が達成されていく時

きづきあやめ  
築木彩天

〈プロフィール〉

あなたの目の前の現実はあるが創り出している。思い通りの現実化が起こらないのはあなた自身がじやまをしているから。量子物理学で思考が現実化するカラクリがわかり、「5次元思考」で頭の使い方を変えていった。「愛金運」のセルフ・アトワメントで自愛から慈愛にシフトすると豊かさがやってくるし、人間関係もスムーズになっていき、心穏やかに、楽に楽しい人生を歩んでいる。  
5感で望む未来を体感するワークを取り入れながら、望むタイムラインにジャンプするための後押しもしている。  
著書「お金と仲良くなるスピ系会計」

HP



ブログ



◆母からの刷り込み  
私が生まれ育った山口県の実家には祖母と両親と妹と弟がいました。

祖母は父が小学生の頃に夫（祖父）を亡くし、曾祖父と曾祖母のもと、父を含め3人の子どもを育ててきました。祖母は、山を越えたところからお嫁に来ていて、実家に帰ろうと歩いて山越えをしていたら、同じところをグルグルと回ってしまうことが起きて、「狐に化かされた」と言うことがあります。これって時空が歪んでいたのでしょうか？

母は父方の祖父の弟の娘で、いとこ同士で結婚をさせられたのです。

母方の祖父は戦時中、呉の海軍にいて市内で下宿屋をしていた家の娘（祖母）と結婚をして、母と2人の弟と呉にいましたが、空襲が激しくなって本家である曾祖父の家に家族を疎開させました。

終戦後、祖父も帰ってきて、本家から田畑をもらい受けて住み着きました。

母は自分の祖父のところに嫁いだのですが（曾祖母は亡くなっていた）、どうも曾祖父はお気に入りの子孫ではな

ったらしく厳しいことを言われていたらしいです。

なので母は祖父が大嫌いで、私も曾祖父が大嫌いでした。曾祖父は、母親が自分のことを嫌うから子まで嫌うと言っていたらしいですが、妹はかわいがっていました。弟が生まれて1か月もたたないうちに跡継ぎができたと思ったのか、亡くなりました。

父方の祖母は優しくかったのですが、仕事をちゃんとしないう、いい加減だったので、母がいつも父に文句を言って大喧嘩をしていました。

大喧嘩を聞くのが嫌で嫌でたまらなかったので、高校を卒業したら絶対家から出ていくと決めていました。

だんだん祖母のことも嫌いになりました。母が怒ったら怖くて祖母のところに行っていました。大人になって母は祖母へのイライラを私にもぶつけていたのだと気づきました。

小さいころから母に「嫁姑は水と油。絶対交じり合うことはない」と刷り込まれてきました。私が姑と同居してからも言っていましたけど。

### ◆スピリチュアルから5次元ライフへ

私が子どもの頃、一人で留守番していると、天井裏で「トントントントン」と音がしたら消えてまた音がするということがあったり、アオダイショウでもいたのか、何かが擦れて移動しているような音がしたりすることもありました。

また、小学校に行こうとして近道で納屋の裏の細い道を通ろうとしたら、そこに15cmぐらいの太さのオレンジ色の蛇らしきもの横たわっていて（頭やしっぽは見えないけどそう思った）それを跨いでいこうかと思っただけ、跨いだら悪いことが起こりそうで怖くなって家に戻って親にその様子を話すと、そんなものいる訳ない。早く学校に行け！と怒られたのです。

怖いので近道せずに広い道路を通って行きました。帰宅したら、父がそんなものはいなかったと言っていました。

また、大人はみんな出かけていて、弟と二人で仏壇の前で大騒ぎしていたら、いきなり鐘がチーンと鳴ってびっくりして飛び逃げたこともありました。

周りに家もなくぼつんと一軒家なので、私は夜一人であの家には怖くていることはできないなと思いますが、母は父が亡くなってから自由気ままに一人で住んでいます。

子どもの頃はよく目と目の間の鼻腔のところがじんじんして、なぜそうなるのかなんてわからなかったのですが、嫌だと思って手でゴシゴシしていました。何かが見えたりすることはなかったのですが、だんだんと感じなくなってきました。

ここはサイキックチャクラの場所。実はずっと私のサードアイは鼻腔のところだと思っていました。でも別物だったのですね。

ここが開いたのは、クリスタルを手にし始めてからです。そしてレイキで未来が創れるよと聞いて、それはステキ！と思って伝授してもらいました。

夢を現実化するのにもっと早くできるのではないのか？何か方法があるような気がするとずっと思っていたのです。レイキ使いになる前から、何かに守られているなど感じることはよくありました。

例えば運転していて、右折しようとしたら車が突っ込んできて絶対ぶつかったと思っただけですが、実際は無事だ

### ◆姑との関係

夫は弟と2人兄弟。妹もいたのですが、2歳の頃に亡くなりました。

結婚したときに姑は「娘だと思って大切にします」と母に言っていました。私は心の中で絶対嫌だと思っていました。

嫁姑の関係を刷り込まれていたのです。絶対仲良くできないと思っただけです。

そして当時、義実家は酒屋を営んでいて、嫁なのだから手伝うのが当たり前だったのです。

長男が産まれて1か月経ったら店に連れて行って仕事をさせていました。

姑も煙草を吸う人で、長男をおんぶしたまま煙草を吸っていました。煙が後ろに行くと長男が嫌がっているのを見るのが嫌で嫌で…。でも当時はやめてくれとは言えなかったのです。

長女が年子で産まれたので、あの煙草の煙の中で育てるのは嫌だと思って、もう行かないと夫（煙草は吸わない）に言うと言は嫁なのにとか何とか言っていました。もう行かないことにしました。

ったり、横断歩道を渡っていたら車は赤信号なのにすごいスピードで走ってきて、あと1歩踏み出していたら跳ね飛ばされていただろうということがありました。

そんな経験から私は見えないものに守られていると思うようになったのです。

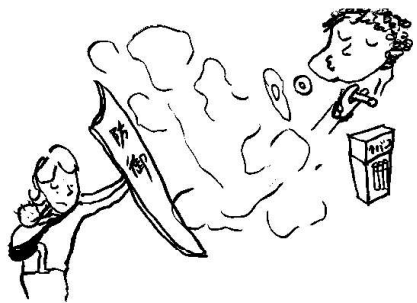
でも、スピリチュアルにどっぷりはまるのもどうなのかな？という疑問をずっと抱いていました。

それはフワフワスピードだったからモヤモヤしていたのかもしれません。

そのうち量子物理学のことを目にするようになり、スピリチュアルが科学で証明できるようになりました。この原理原則がわかって、すっきりしたので。

高校時代の物理は大嫌いでしたが、量子物理学は楽しくて楽しくて。

説明はできませんが、読んでいてワクワクするのです。



店に手伝いに行っていたときに姑を見てみると、そんなことあるはずないというようなことを言うし、夫の祖母にした意地悪なことを嫁に言う？よく覚えておこうと思ったことがありました。

休みの日にはうちに来るのですが、子どもの前で煙草を吸うのが嫌でたまりませんでした。

我が家の子どもたちも大きくなった頃、店は傾きつつあったので、店の手伝いはせず、私は別のところに働きに行っていました。

そしてとうとう店は倒産しました。夫の両親は小さなアパートに住むことになりました。

数年のちに舅が亡くなり、夫が「母を引き取ってもいいか？」と聞いてきたとき、この人を一人で暮らさせていると他人に迷惑がかかりそうと思ったので、しょうがな



いかと思って姑と同居することになりました。  
別に嫌みを言ったり嫌がらせをしたりということはない  
かったのですが、とにかくプライドが高い人。  
絶対に謝らない。人の目を気にする。

「こたつ消してなかったよ。と姑が帰ってきたら言うよ、  
「おかしいね、消したはず」と一切謝らない。  
何か注意すると言いつつ、全然違う話をしたりす  
る。

都合の悪いことは忘れたと言っ。  
お皿を流しに置いたままで洗っていないと腹が立つし、  
洗ったら洗ったで何かついているので腹が立つ。

そんなわけないでしょということをやかに喋  
る。

これは高齢者にはよくあることで、ぱっと出た言葉が本人  
は真実のことだと思つて話すのだと何かで見ました。

娘に「ばあちゃんがおかしいこと言うのよ」と言ったら、  
「えー、10年も前からこの人変なこと言う人だと思つて  
いた」と言いました。

「生きてね」と言っていたので、90まで生きるなどと思つて  
いました。

余命宣告をされたらその通りになるように、そう言われ  
たらそうなると思つていたので。

同居し始めて、夫も仕事が多忙だったので、私が病院の  
付き添いが必要な時は行っていました、ある時もう姑の  
世話はしないと決めたのです。

同居した当時は姑がご飯を作ったり、自分のものは洗濯  
したりしていました。年を取ってきたので私が家事はやっ  
ていましたが、付き添いや介護などはしないと決めました。  
そうしたら、夫の土日休みだった仕事も平日休みも1日  
増えたのです。

そうして、病院の付き添いやケアマネージャーさんの応  
対も夫がするようになりました。

決めることそうなる。思つたことが思つた通りになったの  
です。

姑が90歳になったので、もうそろそろかな？と思つてい  
ましたが、多少痴呆はあっても自分のことは自分ででき

「そうなの？10年前って高校生の頃からそう思つていた  
の？」

「確かにそうだったけど、今はもっと変なこと言つてい  
るのよ。」と言つたことがあります。

普通に話していると「そんな小さい声で話しても聞こえ  
ない」と言われたので、次の時に大きな声で言つたら「そ  
んな大きな声しなくても」と言つたので、「小さい声で聞こ  
えないと言つたから大きな声で言つてるの！」と反撃した  
こともあります。

とにかく姑が何をしてもイライラするのです。というか、  
存在自体がイライラする。

だんだん口調も強くなつて私は鬼嫁になつていきまし  
た。

よく12年も一緒にいたなと思つています。

「施設に入れればいいのに」とも言われたことがあり  
ますが、お金はかけたくなかつたし、要介護2では特養  
老人ホームに入るのは無理なのです。

姑の母（夫の祖母）は90歳で亡くなりました。  
亡くなったとき、姑の弟嫁さんたちが「お義姉さんも90ま

るし、元気に楽しくデイサービスに行っていました。

デイサービスに行く職員の方はみんな優しいし、話も  
聞いてくださる。

デイサービスで編み物やちぎり絵をすると、上手だね  
と褒められる。



姑はプライドが高いのがわかっているのでもうまく対応し  
てくださるのです。

家では誰もほめないけど。

ある日、デイサービスで尻もちをついた拍子に大腿骨を  
骨折して入院しました。

ちょうどコロナの影響で面会は一切できませんでした。  
洗濯物は取りに行っていましたがお会うこともなく、私は心  
穏やかに過ごすことができました。

そのうち退院を阻止するにはどうしたらいいのだろうか？  
と思うようになりました。

エネルギーが変わるとき電化製品が壊れるのなら、壊れ  
ていなくても買い換えたらエネルギーが変わるのかな？と  
思っ、もう20年以上使用していたガスコンロや給湯器を  
新しくしました。洗濯機も変な音がし始めたので買い換え  
ました。

そんなことをしても結局退院することになりましたけど。

3か月も入院していたので、退院したら痴呆がひどく  
なっているのではないかと、介護が必要になるのではないかと

そんな時、JUJUさんのセッションを受けて、このこ  
とを相談しました。

姑の様子を聞いたJUJUさんは「5歳児みたいだね」  
と言いました。  
確かにね。

だったら「お義母さん」と呼ぶのではなくて名前を呼ん  
でみたら。  
名前を呼ばれることでちょっと大人になった気持ちにな  
ってしっかりしてくるかも？と言われたのです。

そして、このセッションで私がやっている筆跡診断の話  
が出て、そこから「愛金運」が生まれたのです。

「愛」が必要なのですよ。

でも、いざ名前を呼ぼうと思っても呼べませんでした。  
どう思われるのだろうか？何か文句言うかな？

何か言われたらめんどうくさいな。とグルグルしていま  
した。

数日後、姑に対してものすごく腹が立つことがあった後、

と心配していましたが、痴呆も進んでおらず、トイレもお  
風呂も一人でできていて安心しました。

3か月の入院費も思ったよりもずっと安くて、この金額で  
良いのですか？と思ったぐらいです。（このあたりのことは  
別の本を執筆中です。）

でも歩くのが前よりも危なくなっていたので、廊下や  
トイレにはレンタルの手すりを付けました。

こうなると前よりもっと動かなくなるし、トイレやお  
風呂に入ったら大丈夫かと気になる。

もっと言い訳するようになるし、聞こえないふりした  
りでイライラが増してきました。

もう姑のことでイライラしたくない。イライラする時間  
がもったいないと思うようになりました。

もしかしたら私がやさしくなったら姑は逝くのではな  
いかとうすうすう思っていました。

でも、やさしくできはしません。

でももう姑のことを気にしなくなりました。



もういいや！お義母さんじゃなくて名前を呼ぼうと決心  
しました。

いざ呼ぶときは、小さな声で「S子さん」と言った後、  
大きな声で「おんや」と言っていました。

そうしている時にJUJUさんが「愛金運」の21日間セ  
ルフ・アットメントを開催することになって毎朝参加して  
いました。



始まって数日後の早朝、姑は胸が苦しいというので救急車を呼びました。

看取りになるかもしれませんと言われましたが、心時間後には容体は安定してきました。

2週間入院したころ、リハビリを兼ねて治療ができる病院に転院することになりました。

とてもよくしてくださる先生や看護師さん。

姑もうれしかったと思います。もともと入院するのが好きな人でしたから。

デイサービスと同じで気にかけてもらえるから。

面会に何回か行って帰宅した後、帰り際にお義母さんじゃなくて「S子さん、さようなら」と言ったらよかったかもとふと思ったのです。

そこで練習するように「S子さん、さようなら」と言ってみました。

次回行った時にはこう言って帰ろう。

しかし、新型コロナウイルスに院内感染してしまつて面会謝絶。

声をかけたら、正気に戻つて「ありがとうございます」と言ったのです。

あとで夫と義弟に「ありがとうございます」と言われたと話したら、自分たちにはそんなこと言わなかったと言っていました。

嫁の私だけに姑は「ありがとうございます」と言ったのです。

そして次の日の夜、亡くなったと連絡が来ました。やっぱりコロナには勝てなかったようです。

姑は亡くなる日の夕方、晩御飯はまだ？と看護師さんに聞いたそうです。

もうすぐよと言われて、姑は食べたなら家に帰らないといけないからと言ったそうです。

このところ1割ぐらいしか食べていなかったのに、晩御飯は半分ぐらい食べたと言われました。

そのあと、看護師さんと普通に話をしていたそうですが、退室して15分ぐらいして戻ってきたら息をしていなかったようです。

先生も苦しまないで逝かれたと思いますよと言われました。



熱も高かったようですが、下がって快方に向かっていると感じました。

「愛金運」の朝業をしていたある日曜日に、「来週の日曜日はどうなっているかイメージしてみよう」と言われました。そうしたら、姑の葬儀が終わつて夫と2人でやれやれと落ち着いているところが浮かびました。

え、まさかね。元気になっているの!?!とは思いましたが、しっかりと斜め45度上にイメージをしていきました。

そのイメージをした2日後の夕方、病院から面会に来てくださいと連絡がありました。

酸素量を最大にしても数値があがらないとのこと。

新型コロナウイルスはすでに5類感染症になっていましたが、防護服を着せられて一人ずつ会いに行きました。

夫が出てきて入れ替わりに入りましたが、意識がもうろうとして手を上にあげて手を動かしています。

おそらく空中で編み物をしていただと思います。そんな状態だったので、声をかけても反応しないかとも思つたのですが、「お義母さんもう帰るね。また来るね」と

「愛金運」のエネルギーで、愛ではないものが出ていき、  
本当の愛が入ってきたようです。

姑は姑自身の居心地の良いタイムラインへ、私は私自  
身が心穏やかに過ごせるタイムラインに移行しました。

亡くなってから近所の人に「寂しくなりましたね」と声  
をかけられました。そんなこと思っただけでもありません。  
もっとこうしてあげれば良かったといった後悔の念もあ  
りません。

私が望んだ通り、姑の介護をすることもなく旅立って  
来て本当によかった。

亡くなった後、姑がまだもらっていない年金や払いすぎ  
ていた医療費をいただきました。

遺品整理をしていたら記念硬貨や古いお札などが出てき  
て、そのお金でおいしいものを食べに行きました。

豊かさも巡ってきました。

S子さん、本当にありがとうございました♡

でも、お金のことはなかなか難しいですね。  
それはお金に関してはいろいろなブロックがくっついて  
いるから。

他人から見れば、お金は十分あると思われる人でも、  
もっと稼がなければと思う人がいます。

子どもの頃、貧乏でお金が苦労したから「成功したい」「お  
金持ちになりたい」と思う人は、不安や怖れを払拭するた  
めに一生懸命稼ぐのです。

でもこういう人はお金がいくらあっても不安や怖れが拡  
大していきます。

お金が減って無くなってまた貧乏になったらどうしよ  
う。

誰かに取られたらどうしよう。  
もっともっと稼がなければ…と思うのです。

このように不安や怖れから、こうなりたいと思うと永久  
に不安や怖れから逃れられないのです。お金がたくさん  
入ってきてても精神的にきついですね。

一方、5次元ライフは自分が本当にやりたいことをやっ

◆5次元ライフとお金のこと  
「愛金運」のセルフ・アトゥンメントをしていたおかげ  
もあり、思い通りの未来が現実化しています。

「お金と仲良くなるスピ系会計」(サンジェルマン出版  
刊)の本にも書いたように、こうなりたい未来を紙に書  
出すと現実化しやすくなります。



こちらは過去のことは過去のことだと思っ  
ていますから未来へ持っていく  
けません。楽しそう！やってみ  
たい！豊かな人を増やしたい！  
といった好奇心や愛や情熱  
から始まります。ただワクワク  
した気持ちでスタートして  
もうまくいきません。

しっかりと「意図」しましょう。

〇〇のために▽▽万円手に入れる。  
今より豊かに自由になる！など意図  
していきます。

そして、「自分にそれを受け取っ  
ていいよ」と許可を出  
しましょう。

その時、「でも」「だけど」など  
と自分で自分の未来の現  
実化を邪魔しないことです。

そういう私もお金に対する不安  
や怖れがあって、お金を  
やりくりすることばかり考  
えていました。

そんな状態でもマンションの  
ローンを早く完済したいと  
思っていて、毎年のように  
叶えたいことの1つに書いて  
いました。



メルマガ



どこかで私の両親の遺産で完済するのかな？とうすうす感じていたら、父が亡くなり遺産を分けてもらって残りわずかになったローンを完済しました。

それからはお金に対する不安感がなくなったのです。お金はどこからでもやってくると思うようになりました。

姑が入院しても、高額療養費適用での金額なのでこれぐらいの金額でいいのか、よかったと安心しました。

洗濯機を買い換えたお金は、夫が入院手術をしてこちらも高額療養費適用での入院費だったので、支払い以上の保険金が入ってきて支払いました。

そのあと、ノートパソコンを買い替えたのですが、少し高めのものにしたので支払いのお金どこから来ないかな？と思っていたら、夫がまた入院手術をして保険金が入ってきました。

でもこの時は夫と旅行に行くことにしていたので、その支払いのために保険金が入ってパソコン分ではなかったなと思っていたら、旅行にかかる費用の他その月の支払額ちょうど金額が姑の最後の年金として振込まれたのです。

## VI. 光の道 命がけて 深い願望が達成されていく時

ちまた きみえ  
街 公江

〈プロフィール〉

私は急性大動脈解離になりその1週間後に失語症になりました。最初は平気でしたがやはりもう駄目かも知れない、営業職もリーディングも出来ないかもしれないと不安になりました。しかし話をした時に何故か5次元の話をしている私がいいます、勿論まだまだ言語力が少しです。その時に私は本当に5次元思考が好きだし、伝える事も好きだと思いました。

こうして私は必要なお金はやってくるのが当たり前になったのです。

5次元ライフでは必要なお金はタイミングよく入ってくるのです。

26w×17行

2021.4.19

今日は10時に会社を出発しK社のUさんに会う、そして13時半に従弟とお嫁さんに会う予定。その後は夜に既に契約されたお客様に会うことになっています。

1つめの予定はつつがなく終わりました。

お昼になったのでコンビニでランチを買いましたが、殆ど食べられません。

「ごっくん」と喉を通したく無い、そんな気持ちです。そう言えはここ3日位お腹が緩いのですが、凄く痛い訳でも無いし：何か変：！そう思いました。でもそれ以外は極めて普通でしたから、Uさんに会ったK社からは富士山が見えるので、スマホで写真を撮っていた程でした。

従弟の家には、徒歩・電車・バス・徒歩で行きます。道程は約1時間です。

家に行く前にセブンイレブンでATMを使いたいと思っ  
ていましたが、従弟の奥さん「お嫁ちゃん」が窓から私のことを呼んでいます。

早く行かなくちゃ！  
と、私は焦るのですが、でもね…お嫁ちゃんの顔つきがいつもと違います。

どうしてだろう？

声は弾んでいるのに、どうして顔つきがちがって見えるのだろうか？

彼女の顔に黒い影が見えます…。この影は6次元的なものでは？

※6次元とは：

私はとりあえず、従弟の家に上がり、先ず、従弟の2回目の給付金請求からしようということで、書類に書き込みはじめました。

従弟は大きな手術をして、その後の閉鎖術の際にかかった金額への給付請求が必要だったのです。

保険屋をしていると、こんな形で親戚を助けられるので、よかったですとも思います。

従弟の手術は、1回目がかなり大変で、術後3日間も目覚められなくて、彼はお花畑を歩いて川の近くまで行ったという話をしてくれました。

そんなところまで行ったんだ。あちらに行くところだったけど、本当に目覚めて良かった！私達は同学生年でもあるし、まだまだ若い。あちらに行くには早すぎる。

私達は生きるのよ！

そんな風に従弟を元気づけながら、雑談をしていると、お嫁ちゃんが「そんな話をしていると幽霊を見たりするようになるので嫌だ」と言い出しました。

ああ、お嫁ちゃんの顔に影が見えたのは、これのせい？  
と思い、

「幽霊があなたのところに来ようなどと思わないようにしてみよ。幽霊がいるビジョンを見ないでね。」とアドバイスし、「波動を上げるには、パワーストーンも

良いしね。」等と説明をして、この話を終わりにすることにしました。

何故って？

だって、さっきからコチコチに黒い影がお嫁ちゃんにまわりついているのが見えるから。

すると、残っていたバームクーヘンのお皿を指して「もう少しスイーツを食べてよ」と、お嫁ちゃんが促して来ました。

でも、ランチもろくに食べられなかった私は、本当に少ししかいただけません。

急におトイレに行きたくなり、食べる事など出来ません。そんな状態のまま、何かの話を「うんうん」と相槌し、

頭を2回動かしたとたんに、胸の辺り衝撃が！

目線が斜め45度以下がって…「終わった。」という感覚がやって来ました。

「何これ…、私…、終わってしまったの？ 終わったって何？ どうして？」

倒れ込んで気を失った私に、

「…んな場合じゃない！早くしろ！」  
上からそんな言葉から落ちて来ました。

「あ、早くしなくちゃ！」  
と、内側の自分は気づいているのに、表側の私はまだ気を失ったままです。

「なあ、どうした？」なあ、どうした？なあ、どうした？  
と従弟。

その声に我に返った私を見た彼の「あー、よかった…」  
と言う声がぼつりと聞こえました。

気がつくど、私は痛烈な胸の痛みの襲われていて「痛い、痛いなんでもんじゃない。」と思いつつも思わずお茶を飲みました。

従弟が「兎に角、冷静にしようか。もう一度飲んでみて」  
やっこのことでもう一度お茶を飲むと、私も食道と胃はお茶を正常に通過させたと思えました。

次は、激痛の中心を探ってみます。

…真ん中よりほんの少し右側の胸の辺りの激痛。

これは、心臓ではないな…  
次に従弟が

「お前大丈夫か？」と聞いて来た時には、これ、緊急事態。  
私、多分死んでしまうのだろう…。  
そう思いました。

頭の中で様々な思考がぐるぐる回り始め、まるで走馬灯  
のようです。

何故、また従弟の家で？

えー？帰ろうか？家に…

いやいや、無理だ。でも、お客様の家じゃなくて良かった…  
た…

だけど、なんだか可笑しすぎる。

なぜ、よりによって従弟の家で最後を迎えることに？

思いかえせば、3カ月前は、急にお客様の給付金が多くて、  
「若い人達も40、50代になれば給付金も多くなるよね、  
私ほもっと上だから自分の事も考えようかな、私は癌よりも  
心臓系だ」と思う。病院はどこがいいかな…

県立総合病院がいいな、先生は…分らないし、ちょっと  
おこがましいかも。だけど腕が1番良くて、尚且つ私に合  
う先生に会えるはず！よし、このマインドセットで大丈

夫！」と思って、その後すっかり忘れていました。

「そうだ、県立総合病院に行ける！」

3か月前に、軽く心に思ったことがよみがえってきたの  
です。

しかし、私も従弟も一度近い街の病院に行くのがステッ  
プだと感じたので、最初に町医者のところに行くことにし  
ました。

その時です。

「またもや上の方から「大動脈解離」という言葉が響きま  
した。

「こんな時に精神感応するなんてと思いました。」「これ、  
すれすれで間に合うからだな！」と思いました。

しかし、激痛で半分以上もその時のことを覚えていません。  
後で診療明細書を見たら2つ検査をしたようです。

「先生、早くして…」

あまりの痛みに、早く何とかしてほしいと言う気持ちは  
かりが走っていきます。

「県立総合病院に行けるけど救急車を呼んで行くのと、  
自分達の車で今から行くのと同じ時間だけどうします  
か？」

と聞かれましたが、救急車をずっと待つのは痛くて気が遠  
くなりそうなので、従弟に車で連れて行ってほしいとお願  
いしました。

「大丈夫だよ、これだけ県立総合病院と言う言葉が聞こ  
えてくるのだから、天が道が用意をしてくれたんだ！」と  
思いました。

それでも少しだけ願掛けをしました。

「道が空いていますように！」と。

あとで気づいたことですが、この町医者 of 病院に着いた  
のは、終わり時間すれすれだったようです。たまたま夜の  
当番が内科の医師だったようです。

偶然はないと言いますが、この偶然の采配に感謝せずに  
いられません。

しかし、胸はさつきよりも、もっともっと痛くなってい  
ます。

そんな時でも、頭はしっかりしていて

「あ！そうだ「家に電話をお願い、もう弟が居ると思う」  
と従弟に伝えると

「私は上司に電話を掛けなくちゃ、書類が2〜3件有る  
から。来て、支部長！」

「あ！そうだ「家に電話をお願い、もう弟が居ると思う」  
と従弟に伝えると

「あ、また、お腹が痛くなって来た。  
トイレに行って来る！」

「あ、また、お腹が痛くなって来た。  
トイレに行って来る！」

「あ、また、お腹が痛くなって来た。  
トイレに行って来る！」

「あ、また、お腹が痛くなって来た。  
トイレに行って来る！」

「あ、また、お腹が痛くなって来た。  
トイレに行って来る！」

「あ、また、お腹が痛くなって来た。  
トイレに行って来る！」

「あ、また、お腹が痛くなって来た。  
トイレに行って来る！」

「あ、また、お腹が痛くなって来た。  
トイレに行って来る！」

「あ、また、お腹が痛くなって来た。  
トイレに行って来る！」

「あ、また、お腹が痛くなって来た。  
トイレに行って来る！」

「あ、また、お腹が痛くなって来た。  
トイレに行って来る！」

「あ、また、お腹が痛くなって来た。  
トイレに行って来る！」

「あ、また、お腹が痛くなって来た。  
トイレに行って来る！」

「あ、また、お腹が痛くなって来た。  
トイレに行って来る！」

「あ、また、お腹が痛くなって来た。  
トイレに行って来る！」

「あ、また、お腹が痛くなって来た。  
トイレに行って来る！」

「あ、また、お腹が痛くなって来た。  
トイレに行って来る！」

「あ、また、お腹が痛くなって来た。  
トイレに行って来る！」

でも、「もうスマホは終わりにして」と言われてしまった。連絡は明日でも良いかな…

激痛の中でも、そんなことを冷静に考えられる自分がおもしろい。

いつのまにか、洋服がスルーと脱がされて病衣になっている。

早いなあ！

すると、大阪弁の男の声の上の方から聞こえて来た。「バームクーヘン食べていたの？あんた、バームクーヘン好きなん？」

「は？」  
なぜか、こんな会話を誰かとしているのですが、そこに誰かがいるわけはありません。

ベッドに寝かされた私は、ついに

「痛いっってば、先生！痛いのを取って〜！」と叫んでいました。

「ライン ライン!! 早くしろ!!!」と医師が大声で命令している声が聞こえます。

そこに麻酔科医が現れました。

「わ〜〜凄い、カッコいい!!!」  
女性の麻酔科医、しかも綺麗で女優さんみたいです。

そんなことを思っていると、あら、恥ずかしい〜剃毛です。  
続いて、あらら 尿道カテーテル〜恥ずかしい。

「痛い、痛い〜！先生痛いってば！お願い!!早く」  
すると、また知らない大阪弁の男が「バームクーヘン」と囁く。

その時、「大動脈解離!!」と医師が言いました。  
町医者に行ったときに、上の方から聞こえた声と同じです。やはりです。

コンタクトを取りました。  
マスクラも取りました。

いよいよよか！私も！  
という感じは、実は無くて、気分はごく普通。

「お〜ドラマみたい。凄い、この瞬間に起きていることの全てを聞いて覚えておこう。」

激痛があるのに、自分が置かれている状況に対しては、極めて冷静な目をもって観察している自分がいきました。

左側の点滴は少しだけ痛かった。のですが、右側は痛すぎて、針が入らなくて点滴が出来ない…。

その時にそれは起こりました。

あれ？

自分が見ていた方向がクル、クルと変わっていることに気づきました。

私は上から私を見下ろしていたのです。

幽体離脱!?

「早くしろ!」と言う医師の声が聞こえます。

「だって、ほんとに痛い…。」

激！激痛、まるで陣痛の痛みが胸で起こっているような感じです。

むしろ、手術を目前に初めてのワクワクを感じていました。

変な私。

私は、自分の挿管を見たいし、自分の手術も見たいと思っていました。

「輸血準備」という声が聞こえて来ました。

私は「あゝ、私、今変わるんだ〜」と。

そう思ったその瞬間に、暖かく光が差してゆったりした気分になっていました。

まるで空母の中で静かで安心な感覚です。

空母の中にいるのは、私と医師と看護師さんの3人かしら？

そんなことを思っていたのですが、多分私は、この時、ゆったりゆったりと天国に進んでいたようです。

あれは行った事が無ければ分からない感覚だと思えます。

何も怖く無い空間がそこに広がっています。



「その時「挿管!!」と言う声が聞こえて来ました。ドラマみたい!!挿管っていつなの?先生?まだ?」

「大きく吸って〜」

この後は何も覚えていません、気が付いたらベッドに寝かされていました。

モニター、機器、管など凄い数が身体に繋がっています。

まず、医師から説明を受け、次は麻酔の先生からせん妄の話を書きました。

ただ痛いだけだと自分に言い聞かせ、スマホで連絡しなければならぬ人に電話をかけました。

「早朝にすみませんびっくりしましたよね。術後に電話するなんてやりすぎですわ…」

そう言えば出産後も元気が良すぎると言われた私!

スーパーマリオのゲームで金色のコインをキラキラ沢山

取る感じです、これ。

私、興奮していますよね。

誰かがヒソヒソ話をしていると思ったら、今度はベッドの足をギンギン揺らすのです。何回も揺らすので怖くなり、このまま眠ったらまた死んでしまう、眠ったらいけない!と、本当に怖い思いをしました。

しかし、看護師さんに聞いても「ベッドの足元に誰もいませんよ〜」の一点張り。

「揺ら揺らなんか、してないですよ」と言われてしまいました。

その内に朝が近づいて来たので、少し安心して眠れましたが、これ、せん妄のせいでしょうか?

術後2日目からは術後よりも少し起きていられました。

やりっぱなしの仕事があるのでメールしなくてほと、アポイントのキャンセルと上司への引継ぎを少しづつしました。

6日目あたりに不意にスマホが鳴ると、次男からでした。事の経緯を簡単に説明し、「思ったように生きていられる事が凄いでしょ?」と言うと、「あなたね、なんて言われたか知ってるの?俺達の気持ち分かる?生存率10%だよ、たとえ30%としても死んでしまうか後遺症が強いかもしれないと言われたら、夜通しまんじりともしな

弟が来てくれました。

コロナ禍だったので、静岡外に住んでいる息子たちには会えず、がっかりしましたが、あの子たちがいたら、私、泣いたかもしれません。

凄く静かな病室で、医師や看護師さん達もいるから安心です。

仲間のみなさんがレイキを送ってくださいると、ピンク色の無数の目と口がスマイルしているのが見えて来ました。

次の日はグリーン、また次の日は紫と何日も見えました。

レイキの遠隔ヒーリングは本当に嬉しかったです。

ありがとうございます!いっぱいです。

そう言えば、その時もカタカタ、カタカタカタカタとキーボードを叩く音が何回も聞こえて来ていました。

不思議ですが、その音を聞いて、多分私は本を書く…、と思いました。

それからは、ほぼ眠っていたと思います。

暗かったので夜です。

看護師さんが来ては去り、また別の看護師さんが来ます。

「かった。」と言われました。

本当にごめんなさい、術後直ぐに入院の持ち物を揃えて名前を一つ一つに丁寧に書いてくれたよね。

そう思ったら、愛しくてたまらない。

息子たちの事を思ったらぼろぼろ涙が出ます。

止まらない涙です。

さて、仕事もこの位で良いかなと思ったら眠気が襲ってきます。

でもこれ、なんだか少し嫌な気がします。

もしかしたら…私、話せなくなっているのかもしれない。怖い。

恐怖が襲って来ました。

眠ったのか、興奮して朝まで眠れずにいたのかもわからず、私はただじっと横たわっていました。

朝の検温時には、やはり言葉がほぼ出ない状態になっていました。

ああ、やっぱり…。

そこで、私の言語能力がどこまで残っているのかチェックしました。

家族の名前は漢字で書いたので先ずは良かったと思いき  
した。

その時、お客様からラインが入って来ました。  
でも、込み入った内容なので、上手くラインに返信が出  
来ません。

どうしよう…、と思いましたでしたが、昨日息子にノートが  
欲しいとリクエストをしたものがあったので早速使うこと  
にしました。

書けるなら書きましょう。

ビックリしました。

汚い字ですが、なんとか書けたのでスマホで写真をパ  
チリ！

少し手際が悪く、まごまごしましたが出来たのでホッ  
しました。

なんでも使えば言葉の代わりにできるかな？と思っ  
た、私大丈夫かな？と思ったりすると、感情の波が寄せて  
かえり、寄せてはかえりしていました。

そんな時、看護師さんが私のスマホをいじったのでセ  
キュリティが働いてホームボタンが使えなくなってしまう  
ました。

チをパチッと入れたとたん、モーター音と振動が怖くて、  
顎が外れそうになるほどガクガクしてしまったことがあり  
ました。

やっとの事で消しましたが、自分でもびっくりました。  
スイッチを消すとその後にはブーンと焼けた血の匂いが  
しました。

これは、多分手術中の記憶が戻ってきたのではないかと  
思います。

麻酔をしていても分かるのかな。  
表面的には何もわからなくても、本当は怖かったんだな  
…と思いました。

当時は分けもわからず、気づいたら泣いていました。  
今では、しみじみと泣いています、やっど怖かったのだ  
と気がつきました。

母の態度が少しそっけないなと思っていたら、従兄弟や  
息子たちは、私がきつと死んでしまうだろうから、母を驚  
かせないように「ちょっと入院しただけ」としか言ってな  
かったとのことでした。

みんな、私が死んだらどうしようと思っていてくれたの  
です。

病院の入院期間が過ぎて、リハビリ専門の病院に転院す

嘘でしょ？…

参った！スマホが使えなくなってしまった…。

家族も頻りに面会に来れませんし、どうしたらいいんだ  
ろうと、目の前が真っ暗に。

しかし、その時、こんな考えが浮かびました。

これは本当にゆっくりと休みなさいと言うサイン。  
医師も看護師さんもいるから安心しなさい。

今こそ頭の中の使っていない情報を捨てる時です。

そして、今は出来る事だけでいいかなと思ったら気が軽  
くなりました。

もう会社を辞めようと思っていたのに、検温時に言葉が  
出ないから、ネームバンドを見て、なんとか自分の名前を  
言おうとしていたのですが、口から出てくるのは、なぜか  
会社の個人番号だったり…。

脳は不思議です。

時間が経つにつれ、名前の代わりに個人番号で応えてい  
る自分を思い出すと可笑しくなってニヤニヤするようにな  
りました。そんな姿を見ていた医師と目があって2人で爆  
笑などというシーンもあるようになっていました。

そう言えば退院をしてからの事ですが、掃除機のスィッ

ることになると、「いつも何をしているの？」と聞かれた  
ので、5次元の話やルノルマン・リーディング、タロット  
カードの話をしました。

いろんなものがそぎ落とされたけど、やっぱり好きなん  
だ…これ、と思いました。

会社からは中々復職の許可が貰えなくて、時間が掛かり  
ました。

私のクライアントさんたちが、会社に対して、私が来な  
いなら解約すると真顔で言うてくださったので復職が出来  
ました。蒔いた種を刈り取るといいます、仕事が出来  
るまでやりっぱなしだったので、ただ「ごめんなさい」と言  
いたい一心から復職しなかったのです。

私の家の二階の窓から見える空は狭いのですが、いつも、  
そこから月や星を見ました。

ある晩、どうしても空が見たくて窓を開けたら、半分だ  
けオリオン座が見えました。

オリオンの三ツ星が見えます。

これはタロットで俗にフルルと呼ばれる最初のカード  
「Le mat (ル・マン)」の象徴の一つです。

あ、何か新しい講座が始まるかも？と直観しました。



その直後、思った通り「5次元ライフナビゲーター養成講座」が始まるというお知らせが送られてきたのですが、今の自分に、出来るのか？が不安でした。できるかどうかなんて、どうでもいい。私が好きなのをすればいい。

講座に出席し始めると、なぜかまた、あのカタカタ、カタカタとキーボードを叩く音が聞こえるのです。これは、病院で、レイキを送って貰った時と同じ音。不思議です！

あ、あの時、本を書くことになると感じたのは、この先にある未来のことだったのか？

そして、生命の危険を乗り越えて、今の未来に私はいる。

今私は、宇宙の中から今、ここを見ている感覚に至りました。

タロットカードで示すとしたら、0であり2でもある「ルマツ」 変容の13「ヌメトロレーズ」、そして宇宙の中心の方向を示すゲートに立つ節制の14「タンペランス」。

新たな私が、変容を経て癒され、そして完結から再び新に出発する。

私は、数時間後の未来から聞こえて来た声に助けられたのです。

時間は、過去から未来に流れているだけでなく、未来から今、ここにも流れて来ている。まさに、5次元ライフを体感し体験していたのです。

しかも、生命掛けで！

なんて、私らしいでしょう。

自分の名前が言えなくなって、会社の個人番号を覚えてしまうようになった時、それがおかしく一緒に笑いあった医師の声。

その声は未来から放たれた声だったのです。

後で知りましたが、この担当医師はその年の4月からの新任でした。

だから、以前に会ったこともないし、ましてや声を聴いたことなどない方です。

これが私の5次元ライフです。

未来から声が来た！

そして、私の思った通り、生き残れた！です。

そんな宇宙のサイクルの中にあることを実感しています。

私は大動脈解離Stanford Aでした。

このStanford Aは緊急の中でも緊急の状態で、多くの人が間に合わず生命を落とす症状だと、あとになってから知りました。

あの時、とっさに素早く行動出来たのは、「そんな場合じゃない！早くしろ！」という誰かの声に促されたからでした。

それは、そこにいた従弟の声ではありません。

いったい誰の声でしょうか？

知らない若い男性の声でした。その声に従いながらも、誰？誰の声？と不思議でならなかったのですが、その声の主が誰だか、あ！と気が付きました。

私の担当医の医師の声だったのです。

彼は、「早くしろ！」と何度も何度も叫ぶように看護師たちに向かって言いながら、緊急事態を乗り切ってくれた会ったこともない若い男性の声。

その声は、私が大動脈解離を起こしたその直後から、私を見守り「早くしろ！」と声掛けを続けてくれた若い医師の声だったのです。のです。

ただ、一点注意をしておきますが、こんな緊急事態になっても未来から

「早くしろ」と言う声が聞こえてこないから、急がなくてもいいんだ！などと考えないことです。

一人ひとりにとって、5次元ライフの様相は違います。

そこに、その時、一番良い方法があるので、信じて行動することです。それが救急車に乗ることであれば、素早く救急車に乗って、病院に向かって下さい。

そして、緊急手術の中でも、好奇心を持って、まるで自分が主役のドラマに出演しているかのように、登場人物を観察して、楽しんでくださいね。

もちろん、あとになって手術のトラウマが出てくることもあると思います。

でも、それも癒されて行くのです。

だから、光の道を進んでください。

それが、すべては、あなたの思った通りになる5次元ライフのコツだと思います。

### 第3章 ◆タイムラインを行き来する時間の不思議

#### 1節 異なるタイムラインにジャンプし続ける

## Ⅶ. 5次元の自由 5次元思考で人生を大逆転させた ヤサグレ女子の強運

寺本 恵理

プロフィール

5次元思考で人生を大逆転させた元うつ病患者のセラピスト。兵庫県在住。  
幼少期 感情表現が不器用な両親に未熟な愛情を受けて育ち、大人になるにつれ現れる様々な不調や生きづらさを抱えてパニック障害を発症。不安障害やうつ病を患うも、自然療法や代替医療を学び実践をして自己を取り戻すことに成功。アロマやレイキを盛り込んだリフレクソロジーを恩師から継承し、S.I.V.の手法を用いたカウセンセラピー法を取り入れた心身の癒しメニューを考案。現在は、年齢性別を問わず絶大な人気と信頼を集めるセラピストとして活動中。



その頃のわたしは、完全に自我が崩壊していました。口から出る言葉と本心がいつもズレていて、一つの体の内側はまさに「分裂」していました。  
思考はいつも定まらず不安定で、お薬に頼るしかを平常心を保つ術が見つかりませんでした。  
そのお薬は「迷い」の基となる「感じる」ことを封印するためのもの。

結果、しなければいけないことだけを考えて機械のように生きていました。

あんなに好きだった音楽が聴けない。

絶対音感がとれなくなりました。

味もわからなくなりました。

食べ物をお口にするただジャリジャリして砂を囓るようなうでした。

つらい、苦しい、痛い、を感じなくなると同時に、楽しい、嬉しい、美味しい、もわからなくなりました。

しまいには、自分が生きてるのか死んでるのかさえわからなくなりました。

自分を傷つけて流れる赤い血を見て、やっと生きていることを確認していました。

自分を傷つけるのは平気でした。

なぜなら、痛みを感じないから。

### ◆生い立ち／親との依存と共依存

幼少期から始まった、両親による暴力という虐待は、なぜ自分がそうされるのか、いつも理由を探していました。

ごく普通のサラリーマン家庭に生まれ、6歳下の妹と両親の四人家族。妹が生まれる頃、世渡り下手な父親のストレスが限界を越え、逃げるように両親の友人宅へ身を寄せられることもありました。

その頃から、わたしは、毎晩のように父親から大声で怒鳴られていました。職人だった父の、グロープのように固い手で叩かれるようになりました。ただ居間でテレビを見ているだけなのに「勉強終わったんか!」と怒鳴られました。宿題は終わったけど、勉強に終わりは無いので言い訳ができなくて、ひとり居間から離れて自分の学習デスクに向かいました。

小学4年生だったある朝のこと。いつものように集団登校の列に並んで歩きながら、なぜ毎日自分は父親から怒鳴られて殴られるのかを考えていて、初めて1つの着地点を見つめました。とりあえず、自分が叩かれることで、お母さんと妹が叩かれないのならそれでいいや、と。父親から叩かれることへの意義?のようなものを見つけて、やっと納得したのを覚えています。それは変な感じで派生して、いつしか「人の嫌がることを引き受けるのが自分の役目」

という妙な使命感に辿り着いてしまいました。  
みんなの嫌がることを引き受けたら、ここに居ることが許される。

それから、わたしは怒られることでみんなの役に立ってる!と考えるようになりました。

いつしか自分の存在価値は「人の嫌がることを引き受けることで認められて愛される」ところまで発展しました。

逆に言うと「他人の嫌がることを引き受けないと、誰からも愛されないし必要とされない」という思い込みが記憶に刻まれました。

大人になったわたしは、何をすることも親の気に入る選択をしました。叩かれないために、怒鳴られないためにも何を選択して喜ばせればいいのか。それが親孝行だと思っていました。両親に褒められたい気持ちもどこかにありました。進学も就職も、結婚も、みんな親の提示してくる条件内で適当な居場所を見繕いました。

時々ひよっこりと、本心が揺さぶりをかけてきます。本当にそれでいいの?と。本心で選ばなかった就職先では、年配のおばさんに虐められ振り回されて自己嫌悪に陥り一年で退社。結婚生活は価値観の違いがお互いを苦しめ、元夫はギャンブルで借金を繰り返すようになり、貯金もあっという間に返済で消え、さらに借金まみれになって6年で離婚。

シングルマザーとなり新生活を始めたわたしを迎えていたのは、両親からの「恥さらし」という一言でした。とても実家には戻れません。息子のために用意していた学資保険を解約して、なけなしのお金で賃貸ハイツを借り、新生活を始めました。

それがわたし。そのためにわたしは生きている。

そのまま成長して大人になり、何をするにも親の気に入る選択をしました。

進学も就職も、結婚も。

みんな親の提示してくる条件内で適当な居場所を見繕う。

たまに自分の希望を出したところで問答無用で却下。大学に進学したいと話した時は「自分で学費を稼いでいけ」と言われ、あっさり断念。

結局は親孝行のつもりで、親の納得する就職をして、親の気に入る結婚をして、親を安心させることに終始しました。

「これでいいんだ、これでいい。」これがわたしの生きる道。

しかしそんな選択をして上手くいくはずがありません。就職先では年配のおばさんに虐められ振り回されて一年で

退社。結婚も価値観の違いがお互いを苦しめ、夫はキャンセルで借金を繰り返し、貯金をあっという間に使い果たし借金まみれになって6年で離婚。

シングルマザーとなり新生活を始めたわたしを迎えていたのは、両親からの「恥さらし」という一言でした。とても実家には戻れません。息子のために用意していた学資保険を解約して、なけなしのお金で賃貸ハイツを借り、新生活を始めました。1999年7月。32歳の時。

その後も落ち着いた暮らしはさせてもらえず、親からも世間からも、信じては裏切られ、奈落の底に突き落とされる日々を生きていました。当時はまだ母子家庭に世間の目は厳しく、見下され、足元を見られ働きづめの毎日。働いても働いても生活は追われる一方で、ついには職場の片隅で涙が止まらず立ち上がれなくなって、初めて精神科を受診することになりました。

診断名は、全般性不安障害、パニック障害、うつ病。

それでも働かねば家賃が支払えず、毎朝泣きながら会社に向かう辛い日々が続きます。そんな中、職場には同じような不遇な過去を持つ後輩男子がいて、不定期な休日しか取れなかったわたしのかわりに息子の遊び相手になってくれました。後に、夫となる後輩男子Ⅱきた

ちゃんとの出会いは唯一の救いでした。

その頃にはもう毎日薬漬け。お腹がいっぱいにならない大量の精神薬を飲んでいたので、一向に楽にはなりません。いっそもう死んでしまいたい。消えたら楽になれるかな…と出口の見えない長くて暗いトンネルに迷い込み、泣いてた矢先に次男を授かるのです。

思いがけない妊娠はわたしを混乱させました。

慌てるわたしに主治医の提案は目からウロコでした。胎児に影響があるのは長くて一週間程度。胎児へのお薬の影響はまだまだ微量。その一週間で後悔やむより、これからの10ヶ月を健康的に過ごしませんか？と。

その一言で妊娠は継続することとし、大量の薬を全部その日のうちに止めました。

精神薬は急に止めてはいけないと言われる通り、地獄の離脱症状に三日三晩苦しみ、精神薬の怖さも身をもって体験しました。二度とこの薬は飲みたくない！何があってももう飲まない！と決めたのもその時でした。

#### ◆人生は自分で決める！

次男を出産後、本格的に「自ら健康になる身体を取り戻すため」の、道無き道を歩むことになりました。

なにしろ、周りに同じ考えの人がいません。情報は全てインターネットの中から集めます。

しかしそれが、出産後、不眠症に陥っていたわたしには好都合！漢方薬、自然療法、代替療法、あらゆる可能性にかけていく中で、様々な壁にぶつかり断念してを繰り返して、最後にもう薬をもつかむような気持ちで、一番怪しくて後回しにしていたヒーリングの世界に踏み込むことになりました。

まもなく知人のヒーラーさんから、遠隔でレイキアチュアメントを受けますが、強烈な好転反応に翻弄されて一旦は心が折れ、二人目のレイキティチャーに再アチュアメントを受け、そこからまた人生が一気に加速して動き始めます。

並行して代替医療のアロマセラピーを本格的に学び、植物の力をより身体に活かすためアロマトリートメントを受けたところ、あまりにそれが効果的で、ついには自分でも施術を学び、日常の暮らしにアロマセラピーとレイキヒーリングを取り入れていきました。

当時のアロマとレイキの先生は、とてもスピリチュアル

な方でした。神話や歴史にも深い知識をもたれており、複合的なセッションを受ける機会に恵まれました。メディアカルアロマを学んでいた頃、ミルラの香りがどうしても、血の匂いを連想させて苦手だったことを先生にお話すると、先生はあっさり「あなたは古代エジプトの時代、ミイラ作りに携わっていたのですね」言われて驚いた次の瞬間、妙に納得する自分がいました。なるほど！だから、わたしは人体に深い興味があり、人体実験も大好き。そんな自分が解明されていくなんて！スピリチュアルっておもしろい！

しかし、わたしはスピリチュアルに傾倒するよりも、現実の生活をヒーリングで豊かにしたいと考えていました。見えない力を見える現実に活用し、心と体の健康を取り戻したい気持ちが強くなり、現実的かつ日常的なヒーリングの活かし方を教えてくれる先生を探して、またまたインターネット上をさまよい歩いて、あるブログにたどり着くのです。そこにたびたび出てくる「5次元」というキーワードが気になり「五次元思考実践ガイド」という本をネットで購入して何回も読みました。はじめはよくわからなかった内容が、何年もかけて読むたびに、どんどん理解が深まる不思議な本でした。今でも定期的に読む、無くてはならない必読本となっています。

自分の内側がどんどん軽くなった頃、次は自分の外側の整理する機会がやってきました。これもまた不安が付きまとい、逃げ出したい気持ちとの葛藤が始まります。人間関係を引き剥がす時の痛みには、一際苦労しました。

大切だと思っていた親が、実は「毒親」だったことを認めること。実の父親とは「依存と共依存」の関係にあったこと。相手がいることへの引き剥がし作業には罪悪感との闘いになりました。大切だと思っている人を自ら決別していく作業は、まさに身を切る思いで不安しかありません。でも、自分に必要なものはちゃんとやってくる。必要なものはちゃんとある。ないものに目を向けるのではなく、今あるもので事を足らせていく工夫を身に付けました。

全てを引き剥がして捨て去ったら、たった一人になると思っていました。怖かったのは、一人になることだったのかも、と今そう思います。しかし、わたしに必要なチームメイトはちゃんと残っていました。先生や仲間はもちろん、大切な家族もみんな笑顔でいてくれました。仕事をしていくためのお客様も、新しい出会いも、ちゃんとあります。

時間が経ってよくよく考えたら、わたしを利用してしようと思っていた人達が、みんな居なくなっただけが残っています。今は、本当に良い関係を築ける人達だけが残って

◆急加速するスピードと信じて身を委ねる勇氣

流れに乗るとさらに進化的なスピードは加速されて、毎日が高まるのでジェットコースターのように頭がクラクラしましたが、そこでもレイキのセルフヒーリングが大活躍。とにかくこの流れを自ら止めない！と決めて毎日不安と闘いました。感性を取り戻し、磨けば磨くほど、必要なものや人が向こうからやってくるようになりました。

2013年頃からはSkypeで繋がるリモートのワークショップに出るようになり、初めて時空を超える不思議な空間を体験をしました。個人セッションも受けるようになり、過去の思い込みやトラウマをどんどん外していきました。自分では気が付かない思い癖や古い信念は、一つ一つ指摘を受けないと気が付きません。またその古い信念や要らない思い込み、過去のトラウマ等を、自ら引き剥がして捨てる作業は思いのほか怖い。特に、古傷を隠していた絆創膏を剥がす時は、いつも強烈な心身の痛みが伴います。

ヒリヒリ痛む傷口を自ら絞り出して膿を出す作業は、何度経験しても慣れません。痛みに耐えきれず去っていく仲間もたくさん見えました。でも、わたしはどうしても変わらなかつたから堪えました。「変わりたい」という想いの強さが、うまく発揮されました。

気が付けば、わたしはストレスから解放されていました。現在パニック障害は少し残りましたが、お年頃な不調も含めて、自己コントロールできていたので問題ありません。10年前はやつとの思いで乗れた新幹線、今は飛行機だって一人で乗れます。わたしは自由になりました。もうわたしに暴言を吐く人も暴力をはたらく人も居なくなりました。

◆感性を取り戻す

一度は失った「感じる」という、人として大切な能力を取り戻す過程でわたしは、進化させてきたのかもしれない。親の顔を常にうかがう幼少期の体験も、人が放つオーラを瞬時に察して最適な対応ができる今に繋がっているように感じます。絶対音感で音を聴き分ける感性が、手のひらから細胞の振動を聴き分ける感性に進化しました。うつ病が酷かった時、まったく料理の作り方を思い出せなくて、もう二度とできない絶望感に陥ったけど、嗅覚や味覚が元気になるまで全て思い出せるから人間の脳って不思議です。

失った感性を取り戻したいと自己流のリハビリとして実践した経験談を少しお話しします。



まず美術館に通いました。

元々絵心は無かったのですが、筆が表現する繊細な線、混ざり加減で幾重にも見える色に引き付けられ、また平面に現れる光の立体に心奪われて、エル・グレコの「受胎告知」という絵の複製品を購入し、玄關に飾ることにしました。

さらに、好きなコーヒーマーの香りからイメージを膨らませて、豆の産地、気候、収穫に携わる人々を想い、言葉にして書くことも、しばらく続けました。

その上で、師と仰ぐ人の意見は、すぐに理解できなくてもとりあえず信じて実践してみることも心がけてきました。

わたしは本当に呆れるくらい、この人！と決めた人の言葉は信用します。

自分の嗅覚を信じて、それに基づいて行動できること、これが実はとても難しいことだったりします。ただ自分を信頼する、こんな基本的なことすら、とても難しかったりするのです。

意図したことが現実になる、五次元思考で生きる5次元ライフに自分の意思や想いは重要です。

自分で考えることも不可欠です。選択を他人のせいになんないことも大切です。

そして目には見えない思いにつき動かされて、現実的に見える形で行動する事で現実化します。

たち世代が今、変化することを求められています。

古い価値観から新しい価値観へ自ら塗り替えなければ自然に淘汰されます。個性は病名を付けて、お薬で封印されてはいけないものです。

令和の時代はみんなが軽やかに、自分の個性を大切にしたい、活かして生きられたら楽しいと思います。

#### ◆ 最高の強運を引き寄せる五次元ライフ

最後に、わたしには三人の偉大な恩師がいます。

一人目は、わたしに正しいレイキと精神性を伝授して下さったまゆふ先生。

二人目は、わたしにレイキヒーラーとしての施術と生き方を教えて下さった本田文先生。

三人目は、五次元思考と溢れる愛をもって導いて下さった寿樹一留先生ことJJJJさん。

みなさんと出会えたわたしは最高に強運の持ち主でした。ありがとうございます。

つまり、見えない世界と見える世界が融合したところで、思い通りの未来が創造できます。

それが五次元ライフを生きるためのコツではないかと体験から思います。

おそらくそこに近道はありません。

上手くないことを他人のせいにもできません。

自分の人生は自分だけのものです。

そういった「精神的自立」をすることは今すべての人に必要なことではないかと考えています。

結局わたしは最初からずっと、わたしでした。

病名がついても、つかなくても、わたしであることに変わりなかった。

自分を犠牲にして他人のために尽くしなさいとか、人と足並みを揃えることが大事、なんて昭和の、しかも戦後の時代のお話です。戦争に負けてものが無かった時代は、生きるためにそれが必要だったのでしょう。

平成を経て令和の今、その考え方は古臭くて時代に合っていないません。物が溢れかえる今の時代は、自分に合ったものを自分で考えて取捨選択する力が必要です。

個性で勝負する時代に、個性を潰されてはなりません。

昭和に生まれて平成を走り抜けて、令和を生きるわたし



## VIII. 神君が教えてくれた 5次元の現実 〜願望達成する5次元の仕組み〜

たつみかずよ  
辰巳和代

〈プロフィール〉

大阪在住で生粋の関西人。

現在は兄の会社で事務をしつつ、依頼があればマルセイユタロットやルノルマンカードを使ってリーディング。

「成幸の女神」として、縁のあった皆さまと成功と幸福、そしてたくさんの豊かさを分かち合いたいと思っています。よろしく願っています。

Facebook



ました。そのヒーリングサロンにはKさんというとても不思議な方がいて、なんでも「聞いたこと、見たもの、話したものが現実になる」というシンクロシティを上手く利用した方でした。

そのKさんが認識したとおりの現実が起こるという現象を何度も目の当たりにして、「こんな人がいるんだ！こんな世界があるんだ！」と本当に驚きました。

そしてKさんは「僕と一緒にいるとシンクロシティを起させるようになるよ」という言葉通りに、私が一人でいても数分前に会話したものがTVに映ったり、エンジェルナンバーを見ることが頻発に起こりました。

例えば龍について会話をしていると、数分後に龍にまつわるものが次々と出てきました。看板だったり、オブジェや置物であったり、スマホを見ると龍についてのニュースが出ていたり。

また「僕と一緒にいるとラッキーなことがたくさん起こるよ」との言葉で、欲しいものが安く買えたり、ショップに入るとサービスされたり、周りの方からプレゼントとして貰えたりしました。

「Kさんが認識したとおりの現実になる」という現象でたくさんの恩恵を受けました。

Kさんはその能力を使って、人の願い事を聞いて叶えるということをしていたので、私は何度もお願い事を伝えま

凛です。

私のJUJUさんと、そして五次元思考の出会いのは9年前になります。

京都でのルノルマンカードの上級講座の日でした。

生徒は私ひとり。マンツーマンでの講座だったので、とても緊張したのを覚えています。風邪をひいていて鼻水でグスグスしながらルノルマンカードを挟んでの対面でした。

その2日後に上級講座2と初級・中級の講師講座でMIさんと対面し、連日続けての受講はとても過密で濃厚な時間でした。

初めて聞く「五次元思考」にとっても心が歓喜したことを覚えていきます。

そして「思考が現実を創る」という話がとても分かりやすく、すんなり頭に入っていくと同時に、とある人の不思議な能力が理解できた瞬間でした。そしてその方の話でも盛り上がり時間が忘れて大笑いしたことを覚えています。

JUJUさんと出会う1年程前の私は、マルセイユタロットを使ってヒーリングサロンで占い師をやっていた。

した。叶えたいことがたくさんあったので本当に何度もある。ただKさんと手を握って願い事を伝えるだけでしたが、不思議と願いは叶うと思えるのでした。

自分自身のこと、そして家族のこと、お金のこと、会社のことをお願いしました。

Kさんは願い事を聞きながらいつも笑っていました。

そしてKさんの言葉には力があるようでした。

「大丈夫だよ。僕が凛さんは幸せになるって思っているから現実になるよ。」

「未来だけじゃなく過去も変えられるんだよ。凛さんが幸せになるためにお兄さんと弟さんがいるんだよ。会社も凛さんが幸せになるためだよ。」

「凛さんはお金持ちだよ。弁財天がついているんだよ。」

「凛さんのお兄さんの会社は安泰だね。凛さんは人の運を上げる人だから」

いっぱい嬉しい言葉をいただきました。

そして楽しいことも増えていきました。

Kさんはパラレルワールドの話もしていました。

Kさんが認識したことでパラレルワールドができ、また過去と未来の事象ができることでした。

Kさんの話は不思議なことが多くてJUUJUさんに出会う前の私はよく理解できていませんでした。

ただKさんの能力がすごいのだという認識だけでした。

そして6年前にJUUJUさんと出会うきっかけもKさんからでした。

ある日「凜さん、占い師だけじゃなくて何か教える講師とかしたら？」と言われました。その時の私はタロットを教える自信などなく、人に教えられるものなどありませんでした。

でもなぜかやってみようと思ったのが不思議です。

そしてふと目に入ったのが、当時オラクルカードとして使っていたルノルマンカードでした。

10年ほど前に可愛いカードだと思って衝動買いしました。ただ買った当時はカードの意味が掲載されているサイトがなく、使い方がわからないままオラクルカードとして使っていました。

ルノルマンカードを見ながら、もしかすると今なら講座とかあるかもしれないと検索したら1件の教室が出てきました。この講座に参加してみようかと思いつつ、ルノルマンカードから目が離せず気になったので1枚カードを引いてみました。

すると出てきたがねずみのカードでした。  
ここじゃないって感じが強くて笑っちゃいました。

そして先程検索したのは大阪の教室だったので、次に関西で検索してみたら京都に教えてくださる先生のHPがでてきました。

ここでまたルノルマンカードを1枚引いてみると太陽のカードだったので、すぐに受講希望のメールを送りました。先生からはすぐにお返事をいただき、希望通りに講座を開催してくれルノルマンカードを学びたいという願いが叶いました。

先生の講座もマンツーマンで私しか生徒がいない状況で緊張しつつも、新しいことを学ぶ楽しさがありました。

先生も同じマルセイユタロットを使っていることがわかり、またその時先生が持っていたクリスタルワンドが素敵で話がはずみ、いろいろ話をして講師を目指したいという希望を伝えました。

すると先生がスマホを使って誰かに連絡を取り、私の希望をその方に伝えてく

ました。そのヒーリングサロンにはKさんというとても不思議な方がいて、なんでも「聞いたこと、見たもの、話したものが現実になる」というシンクロニシティを上手に利用した方でした。

そのKさんが認識したおりの現実が起こるという現象を何度も目の当たりにして、「こんな人がいるんだ！こんな世界があるんだ！」と本当に驚きでした。

そしてKさんは「僕と一緒にいるとシンクロニシティを起させるようになるよ」という言葉通りに、私が一人でいても数分前に会話したものがTVに映ったり、エンジェルナンバーを見ることが頻発に起こりました。

例えば龍について会話をしていると、数分後に龍にまつわるものが次々と出てきました。看板だったり、オブジェや置物であったり、スマホを見ると龍についてのニュースが出ていたり。

また「僕と一緒にいるとラッキーなことがたくさん起こるよ」との言葉で、欲しいものが安く買えたり、ショップに入るとサービスされたり、周りの方からプレゼントとして貰えたりしました。

「Kさんが認識したとおりの現実になる」という現象でたくさんの恩恵を受けました。

Kさんはその能力を使って、人の願い事を聞いて叶えるということをしていたので、私は何度もお願い事を伝えま

した。叶えたいことがたくさんあったので本当に何度もう。ただKさんと手を握って願い事を伝えるだけでしたが、不思議と願いは叶うと思えるのでした。

自分自身のこと、そして家族のこと、お金のこと、会社のことをお願いしました。

Kさんは願い事を聞きながらいつも笑っていました。そしてKさんの言葉には力があるようでした。

「大丈夫だよ。僕が凜さんは幸せになるって思っているから現実になるよ。」

「未来だけじゃなく過去も変えられるんだよ。凜さんが幸せになるためにお兄さんと弟さんがいるんだよ。会社も凜さんが幸せになるためだよ。」

「凜さんはお金持ちだよ。弁財天がついているんだね。」  
「凜さんのお兄さんの会社は安泰だね。凜さんは人の運を上げる人だから」

いっぱい嬉しい言葉をいただきました。

そして楽しいことも増えていきました。

Kさんはパラレルワールドの話もしていました。

Kさんが認識したことでパラレルワールドができ、また過去と未来の事象ができるのでした。

Kさんの話は不思議なことが多くてJUUJUさんに出会う前の私はよく理解できていませんでした。

ただKさんの能力がすごいのだという認識だけでした。

そして6年前にJUUJUさんと出会うきっかけもKさんからでした。

ある日「凜さん、占い師だけじゃなくて何か教える講師とかしたら？」と言われました。その時の私はタロットを教える自信などなく、人に教えられるものなどありませんでした。

でもなぜかやってみようと思ったのが不思議です。

そしてふと目に入ったのが、当時オラクルカードとして使っていたルノルマンカードでした。

10年ほど前に可愛いカードだと思って衝動買いしました。ただ買った当時はカードの意味が掲載されているサイトがなく、使い方がわからないままオラクルカードとして使っていました。

ルノルマンカードを見ながら、もしかすると今なら講座とかあるかもしれないと検索したら1件の教室が出てきました。この講座に参加してみようかと思いつつ、ルノルマンカードから目が離せず気になったので1枚カードを引いてみました。

先生が連絡していたのがJUUJUさんです。

あっという間に講師講座とクリスタルワンドを見せていただくことが決まりました。

また願ったことがすぐに叶った瞬間でした。

JUUJUさんとの出会いは本当に導かれるような感じでした。

ルノルマンカードを使って「未来を創造する」という占術に驚きと感動でした。

Kさんと先生とルノルマンカードが引き合わせてくれたと思っっています。

JUUJUさんの講座で五次元思考に触れた時に、Kさんの能力を理解しました。

「思考が現実化する」という話がKさんを通して私にはすんなりと入ってきたんです。

そしてKさんが言っていた「一緒にいたらシンクロニシティを起こせるようになる」ということも。

そして今自分が願いを叶えられた意味もすんなりと理解できました。

Kさんの不思議な「認識すると現実化する」という現象が言語化されて、科学でも証明されていることに驚きと感動と、そしてKさんだけの能力ではなく誰でも使える

すると出てきたがねずみのカードでした。ここじゃないって感じが強くて笑っちゃいました。

そして先程検索したのは大阪の教室だったので、次に関西で検索してみたら京都に教えてくださる先生のHPができました。

ここでまたルノルマンカードを1枚引いてみると太陽のカードだったので、すぐに受講希望のメールを送りました。先生からはすぐにお返事をいただき、希望通りに講座を開催してくれルノルマンカードを学びたいという願いが叶いました。

先生の講座もマンツーマンで私しか生徒がいないう状況で緊張しつつも、新しいことを学ぶ楽しさがありました。

先生も同じマルセイユタロットを使っていることがわかり、またその時先生が持っていたクリスタルワンドが素敵で話はずみ、いろいろ話をして講師を目指したいという希望を伝えました。

すると先生がスマホを使って誰かに連絡を取り、私の希望をその方に伝えてくれました。

講師講座を受けたいということと、クリスタルワンドが欲しいということ。

能力で、ただ認識するだけでよかったのだと目が覚めた瞬間でもありました。

Kさんという嬉しいことが増えていく一方で、とてもプレッシャーもありました。

Kさんは「聞いたこと、見たもの、話したものが現実になる」

ネガティブな話をする、同じような現象を引き起こしてしまうという一面もありました。

だから言葉は慎重に選び、ポジティブな会話にまとめなければならず、とても神経をすり減らす部分もありました。

ある時、一緒に出かける機会がありました。

その日少し小雨が降っていたのですが、ランチにお店に入ると隣の席から「これから雨が強くなるって天気予報で言ってたよ。」と会話が聞こえました。

そしてランチを終えてお店を出るとやはり雨が強くなっていました。

天気の話は日常会話で挨拶のように頻繁に出てきます。しかしKさんの前では天気の話は禁句でした。

ふと周りから聞こえた声でも現実化してしまうことがKさんはとてもストレスのようでした。

そしてお互いに日常の何気ない会話にも神経をすり減らす日々。

こちらは意図せず会話したことがネガティブな現象を起こしてしまうことも多々あり、Kさん本人も周りも私も疲弊していました。

でも、この経験から日頃からポジティブな言葉を使ったり、前向きに捉えるようになれたので成長できたのかなと今では思っています。

神経をすり減らす日々には疲弊したタイミングで、兄の会社の決算など家のほうが忙しくなったこともありヒーリングサロンでの占い師の仕事を辞めました。

それを機に、Kさんとは会っていません。

今はヒーリングサロンも閉店しました。

でもKさんはまだどこかで不思議な現象を起こし、見た人を驚かしていると思います。

Kさんに伝えた願い事は叶ったこともあるし、まだこれから叶う予定のものがあります。

すべてが叶うことはわかっています。

時間が必要なものもあるので、今は叶う日を楽しみにしています。

私は今、兄と弟に支えられながら生きています。

自由が好きだけど一人はいやだというわがままが叶っています。

兄弟だとお互いが生まれた時から知っていて、同じ親に育てられたので価値観が似ているし、お互いに相手が嫌なものも好きなものも理解しているから、適切な距離感やコミュニケーションが意識しなくても出来上がっているのとても楽なんです。

今の生活を支えてくれている兄弟には本当に感謝しています。

先日も願いが叶ったことがありました。

以前からお正月はどこか旅行をして家のことから解放されたいと願っていました。

正月って家事をしないようにおせち料理とか年末に用意をするんだけど、みんなお休みで家にいるとなると前もって用意していても家事が増えることが多くて本当に嫌でした。

だからお正月こそ家事から解放され、上げ膳据え膳で過ごしたいと願っていました。

そして今年のお正月、念願の温泉旅行に連れて行ってもらえることになったんですが、昨年9月に突然兄が「お正

またKさんが認識していた私、きっとその通りになっているんだと先日JUUJUUさんと話をしていて気づきました。

そしてまだ叶っていないと思っていたことが実は叶っていたものもあります。

それこそ私の認識です。

私がまだ叶っていないと思込んでいただけでした。

私はずっとお金持ちになりたくて、人に雇われるのが嫌で、自由でありたかったんです。

それが叶っていることによく気づきました。

今の私は本当に恵まれていて、兄の会社の事務をしていると言いつつも業務は毎日あるわけじゃなく、ほぼ家事手伝い状態です。

兄が起業すると聞いたときはどうなるのか不安でしたが、今は本当に感謝しています。私が描いていたお金持ちではないけど困っていないし、欲しい時にお金は入っています。

兄の会社に雇用されているけど融通はきくし時間的な拘束がなくて、とにかく自由。

私はとても恵まれていて幸せだと心から思っています。

Kさんが言っていた、「凜さんが幸せになるためにお兄さんと弟さんがいるんだよ。」という言葉が現実になっていることをリアルに感じています。

月は温泉でも行こうか」と言ってきたのでビックリでした。兄曰く「兄弟3人で旅行できるうちに行っておこう」とのことでした。

1月2日から1泊の予定でしたが、まさかの能登半島の地震があり予定していた温泉付近も津波の警報が出ていて旅行は無理かも思っていました。

しかし2日になると警報から注意報に変わり、ホテルも電車も問題ないとのことだったので行くことができました。

当日の朝まで行くことを迷っていましたが、温泉とホテルでの心遣いやサービスに癒され念願の上げ膳据え膳のお正月を過ごすことができました。

願いを叶えてくれた兄に感謝しています。

そんな感じで私の幸せに兄弟は不可欠です。

Kさんの言葉があって「私の幸せのために兄弟がいる」と思っていました。過去を遡って思い出すと兄弟に支えられた現実がたくさん出てきます。

楽しい時だけでなく、母との別れや義父との別れの際も兄弟が傍にいてくれたからこそ乗り越えられました。

悲しい時つらい時にもいつも支えてくれる兄弟は本当にかけがえない存在です。

## 第3章◆タイムラインを行き来する時間の不思議

### 2節 海外でタイムトリップする自己探求方法

だからこそ私に「人の運を上げる」ことができるなら最優  
先に兄弟の運を上げます！  
そして兄弟に幸せにしてもらおうのです！

26W×33行

Kさんに伝えた願いごとを含めて、まだまだ叶えたいこ  
とたくさんあります。

まだ叶っているのに認識できていないこともあるのかも  
しれません。

でも私は幸せです。

私は幸せだと認識しているから。

そして私の傍には兄弟がいるから。

それをKさんとJUJUさんが教えてくれました。



## IX. ドアを開けると そこはもう一つの次元 〜マジカル・タイム・トリップ〜

みやもと きみよ  
宮本 喜美代

〈プロフィール〉

子供の頃、病弱だった事から、体や健康について関心を持つようになり、それと同時に「人の役に立ちたい」という思いもあり薬剤師となる。旅行で初めて訪れたハワイに魅了され傭となる。何度もハワイに通い癒しが進む中、もっと自分らしく輝きたいと強く思うようになり、魂の目的を思い出す旅が始まる。現在はハワイのマッサージであるロミロミで心身共に癒し、本来の輝きを取り戻す施術を提供しながら、望む未来をクリエイティブにいくルノルマンカードを用いてセッションを滋賀県の自宅サロンで行っている。

Facebook



ブログ



インスタ



話しているのです。口が勝手に喋ったというか、それを聞きながら、そんな事は初耳なだけどとびくくりして、混乱している私を見て「魂はちゃんと答えを知っていたのね」と言われたのです。

その帰りに見たパニヤンツリーの周りにはキラキラの光の粒が見えて、初めてハワイという土地に受け入れられた気がしました。それから10回以上ハワイに通い、80%がヒーリングと言われるロミロミを学ぶ事となりました。マッサージ経験者でもないで人の体を触るなんて初めての事だったので、学びながらこんな心から楽しくて魂が震えた体験は初めてでした。働きながら有給を使いロミロミを習いに通っていたのですが、ハワイの大自然に癒やされ、学んでいくうちに自分でもサロンを持ちたいと思うようになりました。それと同時にオーラソーマやレイキ、カードリーディングなども学びました。

癒やされて行くと同時に、癒やされるだけじゃもったいない、何か必要なだけど、それがわからないという歯がゆさも感じていました。そんな中、最後に受けたロミロミのクラスで、ドライブをしながら先生の誘導で瞑想をする時間があり、その時、私が鳥になって降り立った場所は光溢れるハワイではなく、今にも雨が振り出しそうな古いんよりとした空に、どっしりと重厚感を感じるような古い

私は旅が好きです。そして、自分を変えたい、変わりたい、大きな変化を起こしたいと思った時、旅というドアをあけ、その度に次元の移動をして来たんじゃないかと思っています。

私の中で初めに大きな変化があった旅は、ハワイへの旅でした。初めてのハワイに降り立った時から、魅了され、大好きになったハワイ。でも、2度目のハワイで友達と大喧嘩してしまい、楽しめなかったショックを抱えて帰国する事となりました。

その気持ちを払拭しようと、私の出した答えは「1人旅をする事、そしてやりたいことを全てやる」という事でした。今でこそ、行きたいと思っただけどこでも行ってしまふフットワークの軽さがありますが、その当時は1人旅はおろか、1人でカフェにも入れないくらい、1人で行動する事はとても勇気のいる事だったので。

そんな勇気を出して行った3度目のハワイで、ロミロミというハワイのマッサージとカードリーディングを受ける事になり、前日から何を聞こうかと楽しみにしていました。ロミロミが終わり、「聞きたいことは何ですか？」と聞かれた瞬間、私の口から飛びだしていた言葉は…

「私はずっと癒やしの仕事がしたいのですが、ヒーリングとか：でも、そういう環境じゃなくて：」と涙ながらに

石畳と教会という景色でした。直感的にそれはイギリスだとわかり、帰国してからも頭から離れなくなりました。イギリスは昔から好きで興味があるのに、なぜか「怖い」場所だったのです。怖いけど行きたいと言う思いが、日に日に強くなって行きました。そんな時、手に取ったのはイギリスのパワースポットを紹介する本です。

あるページで釘付けになりました。その場所はグラストンベリーのミカエルの塔です。なぜかここを知っている気がしたのです。一度も訪れた事もないのに。

それから、不思議流れもあり、JUJUさんのブログに辿り着き、ツアーに参加する事となりました。

写真 グラストンベリーミカエルの塔



◆時間の捉え方が変わったイギリス・フランスツアー

ルノルマンカードを途中まで習い、初めてツアーに参加したのは2015年6月の事です。今までに参加した事がないようなツアーで緊張もするだろうと思い、場所に馴染んでから参加しようとJUJUさんのお家に前泊する事にしました。朝1人散歩に出て迷子になりかけた所、黒猫が家まで導いてくれるという体験をして、さすがイギリス！猫までマジカルと妙に納得していたのですが、いざツアーが始まると、そんな比じゃありませんでした。

ストーンサークルからストーンサークルへ。

写真

移動中はどっと眠気が襲ってくるので、眠る事も多かったのですが、ある場所を通過した時、それはいきなり始まりました。日中で起きてるのに、体がどんどん冷たくなって、金縛りのような状態になり声も出せません。何か声が聞こえてくるのですが、聞いたこともない言語です。呪文のような古代の言葉のようで、終わった時、なぜか封印が解かれた気がしました。手も動くようになって、数字の羅列が浮かんで来たので、紙に記していたのですが、それは何を意味していたのかはなぞのままです。

そんな洗礼も受け、ストーンサークルで古代のエネルギーや記憶が残る石に触れた時、その時は言葉にするのが難しかったのですが、石と自分が共振共鳴し、自分の周りの磁場が変化して、圧を感じる程に密度が濃くなる体験をしていたのだと思います。

夏至のお祭りのようなストーンヘンジもチャリスウェルのベシカバイシスも素晴らしかったけど、イギリスに来るきっかけとなったグラストンベリーのミカエルの塔は格別でした。塔に着くまでの長い階段が、本当に本当に苦しくて、風が吹いてるからという物理的な事じゃなくて、自分の中の何か「抵抗感」のような物が行く手を阻んでいる、そんな感じでした。塔に着いて中に入った瞬間、そこにいた人のバグパイプの演奏が始まり、まるで祝福されたかのよう。神社や神聖な場所に一歩足を踏み入れた時のように、自分も自分の周りもサッとクリアになり、風とバグパイプの音が壁に反響して、自分も自分の周りも、振動がどんな微細になっていって、どんな金属音のような高い音に包まれていって、ふっと上を見上げてみると、そこは別の次元が広がっていました。

それは知らない次元ではありません。懐かしいと同時に「あ、今ちゃんとあるんだな」と思いました。

写真

塔の出口でJUJUさんが「お帰り」といってハグしてくれた時、やっと帰ってこれたんだと涙が出たのを覚えています。今思うと、レムリアの記憶を持つハワイを経て、ようやくアトランティスの記憶の扉が開かれたんだと思います。ミカエルの塔はまさしく、記憶を繋ぐ扉だったのかなと思います。

自分の中の過去と現在が同時に存在する感覚でした。

フランスのルノルマン女史のお墓参りや、ゆかりの場所を巡っていくのも、近くにルノルマン女史がいるような感覚もしたりして。

写真

不思議体験だけでなく、感情が揺さぶられたり、常識だと思っていた事がくつがえされたりして、物を見る視点が変わった事もあるのか、帰国してから時間の捉え方が変わったと感じるようになりました。過去から未来へ一方向に流れると思っていた時間が、今ここに向かって未来から時間が流れこみ、それを今ここで掴んで行く感覚です。イギリスに行かなければ、この感覚は掴めなかったかもしれません。

怖いけど、物凄く気になる場所行ってみた方がいいかもしれないですね。

### ◆パラレルワールドは自分で選ぶ事ができるとわかった 2016年アイルランドの旅

初めてのツアーの後、ルノルマンカードを最後まで習った事もあり、未来は自分で創れるという事を知り、決めては動く、決めては動くという事を繰り返す内に、行動した先には、望んでいた以上の物が来るという体験をするようになって来ました。

そんな中、前回のツアーに参加した人達とアイルランドに行きたいと盛り上がり、ツアーをしてもらえる事になりました。アイルランドはケルト神話ではティル・ナ・ノーグとか常若の国とも呼ばれ、妖精伝説が色濃く残り、常若というように時間の流れがこの世とは違うとも言われるようです。アイルランドはイギリスとも又違い、光の加減なのか、全てが淡く、空と海の境目がわからない、そんな不思議さがありました。スコットランドからアイルランドへは船で渡ったのですが、海も空も鉛色で境目がはっきりせず、と思えば突然遠くに美しい円錐状の陸が出現したり。どこか知らない所に誘われているような、そんな気がしたのを覚えています。

その中でも、一番不思議な体験をしたのは、旅も終盤イギリスへ戻る前日の事です。なかなか近くにいるはずなのに宿に辿り着けず、着いた時には疲れもピークに達して

いました。お腹も空いたので、夕食が食べられる場所を教えてください、辿り着いたのは、ビルの中の中華料理店。ドアを開けると、まるで結婚式場かのような装飾と沢山のスタッフ。

眠気がピークだからか、不思議な感覚が拭えなかったのですが、私はトイレに行く事にしました。スタッフの人に場所を教えてください、行こうとすると、ずっと着いて来そうな勢いだったので、大丈夫だと告げたのに、本当に大丈夫かと聞かれるので、見えているドアを開けるだけなのに不思議だなあと考えて、重いドアを開けた瞬間、「こっちが現実だ」と一気に眠気が冷めました。

こっちが現実と言うのは、違う次元という事です。その時はパラレルワールドや次元構造もわかっていなかったのです。そう思ったのです。

その後、思い出したのは中学生の時の体験です。近道をしようと、木のアーチになっていているような場所を自転車で通り抜けようとしたのですが、そのアーチがトンネルのように自転車を漕いでも漕いでも抜けられなくて、怖くなり、「お願い出して」と強く願ったところ、アーチからは出られたのですが、着いたときは、近道をしたはずなのに、1時間も遅刻していたのです。賑やかなはずなのに妙に鎮まり返った教室の空気感。

写真

先生や友達も何も変わってないはずなのに、何かが違うと違和感が拭えない、あの感覚。  
あの時はキツネに抓まれたのかなと思っていたけど、その時の体感とトイレのドアを開けて中に入った体感が一致したのです。

私にわかるよう、ドアが違う次元の象徴として現れたのだと思いました。

そして、それらの体験を通してわかった事は、パラレルワールドは実際に存在して、どのパラレルに移行するかは、自分で選ぶ事が出来るという事です。

昔は意図せず迷い込んでしまったけれども、強くここから出たいと思わなければ、永遠にアーチの中を漕いでいたかも知れません。

そして、移行した時に強く感じるのは時間の流れです。流れ方が違うというか、粒子の密度が違うんじゃないかなと思っています。

それが、空気が変わった様に感じる違和感の正体なので、

アイランドでは、こっちが現実と思っただけですが、トイレで凄く焦りました。何せ次元構造をまだ知らないのです、帰れないのではないかと思ったのです。心臓がバクバクし

の男性が日本の包丁を持つてるからを見てくれとJUJUさん達に見せていて、その時の表情がなんだかおかしかったので後で話しを聞いてみると、昨晚、その包丁の話しをしていたと。そんな事ある?!と言いながら、JUJUさんがエッグスタンドから取った卵はゆで卵ではなく生卵で、そのエッグスタンドは奇妙な小人の頭がとちよんど卵が入る部分になっていて、まるで頭をかち割った様になっていました。

でも朝食はとても美味しく、ふと、以前の旅を思い出し、キャラットケーキが思い浮かんで、「キャラットケーキが食べたいんですよ」と話していたら、オーナーの奥さんが「はい、焼けたわよ」と言っていて、大量のキャラットケーキが登場して来たり。拳げ句の果ては、チェックアウトして、JUJUさんが話しの流れで誕生日だったという話しをしていたら、奥さんも誕生日だったというではありませんか

皆んな脳から、少しずつ情報や記憶が抜かれているかと思えます。

でも、アイルランドならありえるかななんて思ってしまうのは、私だけではないはず。いつも旅の時、不思議な事が起こったらしいのに、いや起こるに違いないと願っているの、願いが叶えられてるのではと思っています。

写真

ながら必死で考えた結果は「うん、戻ろう」

そして、重い扉を開けて皆んなのいるテールへ戻ると、何事もなかったかのように、なんだか眠気を伴った、ゆっくり流れる不思議な時間の中へと戻る事が出来たのでした。

今思い出しても、アイルランドのあの宿は不気味です。宿に向かっている時も、電灯の灯りがぼおっとその宿を照らし巻いて奇妙に光ってました。そして着くや否や、宿のオーナーである男性が、荷物を運ぼうとしている私達を捕まえて、自分の息子夫婦の写真を見せると言ってきた、仕方ないので見てみると、日本人と結婚したとあって、名前はきよみさんというのだそう。私はきよみなのでよく似ています。息子さんは日本に留学していたそうで、参加者の1人の息子さんと同じ大学というではありませんか。またもや奇遇ですねといながら、部屋へと案内されました。

その部屋が、地下だったのもあり、シーツもなんだか湿っていたので、お友達は直に肌が触れるのが嫌だからと、綺麗なシルクの靴下を履いて寝たのですが、朝起きた時の第一声が「靴下がない、それも片方だけ」と。シーツをめくって、布団の間もくまなく探したのですが、片方だけありません。モヤモヤしながら、朝食会場へ向かうとオーナー

写真

◆ベシカパイシスを体験した2022年フィンランドの旅

JUJUさんのツアーに参加するようになり、大きな距離を移動する毎に、頭の中も距離に比例して大きく変わっていく様な感覚がありました。凝り固まっていた思考が変化して、俯瞰して物を捉える様になって来た気がします。未来から時間が流れてくるので、物や状況、旅の場所さえも、「欲しい」と望むと同時にそのイメージが浮かび、現実化が加速して行く感じです。どんどん加速させて行くと思ってた矢先、国を閉ざさなければならぬという非常事態、コロナに突入したのでした。

少しずつ規制も緩和される中、沢山リスクはあるけれど、どうしてもこのタイミングで海外に行きたいと強く思うようになり、3年ぶりのフィンランドに行く事を決めました。「今行く」と言う事が、とても重要に感じたのです。

写真

何も制限がなくなっていたフィンランドではクリスマスマーケットが開かれており、私もグロギと呼ばれるホットワインとクッキーを買って食べていました。すると、年老いたお母さんを連れられた男性が隣に座り、色んな話しをする事になりました。会話の内容は、何の変哲もない事でしたが、目を見て、表情を感じながら、理解しようと、私の話す拙い英語をニコニコしながら聞き、わかるように話してくれていました。話しながら、一つ一つの言葉に愛が溢れ、エネルギーが循環しているのを感じていました。これが、ベシカパイシスのコミュニケーションなのではないかと。

ベシカパイシスとは、半径が同じ2つの円が、お互いの中心と外円を交差させて出来る神聖幾何学の事です。この重なり合う中心のアーモンドのような形から、まさしく新しいエネルギーが産み出されるのだと認識しています。

写真

なので、私が思うベシカパイシスのコミュニケーションとは、一方的ではなく、お互いに相手の心地良い距離を感じながら、自分も相手もオープンハートで互いの中心に入っていくコミュニケーションです。

声の大きさや、話す速度も感じながら、オーラが重なり合っていくイメージで、暖かくて恋愛とは又違う、エネルギーが発生しているのを感じていました。

なぜかというところ、お母さんを私の横に座らせてから、男性は私と同じお店のグロギと同じクッキーを買って行って、同じ物を「美味しいね、美味しいね」と同じ物を共有する感覚がそう思わせたのだと思います。もっと近くにグロギもクッキーも売っていたのに。



今まで、ベシカパイスのコミュニケーションが取れていなかったんじゃないかと思ったからです。

幼少期から、敏感な所もあり、人の顔色を見て話す事も多く、また自分を表現する事を諦めてしまっていました。まるで見えないマスクをしていたかのよう。表現の仕方もわからなくなっていたのだと思います。

でも、この事をきっかけに、意識も変わり、自分の言葉で自分の気持ちを表現出来るようになって来ました。今までは伝えたい事があっても、どのように表現していいのかわからず、感情だけが先に現れて、言葉に出来ずにいました。それに、伝えなくてもどこかで伝わると思ってしまったのかもしれない。その積み重ねにより、いつの間にかどう表現したらいいのか、わからなくなっていました。自分の気持ちを自分の言葉で、相手の中心に入る事を恐れずに、愛のエネルギーを乗せて伝え合うコミュニケーション。それを思い出す為にフィンランドに行く必要があったのだと思っています。

フィンランドのクリスマスマーケットでの帰り際。公用語でもないので、英語がわからないのかな？と今まで一言も喋らなかつたお母さんが私の方を見て、ゆっくりと英語で「絶対素敵旅になるわよ」と微笑んでくれたのは、

本当に嬉しくて、今でも思い出すたびに暖かい気持ちになります。

私にとって旅は、5次元ライフを実践する最適な方法です。自分で知らない内に出来てしまった枠が、旅をする毎にどんどん外れて行きます。どこにも行かなくても、今はどんな情報も得られますが、やはり体を持って生まれて来たので、体感する事に意味があるのではと思うのです。肉体と思考のバランスが取れて、軸が出来、ぶれない自分が出来て、初めて俯瞰して物を見る事が出来るような気がします。私達の体が1つ1つ小さな粒子の集まりだとすると、その粒子に、感動や興奮、驚きなどの刺激が加わる事で、粒子の揺れが大きくなり、それがチャクラの反応や調整にも繋がっていくのかなと思っています。その結果として、様々な感覚が研ぎ澄まされていっている様に思えます。

それに、大きく変化したい時には、大きな移動をした方がいいと聞いた事があり、それはやはり海外に行ってみる事なんじゃないかと思ひ実践しています。

それが何をもちたらずかという、知らない言語が飛び交う中に入った時、信頼出来るのは自分なので、どんどん自分の中に入っていく感覚になります。「個」を感じ、「個」が際立っていくのを感じると思います。同じ言語、慣れ親しんだ環境にいると、場の波動と同化して、自分らしさ

写真

写真





Facebook



インスタ



を、個を意識するのも難しくなるような気がします。  
自分は何者なのか、何の為に産まれてきたのかを私は知りたいたいです。

26W + 40行

自分に変化をもたらしたいと思った時、リアルに電車のドアが開く時、飛行機のドアが開く時に、自分はこのドアを潜ったら、なりたいたい自分になると意図し実践してきました。そして行動した先には想像を超える出来事がありました。行かないと開かない扉があるような、それを踏むことで全ての事が網羅されている図書館のアクセス権を得られるような。自分が何者なのかを思い出し、旅する事にヒントがあると知っています。

なので、これからも、もっと軽やかに、エレガントに旅するようにどんどん次元のドアを開けていきたいと思えます。

## X. スーリーの魂の旅 マジカル・タイム・トリップ

なかすし まきこ  
中筋麻記子

プロフィール

FM局に勤務。音楽全般、クラシックからロックまでライブが大好き。特にロックが好き。  
映画、読書、美術館めぐり、神社を巡り、宇宙の真理を探りたいと思う。5次元に移行し始めているのだろうか。好奇心が色々なものに向きすぎていつも走りすぎているが、五感を刺激するなにかを求めている。  
インスタ、FACEBOOKやっています。

私の魂の旅は、雑誌に載っていた写真から始まった。

1999年の暮れ、コンビニで手にとった雑誌に真っ青な空と見たこともない赤い岩山が写っていた。

私にとって衝撃的に美しかった。それは、セドナのヴェオルテックスの写真だった。

セドナという名前は少し前に読んだ※シャリー・マクレーンの本に書かれていてネイティブ・アメリカンの聖地ということだけは知っていた。

※シャリー・マクレーン

シャリー・マクレーンは有名なアメリカの女優ですが、彼女にはスピリチュアルな側面もあります。彼女は自身の経験や信念を書籍や講演で共有し、多くの人々に心の成長や意識の向上を促しています。 代表作著書『アウト・オン・ア・リム』

私は、すぐさま、インターネットでセドナのことを調べ、その地に行こうとした。  
「いつか行こう」でも、「この夏休み行こう」と夢見るのではなく、その地に立つために。

セドナのツアーに関する情報はほとんどなかったにもかかわらず、Lさんというアメリカ人クレーヤボヤンスのヒーリングスクールが主催する2月のツアーを見つけ、すぐ様連絡をしたら、60人のキャンセル待ちだといわれた。空気がでて、あっという間にその地に立つことができた。なんとなく、いける気がしていたのは、「約束の地」だったのだと思う。

セドナが、私の魂の旅のスタートとなった。もちろん不思議で面白い旅となった。

ネイティブアメリカンの最古のホピ族が住む地を訪ねたり、チェロキー族のガイドに説明を受けたり、スウェットロッジに入ったり、メディスンホイールの儀式をやったり、ネイティブアメリカンのドラムを前から、知っているように叩いていたり、夢の中で、見た場所があらわれたり、チェロキー族の血が流れているとう女性に、「昔、一緒だったわ」とハグされたり…。

様々なヴォルテックスと呼ばれる場所があり、ここでは大地のエネルギー、空からのエネルギー、を感じたり、昔の記憶がフラッシュバックする場面が続出した。

私は、ヴォルテックスから見た地平線までも見渡せるどこまでも限りなく続く広い大地を心の中に抱いて、ま

た、現実(その頃の認識は3次元)の世界に戻ろうと思った。

2000年の暮開けとともに、そこで、知りあった仲間をはじめ、スピリチュアルに興味を持ち始め、前世療法や、ドルフィン・スイミング、フラワーエッセンス、オーラソーマ、オーラ、ネイティブアメリカンなどに興味を持ち始め、次々と体験していった。

その時期、出会った人が、私の過去世を見てくれた時に、エジプトで蛇を首にまいた女王とひざまずく皇子が見える」と告げられた。

その、ひざまずいたポーズを見たときに、私が、その場所へ行くバスから、おりたとき、つまずいて、思わず地面にひざまずいたポーズと同じだったと気づいたことから、エジプトに興味をわき、調べ初め、次の年2001年12月には、エジプトに旅立った。

そのツアーは、特にスピリチュアルなツアーではなかったけれど、その旅中、頭の横に穴が開いていて空とのパイプでつながっている感覚を抱いていた。

そんな状態でエジプトの地を巡っていたが、スピリチュアルなことが起きていて、そんな感覚を得ているとは思わず、ツアーがハードなスケジュールだったので、疲れているのだからくらいに思っていた。

エジプトの地は、ナイル川に沈む太陽の赤、サッカー

ラのピラミッド、青空の中に見えたブラーナ、ツタンカーメンのお墓、そして風の音しか聞こえない砂漠、あちこちに残されたラムセス像、その後、ツタンカーメンやラムセス、エジプトの本を読み漁った。

2001年の夏には、シヤスタへと旅だった。シヤスタは、クリスタルガイザーのお水で有名でもあり、世界の七大聖山とよばれているうちのひとつ。

この地もネイティブアメリカンの祈りの儀式が行われている場所で、パイプの儀式も見せていただいた。冠雪を抱いたマウントシヤスタは美しく、妖精の住む湖キャッスルレイクと、優しいエネルギーであふれていた。その頃の私には、もの足りなかったのか、再び訪れたのは、2013年だった。

2002年、マワイ島へ。

その時は、ハワイのヒーラーの方とマワイ島を巡った。ウラル地方か、アメリカのどこかが、宇宙船団が現れる場所と言われていた。

ハワイの島々には、虹がたくさん出現する。

カメラで虹を撮ろうとしたら、シャッターが急に下りなくて困った。昨年のエジプトでも王の墓で、同じ現象がおき、この時は虹を取りたい一心で、やっと撮れた。

旅のあと、みんなで集まった時に、あなたは、宇宙人ですぬといわれ、なぜかと思っていたら、どうやら虹の写真の中にはUFOが写りこんでいたようだ。

2003年は、再び、セドナへ。そして、グランドキャニオンの谷底にヘリコプターで降りたり、どこまでも続くルート66を車で走り、アメリカの原風景を見た。気球にもなった。

3年ほどセドナに通ったあと、ネイティブアメリカンの旅は、卒業だと思い、次は、ヨーロッパではないかと思い、ヨーロッパの旅にシフトすることにした。

まずは、ギリシャから、そしてトルコに向かう。

神々が集う国ギリシャ。偉大な過去の栄光、パルテノン神殿、でデルフィの古代遺跡、美しい彫刻たち、青い空はどこまでも青く咲き乱れる花にあふれ、そして、その地からトルコにフェリーで向かう。クレオパトラとアントニオが出会った場所。パレッカム、思わぬところに遺跡が出現する。

今度は、ケルトに入っていく。

夏至の日だけ中に入ることができるストーンヘンジは、朝陽が昇る瞬間まで、一体となって歓びを分かち合う。

グラストンベリー、ミカエルの塔、私が魔女だった時のことや、国の取り合いをしたのは、ヨーロッパの地だ。それは、アーサー王伝説に象徴される。

次の年から3年J.U.J.Uのツアーでイングランド、スコットランド、アイルランドの旅に出た。

まずは、スコットランドの荒涼とした地を見たいと思った。

かの地の山々は、灌木が倒れ、ハイランダーだった過去があるのだと思う。それは、心がうずく風景だった。

オークニー島は、『2001年 宇宙の旅』にも出てくる巨石<sup>ストーンヘンジ</sup>に出あい、アイルランドでは、名もなき城跡に思いをはせ、60もの緑の名前があるというその地で、魔女だったこともある自分を思い出した。

そして、そこを終えると、ハワイの島を巡ることになる。マウイ島、ハワイ島、オアフ島、カウアイ島、美しい自然の楽園に身をゆだねる。

島により、雰囲気が違う。虹、美しい日の出、夕焼け、太陽に彩られ、星、海、洞窟、

宇宙とのつながり、アースキーパーのクリスタルのある寺院、イルカの群れ、カメハメハ大王、溶岩、ベレの女神、

ヘイアウ、そしてUFO。

ゆったりとした時間の中で、自分を取り戻す時間ももてた。

そのあと、2000年に一度いっただけの、シャスタに再び行くことになった。

その時から、今度は、4年間毎年シャスタに通った。

2000年の時の私には感じられなかった、そして思い出していなかった記憶が現れて、再び呼ばれて行ったのかもしれない。

私の旅は、このように螺旋を上るように何かを辿って行っているのだと思っている。

シャスタは富士山に似ているといわれている。ただ、ひとつの山としてそびえ立つ富士さんと違って、シャスタには、対になるシャスティーナという山があり、ツインになっている、その間にはUFOの発着場所があるといわれている。

アセンデッドマスターの一人である※セント・ジャーメインを、1930年、ガイ・バラードという人がシャスタのお花畑で見かけ、再会を約束した時にパンサーに遭遇し、恐れをなしたが、恐れが消えた時に、パンサーも消えたという逸話からパンサー・メドウズ (Panther Meadow) と呼ばれるようになったと言われている。

また、きれいな湧き水に恵まれ、めずらしく温泉施設もあった。

※セント・ジャーメイン

セント・ジャーメインは伝説的な存在で、様々な時代や場所に現れると言われています。彼は不老不死であり、知識豊かで霊的な力を持つと伝えられています。また、彼はアルケミストや占星術師としても知られ、人々に叡智や啓示をもたらす存在として尊ばれています。アセンデッドマスターの一人。

山の上にあるハートレイク湖に行くときは、山道なのに身体が軽くなって平地を走るように駆け上ることができた。そして、数々の滝では、不思議な写真が次々に現れ、またこの地で、はじめて ライトランゲージをしゃべることになった。

※ライトランゲージ／ジェイミー・プライス氏が考案したチャネリングの一種。

光の言語とも呼ばれており、光が音（メロディー）として物質的に知覚できる形態を取ったもの。高次元の宇宙の

存在とコンタクトを取ることができると言われている。

私は、できることならセント・ジャーメインに会いたいと思っていると、その地にジャーメインとして育てられた人がいて、彼と一緒に写真を撮ることになった。

撮影した写真を見ると、頭と頭が光でつながれ、セント・ジャーメインの象徴でもあるヴァイオレットの光が現れていた。

私は、ある人に 時空を駆けるタイムトラベラーだといわれたことがある。

確かに過去世で生きた感覚もあるが、その時代を覗いていた感じで、その場に立ち寄った感じがして、それは、韓国ドラマの「星から来たあなた」の主人公の心情に似ているなど思った。

だから、様々な場所に赴き、魂のかけらを集め、そして、また、歩みだす。

2023年には、コロナで、一度、中断した魂の旅も再開できた、これからもまた、自分に問いかけながら、巡っていききたい。

## 第4章◆共振する世界

### 1節 ヌメロロジー、シンクロニシティ、 パラレルワールド、占星術

#### 【魂の旅の記憶】

- 2000 セドナ マウイ
- 2001 エジプト・シヤスタ
- 2002 マウイ
- 2003 セドナ グランドキャニオン コロラド
- 2004 セドナ
- 2005 セドナ
- 2006 キリシヤ・トルコ
- 2007 ストンヘンジ・グラストンベリー
- 2008 スコットランド・オークニー島
- 2009 ストーンヘンジ アイルランド
- 2010 ストーンヘンジ パリ
- 2011 ハワイ島
- 2012 ハワイ島
- 2013 シヤスタ
- 2014 シヤスタ
- 2015 シヤスタ
- 2016 シヤスタ
- 2017 カウアイ マウイ
- 2018 キリシヤ
- 2019 マウイハナ
- 2023 セドナ





メルマガ



# XI. ルノルマンと5次元思考

〜願望達成する5次元の仕組み 数秘編〜

こみやみさこ  
古宮三紗子

〈プロフィール〉  
装丁デザイナー、ライター、ラジオの構成作家等を経た後、第二子の懐妊を求めて自らに癒しをもたらすため、数秘術、レイキ、カラーセラピーなどを習得。その中でもホメオパシーは英国ホメオパシー協会から認定を受けたホメオパスとしての資格を持ち、自分のみならず、子供を授かりたい女性たちの味方として働いてきた。  
その後ルノルマンカード、神聖幾何学マルセイユタロット、と元々持っていたトランプや数字からのリーディング、さらにカバラの叡智と合致し「本来の仕事をするための能力」を発揮している。ルノルマン神聖幾何学タロットスクールプリンシパル。









## XII. すでにある未来からの 「こんにちは」 〜現実化するシンクロニシティ〜

サリバン 知美 ともみ

〈プロフィール〉

大阪芸術大学卒業、NPO法人アートキャラバン代表理事、勢原手作り絵本の会会員、教育・福祉分野でのアート授業、地域自治会の芸術活動の企画提案、アーティストの派遣、アートセラピーなどを推進している。自らもアーティストとして作品創作に勤しむ。近頃は、出前スノーゼレン（多重感覚環境のセッティング）をして皆様にリラクゼーションをお届けしている。

スタンド FM



NPO 法人 HP



個人 HP



ホログラフィックな情報を育成しすでにある未来からの牽引、それは日常のエピソードにちりばめられている。よいも悪いもクリエイティブに意識が作る現実。その数々をご紹介しよう。

### ◆警察からの電話

ネガティブな思考にとらわれていて、罪悪感な発想で自分像を捉えていた時に、警察は、自分にとってびくびくする、象徴でありました。

資金などないのにNPO法人を作り、人にお金を借り、家族親戚中に反対され、いったい何をやっているのだ？と言われながら、自分でも経済的に結果のでない毎日へこむ。

地球の次元上昇のかなんなのか、同時に既存意識の枠を外れて自分の未開の領域の開発が始まっている時（あくまでも個人の感想です）みえる世界でも見えない世界でも不安にとらわれがちなときでした。

トルルルルル、電話が鳴る。

ガチャ（受話器を取る音）

「はい！」

「茅ヶ崎警察署ですが、ともみさんですか？」

心の中で不安に思っていたことが、現実起こった、みたいに、警察署から電話がかかってきて私のところは、びくびくしていました。

（警察！？なんで、警察！？なんで名指し！？）

「…そ、そうですが、何ですか？」

「あなた、○月○日の夜、何時ごろ、どこにいらっしやいましたか？」

「…なぜ、そんなことを聞くのですか？」

「ほんと申し訳ないんだけど、警察は、調査するのが仕事だから、気分を害さないでご協力願いたいのですけれど。あなたは、軽自動車運転しますか？」

「しますけど、…どういふことですか？」

「その自動車は、何色ですか？」

「…なぜそんなことを答えなければならぬのですか？」

「いえね、そのあなたの乗っているその軽自動車と同じ車種の車が、○月○日の夜、○時ごろ、茅ヶ崎の倉庫の前でひき逃げをしているんですよ。」

「それが、私と関係あるんですか？」

「軽自動車を運転していたのは、女性なんです。」

「それで？わたしは、行ってません。茅ヶ崎なんて。そもそもなんで、私の軽自動車と決めつけるのですか？」

「近くの車のドライブレコーダーに、映っていた映像からその女性は、あなたぐらいの年齢で、映像に一部映っていたナンバーの数字から割り出して、あなたがヒットしてきましたんですよ。」

「でも、行ってないんですよ！茅ヶ崎なんて。そういうあなたは、本当に茅ヶ崎警察署の人なんですか？」

「そうです。そこから電話していただいてもかまいません。」

「とにかく、ほんとに私ではないんです。」

「そうですか、ご協力ありがとうございました。」  
ガチャ（受話器を置く音）

と、まあ、こんな感じの流れでありまして、受話器を置いた後も、なんなんだ、とキツネにつままれたようにわざわざさささしていました。

確かに個人的に暗ーく、罪悪感にとらわれてはいましたが、権力の象徴みたいな登場の仕方（警察は市民の味方でもありますよ！）警察が、私に電話をかけてきて、まるで別の現実の世界があって、お前が犯人だろう（そんなセリフは言わないが）と、うそをつくなど、なにをやっ



いるんだ？とそんな感じのやり取りが現実がこの世界で起こったわけです。

中身は私の時系列の現実と違えど、感情的には、他人に責められる図、なわけです。家族のみならず、第三者的に人に迷惑をかけるやつ、罪作りな人間、と名指しをされたようで、心が震えました。

これをどうとらえるかというと、引き寄せ？思いの現実化？パラレルワールドが重なって？まあ、たんなる勘違いです！とでもいえますが。

罪悪感にとらわれていると、そこまでこわがる体験、疑似体験をこの世界では、どんどんちゃんと用意されちゃうのではないのでしょうか？

#### ◆呼び鈴のベルが鳴るシリーズA/B

別次元からのメッセージ、現実へのスライド、呼び鈴からのシンクロ、これは、A、Bと二つエピソードがあります。まだ私の経験の中では起こっていない事が、別次元からスライドしてきて、コラボ？でも私の中では、いえる出来事なのです。スライドしてきてその先が現実展開していく、みたいな感じですよ。

すると、そこで、影山さんが、だめだめなんてそんなこととはない！、と落ちていた花をかき集め、土に根を埋めてやりながら花畑を作りました。美しい花畑！二人で作った花畑、それはそれで美しい！

人にどう思われようが、自分がどう思うかではないでしょうか。

という深い言葉を影山さんは言いました、ありふれた花であろうとも、命は素晴らしい、作った花畑も美しい、とこれはこれでよし、と影山さんは、撤収するのです。

撤収したそのあと、何の因果か、かっぱの頭に事もあらうことか、わかラン（若返りの花）が、咲くのです！しかもそのわかランは、あれーと風に吹かれて、飛んで行ってしまふ。その先に、全く関係ない、よぼよぼの鹿のおじいさんが自転車に乗っておりまして、たまたま、その若返りの花のわかランを食べてしまふのです。そして、若返る、というオチでアニメのドラマは終わるのでした。

するとそこで、ピンポン！

と我が家の家の呼び鈴が鳴りまして、だれかきたな、とはいはい、とわたしが玄関の扉をあけると、そこに、自転

#### A アニメからのメッセージ

幼児教育の番組が私は、好きです。あるとき、いつものように、かっぱのキャラクターがでてくるアニメを見ました。そのアニメでは、主人公のかっぱは、頭の上にいるような花を咲かせるのです。子供の可能性、才能、の開花を表現しているのかもしれない。特にわかランという花は秀逸で、食べると若返る、という不思議な花です。面白おかしく、生きるヒントが満載のアニメです。

さて、とあるその回では、営業マンの影山さん（名わき役のハエキャラ扮する）にのせられて、ランランランな人生選択のために、なんだか楽しそうだからというノリで、わかランを咲かせることに動いむはなかつぱがいました。だけど、出てくるのは、ナズナ、タンポポ、シロツメクサなどなどそこら辺にある花ばかり。出てくる出てくるそこら辺にある花で地面はあふれました。

と、そこで、ああ、なぜ僕はわかラン（高級なめつたにない特別な才能）を咲かせることができないのか？と悔し涙にくれるんですね。影山さんも一緒に泣くんですね。そして、その状況下において、頭にはランの花（普通に高価な花）を咲かせた他のかっぱが、そこらへんに咲くありふれた花の上を踏み散らして、歩いていくんです。たぶん、あまり悪気もなく。なんともシュールです。

車に乗ってやってきたおじいさんが立っておりまして。

そのおじいさんは、認知症予防の活動をしておりまして、そう、ぼけないように、若さを保つための活動をしていたのです。アニメの続きが現実になりました。私の中には、そのような楽しい認識です。わあ！なんだろう！この話の続きは？とワクワクしました。

そのおじいさんとは、認知症ケアのために、芸術活動は役立つでしょう、と私の今の仕事と関りがもてまして、今も、仕事を介して新たな展開を育てております。

#### B 子供の教育について

ある日、子供の教育について悩んでおりました。テストの点が悪かったのです。思春期なので、勉強しろという一般的な親の言葉などうるさがられて届きはしません。

もちろん、テスト、なんて、授業の習熟度合いの確認なので、わかっただけですが、何分、親子の間では、しておこうか、でいいわけですが、自分、親子の間では、この単純なやり取りが、感情的になってしまします。特に勉強なんて興味のない科目はめんどうくさい、やらされ感のあるところではやる気なんて動かないものです。そうはいっても、学生という社会的居場所の確保、進級のためには、ある程度勉強やって、数字が目安になるわけなので、

本人もまずいなとは思ってはいるのでしようが。  
さてどうしたものか、とテストの点数を見ながら考えていたところ

×するとそこで、ピンポーン！

と我が家の家の呼び鈴が鳴りまして、だれかきたな、とはいはい、とわたしが玄関の扉をあけましたところ、そこに塾の営業をする先生が立っておりまして。

渡りに船とは、このことなのか。  
ソリューション！ラテン語で束縛から解放された、が語源、解決回答につながるご提案が、その塾の先生の登壇にあったわけです。

もちろん、ここには、月謝という経済的な問題の壁はあるのですが。あまりにもタイムリーに差し出されたその提案を、一応やってみたら？来たものを拒まずに、という道筋もありまして。

これが起こった後に、何が展開されるのかというと、夫は、塾反対派なので、資金は私が作らなければならぬ。

しかし、家ではネットやゲームテレビなど誘惑するものがたくさんあり、やる気もない子供にとって、塾の自習室という環境は、行けば、わからないところは教えてもら

その古民家で開催を決めてからリアルに私の中で見えていたビジョンは、そのスヌーズレンの自身のことではなく、その古民家の部屋の床を掃除しているところでした。なぜだかわからず、リアルに想像できました。はやく、掃除をしたい！床を拭きたい！掃除機かけて！という強い思いがありました。ちなみに、私は掃除好きのおばさんではありません。  
そして、その古民家が薄汚れていてとか、そういうことでもありません。まったくよくていれのされた古民家です。頭の中のその掃除をしている図にたいする想いというのは、その家ですでにある風景、絵柄に、ピースをあてはめる、ようなものでした。はやく、その図になりたい、というような想いかられました。実際、イベントの当日、その部屋の床を拭いたり掃除ができたときの充実感、それができたらイベント遂行の不安もありませんでした。うれしくて、充実感がありました。まだ、中身は始まっていないのに！なんだろう、と推測してみました。

その古民家は、とある明治時代の政治家が晩年を過ごした家を移築したものでした。鈴木喜三郎邸、5、15事件の後の政治を引き継いで奔走され、ご尽力していった方でした。

ご本人は、時代の波のうねりをまともにもくらないながら泳ぎ、政治という世界で役割を担われたのでしよう。

えるし、仲間もいるのでそれなりに勉強をやるわけでした。  
なにより、親の私が心配のあまり感情的にいらぬ声かけをしなくてよく、お互い心理的エネルギー効率がよくなるでしょう。私の仕事に対する集中する理由のひとつが増え、それだけハードル上がり、仕事の質が向上するわけだからレベルアップにもつながりますね。

親子関係において風通しがいいわけです。お互い、自分のふりを自分でみていくわけだから。そういう、未来が、あります。

#### ◆ビジョンという招待状

すでにある場所から、こうなっている、という招待状みたいなビジョンを思い描いたエピソードがあります。私自身のブループリント、というより、家が夢を見ている、とでもいうようなブループリントです。

とある古民家で認知症ケアにも有効な効果を期待できるスヌーズレン（1970年に始まった多重感覚環境）というイベントを企画した時でした。古民家を開場にするこは、高齢者にとって、記憶への働きかけがあり、親しみとなつかしさから穏やかな気持ちになることが意図されていきました。

本人ではないので定かではありませんが、推測するに、思い返せば、あれでよかったのか？というような場面はたくさんあったのではないのでしょうか。

現役を引退した政治家が、晩年静かな庵で、本当に純粹に求めたものは、ただ人のために役立ちたかった、そんなシンプルなものだったかもしれません。

そういう政治家の想いが、その家に夢をみさせる。純粹などところだけひびいて、現代人と共にスヌーズレンとともに美しいファンタジックな空間に彩られて。僭越ながら、私の想いも混ざり合っ

それら想いが、着地した、ビジョンという招待状。  
それが、床を掃除して、その家を掃除して浄化して、ただうれしくて安堵したところに通じたのかなあと思っています。自転車操業で、素朴に手作りイベントをやっちゃっている私みたいな輩を受け入れて、どうぞ、使ってください、一緒に美しい夢をみましょうと家がいってくださっているみたいに思えたのです。

#### ◆最後に

自分自身の5次元ライフのナビゲートをなすこと、言うは簡単だが、その感覚を他者に届けることは、容易ではな



ガ マ マ ヌ

〈プロフィール〉  
文化服装学院デザイン科卒業、アパレル企業でデザイナー、パタンナーを務め、退社後フランスパタンナーとして活動。ヘッドドレスの作製、ダンス衣装、舞台衣装製作、デザイン学校でパタンナー講師を勤める。  
ニューエイジムーブメントでチャネラーによるセミナー体験を切っ掛けに、古星術、タロットリーディング、ルノルマンカード、ヌメロロジーを学びセッションを展開。オートクチュール衣装、小物、6分の1サイズ、ベットの服を制作しています。作ることの喜び、手に取って喜んで頂くことでまた喜びが増す事を実感します。

### XIII・天王星期に花を咲かせる前夜 （5次元と星の関係） 池真彗子

いでしょ。しかしながらそれは当然です。  
生きてきた歴史、経験が違えば、感じ方の作られ方もちがうはず。そう、感覚といえば、個人によって感じ方が違って当然です。あなたとわたしは重なっているわけではない、体感ともなればなおのこと。同じように感じる事が大事なのではなく、その違いをその自分の世界を大切にしておいてほしいです。違いをもって、目の前にお互い立つこと、それが、人間同士であれ、本の状態であれ、画面の状態であれ、音の状態であれ、言葉という形であれ、そこにある、という状態に存在してこそ、なにかとなにかの調和を作っていくことも成り立つのではないのでしょうか？  
要するに、自分のための自分、他者のための自分、他人が他人事のように思えない！などなど。  
そのうえで、論理的に脳の構造や量子物理学とかシュレディンガー方程式を説明することがあるわけでしょう。  
しかしながら、この本を読んでいる方々は、うまく周囲と調和をしている、寛容に受け入れられている、あるいは、孤立している、自分だけの感覚に耐えているご本人の場合もあると推察します。  
見えている舞台装置は同じでも、透明な膜の向こうに隔たられ、まるで、世界に一人だけのように。責められたり、おかしいといわれたり、病氣といわれたり、一体全体なんなのだろうと自分自身が不安になることもあるかもしれません。

周囲が整えられているのならば幸い、息継ぎできる場があるのならば幸い、尊重されているのであれば幸い、そうでないならば、この本を取って息継ぎをし、水圧に耐えながらも、泳ぎ切るダイバー、竜宮城のように美しいあなただけの風景を目にしながら、自分と周囲とのズレ、世界観の違い、多次元の感覚を認識しながら、渡り歩く魔法使いのように、アジェスターを駆使し、自分の視座という地面に立って歩いていくのでしょうか。  
その道のりが、きつと調和とか世界の平和とか宇宙を拡大とかしていくことに通じ、自分の魂を成長させていくと信じて。

26w × 11行

子供のころの話です。

昭和の中頃生まれの私が子供のころ、部屋にはフランス人形が飾られていました。

今なら、骨董品屋や、古い写真の中で見かけることがあるかと思えます。

現在のように物が溢れた時代ではなく、貴重な飾り物の人形。誕生日に貰ったものだったと思います。ガラスケース入っていたその人形は、マジエンタのドレスを着ていました。

「透けるシルクシフォンのマジエンタ色のドレス」

私はそのドレスを実際に触ってみたくて、何度も何度も母親に脱がしても良いかとお願ひしました。

やっとのこと脱がすことに成功してからは、そのドレスを毎日手にとって触っていました。

そしてドレスを脱がされた人形はガラスケースに入ったまま付んでいました。

この記憶は、おそらく小学校に入る前の事で、もう手元にはないモノだけと記録として私の脳裏にくっきりと刻まれています。

雛人形の着物も脱がし、自分では覚えてはないことですが、保育園に人形の小物や飾りを持っていったら無くして帰ってきていたそうです。

小学生のころ「私にはなぜ雛人形が揃ってないんだ？」と母親に聞いた時の事、記憶にない雛人形の件をきいて、ショックを受けたことを覚えています。

さらに昔、物心つく前の1〜2歳頃のことです。母親は私の目の前に、女の子が遊ぶ人形と、男の子が遊ぶ車のおもちゃを置いて、どちらに向かって行くか試したそうです。私はもちろん人形に向かっていったと聞きました。

幼くても今世は女性の嗜好を選択したのだと、感性、感覚は面白いものだなと思っただけです。

思うに、私は子供のころから『モノ』、『フォルム』に興味を持ち示していました。

小学生低学年のころ人形の服を見よう見真似で作って

それを見た家族は「他人の家で働く仕事したら良い人間になる」と私に対して言っていました。

道徳的な観点からでしょうが、受け容れられず勧められたことはショックでした。

それは自立出来ない、人に頼る人生なのではないか…と幼い私は思っただけです。

少し大人になった中学生の頃、今度は「お針子になれば良い、人の服を作る仕事をすればいい」と勧められました。私は服を作ることが好きでしたが、他人が主体のような人生は嫌だな。

私はダメな人間だから、一人で生きていかないといけないと思っていました。

だと思つと悲しい気持ちにすり替わってしまいました。

これらのワードは昭和っぽさ満載で誤解を招くかもしれませんが、偏見ではなく、当時の言葉なので了承ください。私の単なる勝手な思い込みの発生源なのです。

ましたし、絵を描くことも好きでした。

ボール紙で帽子を作ったり、大きい羽、(もちろん飛ぶ為の羽です)を作り崖から飛んでみたり…もちろんこれは失敗に終わります。そしてメリーポピンズのように傘で飛ぶというのも試しましたが、もちろんこのチャレンジも飛ぶことは叶わず、でも少しだけフワッと上がる風を感じたことを覚えています。

その頃は純粹な子供の心で、イメージの世界の事は現実で出来ると思っていましたから、地球の重力など知る由もない頃です。

この頃のように、絵を描いたり、モノを作ったり、創作することを、そのまま素直に続けていたら、全く違った人生タイムラインに立っていたらどうと思います。

でもまあ「そうは問屋が卸さない」のが昭和人間の私の人生体験です。

同じく小学校の頃です、テレビでお手伝いさんを題材にするドラマが流れていました。今という家政婦さんが主人公のものでした。

年を取るごとに、徐々に自分以外の考えが自分に組み込まれていったいくつかの出来事だと思っています。

何時からか、クリエイティブとは真逆の思い込みは、成功しないことを選択、成功しない人生、表に出ない人生を選択したのだと思います。

現在に至っては、その「人生成功しない、成功させない」と言う思いは「成功」した「現実化した」ことになりましたがね…。

それでも、好むものは変わることではなく、魂の望む方向に向かい、服飾専門学校に通い、ファッションデザイン、服の作り方を学ぶことを選び、その職業に就職するに至りました。

バブル全盛期の終り頃、日本はニューエイジの到来を迎えました。

私は、服のフォルムを作るパタンナーとしてアパレル業界で働いていたころでした。

デザイナーを目指して就職して働いていたのに、途中で自らパタンナーを選んだことを、心の奥ではふつふつと違

う道歩んでいる自分に嫌気がさしていた頃でした。(でもこれは結果的に平面の絵を描くのではなく、立体的なフォルムに服を描くことが可能になるという利点がそこにはありました。最初はネガティブだと感じた選択でしたが、やがてそれは私にとってギフトになりました。)

案の定、私はその時ニューエイジムーブメントにどっぷり浸かりはまってしまいました。

しかし同時に私が待ち望んで求めていたものでした。

チャネラー、ヒーラーの存在、このワードを知ったのも初めてでワクワクしたものでした。

目に見えない世界、宇宙や、不思議な世界、今でこそネットでは情報で溢れかえっていますが、そのころはすべてが新しい情報でした。

書店に精神世界のコーナーができたのもその頃でした。

1980年後半からのことです、海外からやって来たチャネラーの数々セミナーに参加しまくりました。

その中でも宇宙の起源や宇宙について話すチャネラーのセミナーはとても興味深くとても刺激的でした。私は私自

自分以外の人間の身体に触れると、相手のものが移る、同化するという感覚があつて触ることが怖くて控えていました。

でもこれは利点もあり、相手の肩に手を置き過去世を見るときも出来たので、そのころよく使つて視ていました。

私にとって特に面白い体験余談話をここで行しましょう。

ある夜のこと、うたた寝していた時、私の目の前に小さな宇宙船が現われました。

未確認飛行物体に興味があつたので、分りやすい姿で目の前に現われてくれたのだと思えました。

直径20cmから25cm位の大きさで、赤青緑黄色の光が回転していました。

重要なことを聞かなくや、起きなくやと頭では思っているのに、起きてることが出来なくなつた瞬間にふっと眠ってしまいました。次に目を覚ました時はその姿はありませんでした。

身が何者かを知りたかつた。

レムリア、アトランティスは見聞きしていましたが、アシユータルコマンドー、ホワイトブラザーフット、サナンダ、数々の存在の名前を聞きメッセージを聞いたのもその頃です。

週末の泊まり込みのセミナーや、ハワイやセドナのセミナーにも足を運びました。

本当にリアル体験はとても楽しく、過去世回帰で、過去世でいた場所を観に行くなど、日常的に沢山体験しました。

かなり濃密なエネルギーだったので、仲間の何人かこの世を去つて言ったのも事実です。

本来は人間に備わっているものに違いありませんが、その頃の私は、まだチャネリング、ヒーリングを特別なものとして、神格化して見ていたと思います。

人を癒すヒーラーの仕事は素晴らしいと憧れていましたが、人の身体を触れることが怖かつた私は、その仕事を選ぶことはありませんでした。

子供の頃から夢の中の事ですが、青空いっぱい色々な形のUFOが待機しているところを見ます、

それは数年おきに見る同じような場面の夢なので何かとリンクしているのか、今度は半次的に実際の空の出現を期待していますが、知的生命体はあえて姿を見せることもないのだからと思います。

1992年頃でした、転機になるチャネリングセッションを受けました。それからさまざまセッションに通い、ワークショップに参加し、コズミックダンスの公演にも参加し、それがその後のイギリスミステリー巨石ツアーでの貴重な体験に繋がります。

イギリスのストーンサークルから連想するものに「アーサー王伝説」があります。

子供の頃、ディズニーマ「王様の剣」を見て、小さい男の子が剣を抜くシーンに感動してよくそれを絵に描いていました。

そのアニメーションの「コマの記憶が大人になつてもずっと残っていて、それが後に「アーサー王伝説」、「マーリン」、「エクスカリバー」に興味を持つ切っ掛けになっています。

イギリスツアーで訪れたグラストンベリーの地は、思い出すと今でも心が躍ります。



幾度か行ったイギリスの地は、今はひとまとめになって数珠繋ぎになり一つの大きな体験になっています。ツアーの談体験は他の方が書かれているので、そちらを読んでみてください。今回は私のお話は割愛しますが、ひとつ言えるのは、イギリスのホテルに出る「幽霊」はユーモアがあり、紳土的、淑女的で美しい方々だと思いますということです。ということで、これくらいにしておきますね。

話を戻しますが、「接触融合感覚」の恐怖は、霊気のアチューンメントを受け日常に使うようになってから、自然に触ることが出来るようになりかなり緩和しました、霊気のエネルギーには感謝しています。

※接触融合感覚は、私たちが日常的に経験しているものであり、感覚が複合的に組み合わさって物事を理解する際に重要な役割を果たします。

「接触融合感覚」とは、複数の感覚が組み合わさって一つの感覚として認識される現象を指します。例えば、触覚と温度感覚が同時に刺激されることで、熱いものを触ったときの感覚が生じる場合や、触覚と視覚が組み合わさった場合に、物体の形状や質感に関する感覚が生じる場合があります。

あれから10数年経った今、自分をやさしく見られるようになり、今やつと未来を想い描く事が出来るように仕切り直しが出来ています。

植え付けてしまったがんじがらめの思い込み思考は解放され、天頂から光が差し込んでいるかのようです。

でも、それはなぜなのでしょう？  
なぜ、そんな解放が急にやってきたのでしょうか？  
そこを、占星術の観点から少しお話したいと思います。

2024年冥王星水瓶座のこと  
この本が出る2024年、冥王星は順行し1月21日から凡そ20年間水瓶座に滞在します。

冥王星の象徴は、「死と再生、破壊、支配、強制力、脅迫、深刻、恐れ、こだわり」、など極端にネガティブなワードが並びます。

ですから、この時期は個人においても、社会においても、有無を言わず限界を超え、突破する、大きく揺るがす切換点になりえます。

冥王星は個人ではなく世代を表す天体です。太陽系の最外郭にあるので「太陽系外の外宇宙からの影響を太陽系へ

俗にいう統合失調症や自閉症スペクトラム障害などの神経発達障害の特徴としても知られています。これらの障害では、感覚の統合や処理が特異な形で行われることがあり、接触融合感覚が生じる場合があります。

間もなくして会社を辞め、その後、私自身でチャネリングセッション、カードリーディングの仕事を始めました。同時に、ファッションに関する仕事は個人的に続けていました。

仕事を一つに絞らなかつたのです。

これは単に私にスピリチュアルな仕事だけに絞る勇気がなかつただけの結果です。

それから、先に書いた通り、2011年3月11日の少し前から未来が見えなくなり、感覚が全く「風」の状態になりました。私の触覚が折れまがったかのような、萎えてしまったかのような感じ。色に例えると、藍染めのインディゴの色が薄く色あせたような感覚でした。

未来が見えなくなつた私は未来を作り描くことができなくなっていました。

持ち込む」といわれています。

本当は小さなサイズなのに、発見当時は、後に発見されたサイズが大きい衛星カロンを重ねて見えていて、冥王星のサイズとカロンのサイズが勘違いされたと言われています。

冥王星は、はっきり見えない得体のしれないものとして映つたため、人間の心理が冥界への恐怖心をあおられたのかもしれない。

2006年に冥王星は準惑星になりましたが、実在しているのに認識しているかぎりの意味は変わらないと思います。しかし、この年に大きさから格下げになったので、2006年以降に生まれた方々にとっては違う意味を持ち、占星術上では違う見方に変わるかもしれないですよ。

水瓶座は「see」という意味を持っている星座です。支配星は天王星と土星です。

個より全体、グローバルで普遍的な価値を求めます。自由で、平等で個人でなく皆と共鳴できるものが大切です。



支配星の天王星の象徴は、「独立性、変化、改革、独創性、覚醒、エキセントリック」などですが、特に「パソコンやIT技術、化学、電気、電磁場」を象徴しますので、現代のITテクノロジーの発展、ChatGPTしかりAIの人工知能の技術の発展は当然予想できるものと思います。

これから現在の人間の想像を超える進化を遂げたとき、人間はどう向き合っていくのか、ますますAIの知識と技術が増し、侵食していく、この繰り返しなので、全体の意識に飲み込まれないように、常に自分の意志をしっかり持って、自分の思いを伝えていく事が大切だと思います。

ところで冥王星の周期は249年です。

前回、冥王星が水瓶座に滞在した一週間前は、1777年から1798年でした。

かのフランス革命はその最中に起こりました。冥王星が発見されたのが1930年なので、発見されていない時、その天体は影響しないとする見方もありますが、フランス革命は冥王星の仕業ではなかったかと、ドラマティックに捉えて考えることもできなくはありません。

アメリカの独立宣言は1776年に起こり、天王星が発見された1781年あたりはイギリスの産業革命や、フランス革命が起こっています。

そのころ日本は江戸時代の真最中で、浮世絵の黄金期でした。ただし、北斎はこの後に活躍したので、少しあとになります。

また、天明の大飢饉、浅間山大噴火が起こっています。まだ私たちは『水瓶座冥王星時代』をすべて体験していません、今はまさにその始まりにあります。

予想できるのは「破壊、再生、革新的なテクノロジー進歩」です。

いずれにしても、私たちは良くも、悪くも、抗えないような、今以上の大きな変革、変換の渦中を生きています。多分、私たちはこの時代を選んで生まれて来たのでしょう。そして、この時代の一員となって時代を作ろうとしているのではないかと思います。ですから、流されることのなきように、ヒューマンとして全体を見て感じ取り、自分の意志をはっきりと持つことが、この瞬間、この時代とても大切だと思います。

さて、では、ここからやっとなイトルの天王星期に繋がる解説していきましょう。

占星術には天体を人間の※発達年齢域に割り当てるものがあります。個人の年齢においては71歳からが「天王星」にあたります。

#### ※発達年齢域

- 0歳から7歳は月、
- 8歳から15歳は水星、
- 16歳から25歳は金星、
- 26歳から35歳は太陽、
- 36歳から45歳は火星、
- 46歳から55歳は木星、
- 56歳から70歳は土星、

天王星へは71歳から84歳滞り、85歳から海王星を謳歌し、この世を去る冥王星期を迎えます。

私はあと数年でその天王星期に入ります。個人を開放し、肩書や年齢関係なく自由に、やりたかったことを行動化する。

評価を気にすることなく、世の中で役に立つことは、むしろやらなくていい年齢を迎えます。

もうすでにどう見ても若くはないし、社会や、組織から特に必要とされていないだろうという年齢域になりました。しかし、そんな年齢域に達した今、私には「この地球という意識体の一粒として表現したい」という気持ちたちが沸き上がってきています。

例えば、私が手にした生地は、染められた1本の糸から織りあげられています。

生地となり反物になり、平面で描かれたデザイン画を立体的なフォルムとして作った後、縫いあげられ、舞台上演者が着る衣裳になっていきます。

その舞台には舞台を作り上げる沢山の人の手により、出来上がって行きます。そしてそれを見た観客が感動し、その感動を私を感じる。

小さな種は着地し芽を出し、やがてたわわに実を付けた大きな樹になっていく。

そのように、この世界はひとりでは出来あがらない。沢山のネットワークがいろんな場面でこの世界で繰り返しされているように、助け合いの輪がこれから大切になると思います。

占星術的にみれば、過去の私は今、冥王星の力で破壊され、思いもよらない自由を感じ始めているのだと言えるかもしれません。

思いもよらなかった、解放が今、私に起きていて人生の輝きを増すことが出来るワクワク感を感じています。

## 第5章◆ライフ・ミッションを生きる

### 1節 クリエイティブなライフ・ミッションを生きる

今からこの5次元ナビゲーターのワークを通して、かつてスピリチュアルな仕事に絞ることができなかったことを払拭し、再び私なりのクリエイトを始めています。

もう隠れないでいいし、作りたいものを作って行く。そして、みんなの目に触れるところに出して行こうと思います。

年齢的にはこの現世地球で肉体を持って楽しめる時間は、おそらく数十年しかありません。少し、さみしいなという気分です。

この地球でしか味わえない空間感覚、フォルム、色や香り、美しく豊かなこの惑星『地球』での一つ一つの体験を、地球の一員として、余すことなく、めいっぱい楽しんで生きて行こうと思います。

固い現実から解放された地球。  
人はそれを『次元シフト』と呼びます。

さまざまな要因が重なって、今、この時にシフトを経験できる私たちは、この稀有な体験をするために、この時代めがけて集まって来たのではないかと思います。

しかし、強固な4次元的な縛りの中で、私のように長年身動きできない状態にあった人もいます。

感覚が鋭ければ、鋭いほど、強固な4次元の現実は、私たちを無力なまでに縛りつけるからです。

しかし、今、私が解放感を感じているように、あなたも、きっと新たな地球の次元をすでに感じているのではありませんか？

本当に長い間、お待たせしました。と、宇宙から誰かがファンファーレのトランペットを吹いてお知らせしているかのような夜明けが、やって来た感じが強くしています。

そして、ここで、あらためて声に出して言ってみたいことばがあります。

「ありがとう人生」「ありがとう私の身体」

「ありがとう私の感性、感覚、触覚」

そして、もちろん

「ありがとう地球。」

26W×5行

## XIV・神の雷 （アーチストの5次元ライフミュージシャン編）

星<sup>せ</sup>音<sup>おん</sup>

△プロフィール

1歳になる前に、高熱が続き死にそうだったが一命を取り留める。学校でも家でも自分の居場所がなくて、私の救いは音楽と猫だった。幼少期、ここにいることが不思議で、ふわふわした感じがして、地球になかなかグラウンディングできないかった。1995年頃から生きる意味を探究。精神世界に傾倒していく。病気になる「病は気から」を知る。自分が癒されると同時にスピリチュアルヒーラーとなり、癒しとその本来の輝きを思い出すセッションを始める。同時期に歌が自然に湧いてきて、80曲位の楽曲を生む。波動を感じて歌う、倍音で癒すポイスヒーリングを始める。今はバンドを結成している。

HP



ブログ



YOUTUBE



昨年2023年は、まるで厄年のような強烈な神の雷の連続の1年でした。2023年新年、前年からJUNさんが5次元ライフセミナーでも話されていた量子力学、に俄然興味を持ち、本を読んだりYouTubeを見たりして勉強していました。

簡単に言えば、量子力学では地球のすべての物は素粒子でできていると言われていたのですが、

そんな時、ネットでたまたま見た、素粒子の形をしたフラーレンと言う90粒の小さなクリスタルからできているアクセサリー。大きいものはオブジェにもなっていますが、それが気になりネットで調べていくと、寺澤貫子さんと言う方が宇宙龍からお告げをいただき、その造り方を試行錯誤の元、発見しそれを創られた。のだそうです。

こうやってできたフラーレンには龍が宿っていると言

751

う。まずは、寺澤さんが作られたものを購入しました。

これが、私の体を作っている素粒子か…すごく綺麗！それを作りたくなって、早速フラーレン講師を探して習いに行きました。

そして、その後、家で一人で何個か作ったのです。

人は、視覚によって脳内が変化していくもの。その素粒子構造のフラーレンを見たり、自分で造ったりしていく

うちに脳内に変化が起こり、より加速されて行ったのではないかと思っています。

その前年2022年の暮れに、やっと家が見つかり、ご無沙汰していた耶馬溪に帰ることができて、お正月を耶馬溪で迎えられて、ほんと安心していました。

と、年始の出だしは良かったのですが…

2月頃から、冬には極寒になる海外在住の友達から、命乞いの連絡が入り、薪代などの生活費を何度か送金しました。そこまではまだ良かったのですがその後、友達はネットでも日本の会社のアルバイトをしていたので、そのため、講座料や海外送金のためのお金を嘆願され、必ず返すという約束の元、私にしては大金を送金しましたが、その会社は詐欺だとわかり、当然お金は1円も返ってきませんでした。

そこから、次々と災難が押し寄せてきたのです。まだ、越したばかりでヒーリングの自営業を始めたのにお金に全く余裕がなくなったり焦りや詐欺に引っかけた友達への怒りやそんなこんなで精神状態は全く良くなかったのです。

心と体は一つであるのは、エネルギー施術を長年してきた私には当然理解できることでした。

春先頃から、1年前に襲われた腰痛が再び始まりました。ストレスからきているのだから、忘れよう忘れようと思うのだけど、まだまだ、友達を許せない自分がいました。

私は詐欺だと言ってるのに、いや違うから…4月には返金できると会社から連絡があった、遅れているから5月には…と言いつつまで待っても、返金されない。ようやく友達も気がついたのです。

余りにも純粹過ぎる友達、今流行りのネット詐欺のこともなんか知るよしもなし。そう言う私も友達の言葉を信頼し、単純に引っかけたのです。

そんな災いですが、今思えば、自分のすぐ前の前世がネイティブアメリカンだった記憶があり、そこに住んでいる人達を救いたいと言う思いから、そのような行動をしてしまったけど、前世の記憶、そこに執着していたのかなと思います。

今世で、そこを超えて行くことが私の課題の一つだったのかもしれない、そこを手放すための事件だったかな、とも思います。

そんなことがあり、腰痛も始まり、春から初夏にかけての大好きな季節を、悶々と過ごしたのが悔しかったです。

150

さて、そんな5月の終わりに遠方より友達の友達のアーティストさんの版画作家さんが、数日我が家に泊まることになりました。見ず知らずの人でしたが、作品は友達界隈の家に飾られていたので身近に感じてました。

彼女との出会い、そこから、私の音楽、歌への道がより加速されたように思います。

実は、何か面白いことが始まりそうな予感がしていたので彼女の宿泊を引き受けた、と言うのもありました。

友達のお寺で、彼女の作品展が開催されることになり一緒に搬入し作品を飾りました。

そして、翌日から始まる紙芝居のライブ。

おもしろそうなので、そのバックでの演奏をさせてもらう承諾を作家さんに得ました。

楽器は、コルドウンやクリスタルボール、ガンクドラム、などのヒーリング楽器を使用。

それまで、1997年に歌が湧いてくるようになってから数十曲の歌を創ってギターで歌うシンガーソングライターでしたが、バックで演奏すると言う違うジャンルとのコラボの初めての体験でした。

ストーリーに合わせて音を奏でる、とてもおもしろかったです。

ライブで5次元意識を話す、なんて、どこでもできるわけではなくて私がヒーラーである事を知ってくれている人やスピリチュアルに関心がある人達の中だけではできない無いけど、その方が私としては、やりやすいな、とも思いました。

当然ですよ、こんな話は。

でも、こんな世界を知らなかった人の何かのきっかけになってくれたらうれしいですね。

7月、以前、何度も歌わせてもらってたお店からのお誘いで九州耶馬溪へ帰ってから初ライブをすることができました。

一人では、お客さんに喜んでもらう自信がなかったのであまり知らなかったけど、音楽教室の先生にお願いすると承諾してくださって、ピアノ伴奏を引き受けてくれて、オリジナル曲にコーラスをも入れてくれました。曲の特徴を掴み歌を被せる、さすが、先生です！本当に感謝感謝です。

暑い夏の終わり、今度は26年ぶりの慢性肝炎の再発でした。

暑さと古巣へ6年ぶりに帰ってきたのはいいけど人と波長が合わなくなってしまうって、話が合わなくなってしまうって焦っていたストレス、そこが大きかったです。

初日は、初めてなので、とにかく邪魔をしないように心を心がけましたが、2回目からはストーリーを盛り上げる演出を心がけました。

宿泊のお礼に、と6月に友達のお店でやらせてもらう予定になってるヒーリングライブ。

そのチラシを彼女に描いていただきました。

さすが絵描きさん。メチャ雰囲気似てると評判でした。

数日間を一緒に過ごして作家である彼女のプロ意識、作品に対する情熱、厳しき、アーティスト魂、そんなことを感じさせてくれました。

すごく良い刺激となりました。

そして、その勢いで6月のヒーリングライブに臨みました。

九州へ帰ってからの初めてのライブなので、かなり緊張しました。

しかもヒーリングの話や5次元意識の話を交えながらのライブでしたので、話すことも普段のMCとは違って、願いを現実化するために5次元へ意識を飛ばす方法とか、長年のヒーリング施術でわかったことなど話、終わったら、かなり疲れていましたが、普通の歌だけのライブとは違い、かなり密度の濃い時間だったように思いました。

手や腕にもすごい湿疹が出てきて、体調不良に落ちてしまいました。

26年前になった時は、それをきっかけにヒーラーへの道を歩き出し、また、歌も湧いてくるようになってたのでした。

ベッドで横になっていた時、このまま死ぬんじゃないだろうか？とか、誰にも知られずに死んでいくのかな？とか思い、ひどく化膿した湿疹だらけの両腕を見ながら、泣いた日もありました。

が、ある日もう一度歌いたい、だから元気になりたい！！と強く思ったのと同時に、考えたら秋には67歳になる、あと何年歌えるのだろうか？

楽器は80歳、90歳でもやれるけど、歌は身体が楽器だし、65歳過ぎて、それまでなかった身体の不調があちこちに出てきて、歌は元気じゃないと本当に歌えないのを実感している歯茎が衰えて滑舌は悪くなるしパワーが出て来ないのです。

そう思ったら、歌の寿命を強く感じました。

80歳までとして余命13年。13年しか歌えないじゃありませんか。

ずーっと、いつから始めるの?と私の中の内なる声が聞こえていたのですが、いや、まだまだ先で、そのうち、とか言っていましたね。

もう後が無い。

ベッドの中で気づいたのでした。

クソク絶対元気になって歌ってやる!!

そう決心しました。

そして、世界には素晴らしい歌がたくさんある、

オリジナルだけではなく、遠慮しないで私もドンドン

歌っていききたい。そう思いました。それから1月半経ち、

病の時に歌いたくなった曲「you raise me up」を私の誕生日に音楽教室の先生のところに行き、伴奏していただき、

歌いました。

そして元気になり、10月終わりにはライブもできたのでした。

このライブでは、何年も前から歌いたかったレオナード

コーエンの「Hallelujah」を歌ったのですが、ギターの

お兄さんがイントロや伴奏を頑張ってくれて、おかげで

歌うことができました。

そして、秋の終わり、今度は画家さんとのコラボの話が

あり、好きな画家さんだったし、なんでもチャレンジ、と

もちろん引き受けました。大きなお寺でのライブペイン

何が?って言うと、それまでヒーリング曲を書いていてステージではおとなし目に遠慮していた私が、エレキギターをやってる人と組んで、遠慮しないで自分を出す!!と決心した初めてのステージ、だったからです。

そして年の瀬も迫った頃、以前からの知り合いの女子が

私も歌いたいと言っていて、どこまで本気なのかかわからないので本当に?て聞くと、今一番したいことなんです。

と言うじゃありませんか。

じゃあ、バンドに入る?とお誘いしたら、入ります!!と、

速攻で決まってしまうました。

彼女の歌を一度も聞いたことが無いのに、ただ歌いた

い!と言う本人の意思を尊重して入れることにしました。

〜したい、と言う人の中には、その種が宿っている、

と言うことを信じて:。

ギターで手伝ってくれた二人には、これから

もよろしく、そして一人ボーカルの女子が入

るかもしれないのだけど:と少し話していたけ

ど、これで、バンド結成が決定的となったのです。

年明け、1月11日新月鏡開きの日。我が家で、鏡餅を割っ

てぜんざいを作り、メンバーのお越しを待っていました。

ティング、とのコラボです。彼女は壮大な龍を描く、その傍ら、私はその波動を感じて歌ったり(ボイスヒーリング)ヒーリング楽器を用いてその場の気、波動を感じながら演奏していました。

途中、ものすごいエネルギーを感じて涙が出そうになりました。

画家さんと主催者の方も感じたそうです。

こんな体験は初めてで、感動しました。

そして、2023年最後の災い??? 12月の初め、バ

イト先のお寺での出来事です。

もう、何十回も通って慣れているところで、飛ぶように

転けて石畳に叩きつけられ膝を強打してしまいました。

しばらく起き上がれず、冷たい石畳にふせていてただた

だ、ズキズキする膝の痛み、長い間エネルギー施術で人の

膝を施術してるので、これは1ヶ月はかかるだろうな、と

わかりました。

そして、バイトは強制終了となりましたが、それで良かったのです。

参拝者に言いたくないことを言わなければなかったからです。

すでに、12月中のライブを決めていたし、膝が痛いまま、

もちろん出演しました。なぜならこのライブは、私にし

たら革命的ライブ(!!)だったからです。

女子を紹介し、バンド結成祝いをしました。年齢的に、3人はさほど変わらず、私だけがダントツ上で、まるで3人のお母さんのな感じですよ。

1年を振り返ってみると、身体に異常がある度に絶対

元気になって歌ってやる!!と起き上がり歌への情熱が高

まって行き、それまで結構、人がどう思ってるのかを気

にしていた私が、どう思われようと気にしないし、残りの

命を歌、音楽にかけるのだから、とドンドン強くなって行っ

てる自分を感じています。

バンドへの憧れは、歌い始めた時からでした。

それは、私が調和、バランスを大切に作る天秤座でもあ

り、マヤ暦では共振共鳴が大好きな黄色い星だからかも

しれません。

一人も好きだけど、お客さんも仲間もみんな共感する

のがとっても気持ちいいって思うからなのです。

そして、念願であったバンドをついに結成することがで

きたのです。

25年経っていました。思い起こせば最初の頃は、オリ

ジナルだけを歌っていました。歌は、自分の感じている

こと、主張したいことを書いていましたから、



つまり、自分の考えを皆さんにアピールしていた、そんな感じでしたね。

それから、2000年頃、一度だけ短期間、女子とユニットを組んだことがあります。人の音や、声が入ることで、音が共振共鳴し広がって行くのは、とても楽しいものなんだ、と言う体験をしました。

でも、それも自分の音楽に合わせてもらっていたのでした。

人の曲を歌うようになったのは、娘がピアノ伴奏を引き受けてくれて一緒にやり始めた時からだと思います。

オリジナルだけだとお客さんは知らないから、喜んでもらうために皆さんの知っている曲、童謡、唱歌、日本のいい歌だなと思われような歌、それからショパンの別れの歌に歌詞をつけて。と、そんな曲を歌っていました。

普段ギターで伴奏して歌うのですが、ギターが苦手なのできたら演奏しない方が歌に専念できるし、ピアノ伴奏は曲にもすごく厚みを増してくれるので、歌っていても気持ちよかったです。

親娘だからか感性が合うのか、テレバシーが伝わっているのか、打ち合わせしなくても同時に終えることができた、間が同じだったりとかが、よくありました。歌もヒーリングも、私のコンセプトは皆さんへ、あなたらしく生きること、あなたを輝かせてね。した。

体験から思うに（私に起きた事は、やや乱暴なのですが）魂目覚めさせてくれること、5次元を超えたところからの干渉が起こること、なのではないか？と思いました。

おかげで神の雷にも遭遇し、なかなか波乱で一見、最悪でしたが魂の希求に辿り着いたことは、今後の人生を最後まで有意義なものにしてくれる、と確信しています。

2023年は、怪我や病氣、そして自営業が崩れる。

こう書くともチャクチャな年だったのでありますが、ただただ歌うことへの情熱は、増して行くばかりでした。

そして年が明け、2024年元旦、能登半島での大きな地震。

能登半島に近い関西で支援している、ある歌声食堂が、被災者支援のためのチャリティライブを開いていました。

その記事を目にして、あ、私もこういうのをしたいな、できたらいいな、と漠然と思っていました。

そして、1月28日、この日は何でも、一粒万倍日、大安、などなど5個くらい、幸運なことが重なった日、だったのですが（その夜のJUUU5次元ライブセミナーで知る。）その日は、お昼、お米や自然薯、自給用の野菜など生産している地元の人々の家に遊びに行っていました。農業を営んでいるそのおじさんの話や、ゆったりと余裕のある感じが、羨ましく思い、ちょっと作業を手伝わせてもらったのだけど…と少し話していたけど、これで、バンド結

と言うようなことなのですが、だから、歌もそんなあなたの応援歌となればいいな、とそんな曲を書いていますし、世界のそんな曲を選んで歌っています。

歌もヒーリングも誰に教わったわけでもなく、自分の中から自然に湧いてきたもの、自分の中にあるエネルギー、私の本能、本質だと思います。

歌ったり、ヒーリングすることで、内なるエネルギーを外へ表現し昇華して行く、そのことはドンドン私をエネルギーッシュにしてくれているなと思います。

26年前は、病になった後、ヒーラーへの道を歩き出し歌も湧いてきて、歌い始めた。と言う大きな人生の転換点でしたが、夏の今回の再発は、歌、音楽への道を突き進んでいく、と決心すると言う、これまた大きな転換点となっているな、と思います。

そして4月から始まったJUUJUUさん講師の5次元ナビ講習への参加、5次元をナビゲートする講習。5次元ライブを楽しく軽やかに生きているJUUJUUさんを見て、私もそうなりたいし人をも5次元へとナビゲートしていけたらいいなと思ひ、受講していました。途中、病の時は挫折しそうになりましたが私の本質、魂が希求していた事へと、真っ直ぐに背中を押して行ってくれた。そう思います。5次元ライブの本質は、こうなったらいいな、と言う日常的なことが思う通りになる。のですが、私の

成時、あーやっぱり自営業っていいなあ、としみじみ思い、そして、もう一度自営業をしよう！と決心したのでした。

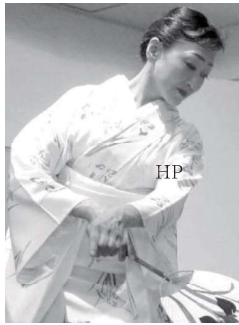
自営業、その後、そこから帰る車の中で、今まで思っていたことが全部繋がったのでした。今、私が一番エネルギーを注いでいる音楽、歌。私がよく歌わせてもらっているライブCafeのマスターが話していた言葉を思い出しました。

「最近、歌を聞きたい人より、歌いたい人の方が多いんですよね。」そうか？そうだよね、私もそのうちの一人で、お金を払ってまでも歌いたいのだ…そうだ!! 機材が立派に揃ったライブハウスとまでは行かなくても、気軽に歌いたい人、演奏したい人が寄れる場所を創ろう!! ここでは、自家製ハーブティ、コーヒ、紅茶、などのドリンクの他、簡単な食べ物を提供し、そのうちパンも焼くかも。多分、焼くでしょう。

つまり、お店をしよう、そう思いました。今までやっていたパン屋さん、ヒーリングに、音楽が加わったのでした。歌声茶屋&ヒーリングサロン 星の音（仮の名）の誕生です。

これって、私の人生の集大成じゃないですか（笑）まずは、それに相応しい家、物件探しから始めます。こう言うのはタイミングだと思うので、出会った時にピンと来て、できたらいいなあくと思ってます。





## XV. ニュートラルポジション アーチストの5次元ライフ 舞踊編

にしぎき つつみ  
西崎 鼓美  
プロフィール

日本舞踊家である母に師事、17歳名取名を拝名、二代目会主。幼少からの日本舞踊から得た体内感覚及び、動作を科学的機能的及び心理的側面から考察した結果、床を用いて緩める心身リセット法「ナチュラルキネシス」、空間と体内意識を用いて所作をモチーフにした感情による呼吸法やイメージによる動作改善法「和クササイズ」というメソッドが生まれた。  
先代から受け継いだ雅楽による「浦安の舞」を巫女舞としての他、生命の質の向上を追求し、大地から天に繋がる動きの本質から身体の使い方を、オンラインパーソナルをはじめ医療機関等にて指導。

ここは、比較的移住者の多い村ですがダンダン過疎になり寂しくなる地域です。

地元の人にも元気になって欲しい、いろんな人が来て、地域に風を吹かせて欲しい。地元の人も巻き込んで、時々マルシェも開催したい、時には、実力のある音楽家呼んで、コンサートをして地域を盛り上げたい。

などなど、構想はドンドン広がって行きます。車の運転中そんな、ビジョンが目の前に広がって行くのでした。

酷いバイト先に行ったおかげで、自営業魂が目覚ましました。

居心地の良いバイト先だったら、ま、ここでもいいか、となっていたかもしれませんが(笑)どうやら、私は、何につけ自分を追い込んで、魂の声を聴く。目を覚ませていく。そんなタイプのようなです。

26W 40行

### ◆はじまり

「つちは日舞よ！」この言葉が、全てのはじまりでした。私の職業は舞踊家です。6歳の時、幼稚園の講堂でやっていたバレエ教室を見学した時に、パステルカラーヒラヒラさせて踊っているお稽古着姿が可愛くて、ウキウキスキップで「バレエやりたい！」と言った時に母からピシャリと言いついた言葉です。ガーン。その時から、自分の願いは叶わないと、頭に刷り込まれた様です。夢とか希望という言葉は簡単に消えてしまいました。

### ◆母のこと

母の話を少し聞いてください。  
3歳から他界する79歳まで日本舞踊を踊り続けていました。幼少期は百日咳に罹るなど体が弱かったので丈夫な心身を作る為に16歳年上の兄におんぶされてお稽古に通い始めました。子どもの頃から浦安の舞姫やお祭りの山車の芸者さんなど、札幌中の舞台に出演していました。14歳で米軍の子ども達に教え、17歳でお弟子さんを取るようになり、最初に手ほどきを受けた松賀流のお師匠さんから、「あなたは、もっと上手になるから」と、藤間繁寿先生を紹介され、藤間流で古典舞踊を磨き、昭和39年私が

一才の時に、新しい日本舞踊をやりたいと、西崎流に転流し、西崎榮純を拜名、「緑森会」を立ち上げました。  
 沢山のお弟子さんに囲まれ、海外交流事業、札幌市内はじめ国立劇場や全国各地にて一流の地方連中との競演、親子孫三代公演を果たし、やるだけのことをやりました。そんなある日、余命宣告を受けました。それでもお稽古を続け、亡くなるちょうど3週間に自身で「もう食べ物はいらないわ。」と言って氷を口にもし旅立つ準備を始めました。最後まで身の回りのことを自分でこなし、自分のベッドで娘の腕の中で家族全員に見守られながら千秋楽となりました。なんてやり尽くした人生なんでしょう！

◆失った希望

さて、私はどうと、やりたいこと、夢はなんですか？と聞かれても、6歳の時に夢を打ち砕かれてしまっただけで、考えたこともありませんでした。そしてさらに、追い打ちをかける出来事が立て続けにもう二つありました。

高校三年生で進路を決める時がきました。  
 将来のことをわくわくしながら想像を巡らせ、日本舞踊からも離れることを企みながら？学校案内を色々見ていくうちに建物と植物のコラボレーションに魅力を感じ、エクステリアデザインに興味をもちました。

◆やりたいことができた時扉が開いた

この後、転べば当たると言う「わらしべ長者」のような？ストーリーが始まるのですが、私の場合は、「思いを宙に浮かせておいた」ことが偶然にも、五次元的思考？やるべき事が自動的に次々目の前に訪れる（現在進行形）のです。

一見良からぬことに見えても、それはプロセス、とじわじわ気づき始めたのです。もしあなたが「なーんだ」と人生がっかりしていたり、行動的じゃなくなったりしていたら、この先さらりと目を進ませていただけましたらうれしいです。

未来に続くための沿革をほんのさわりだけ書き出してみました。  
 独立するまでの6年間、ここだけ振り返ってみてもやっぱり様々踊っていました

- 18歳 日本舞踊教室助手 社交ダンス選手権入賞
- 19歳 オフィスレディ バレエ教室入門
- 20歳 ハワイ交流 フラダンス集中講座
- 21歳 スタジオアウェイク！設立

早速お稽古で上京した際にデザインの専門学校の体験入会をしました。先生のお話も興味深く、もうここしかない！しかし、お金を貯める為にこっそりバイトをすればその度にすぐに見つかり連れ戻され、それでも入学願書を書いて提出し受験料を払うだけの段階になって両親に言いました。ところ案の定、猛反対されました。

説得の「せ」の字も通用せず、またもや夢とか希望という言葉は消え去りました。

その後、他にやりたいことも無く、就職リストの中で給料が一番高かったキーバンチャーターの就職試験を受けました。最終段階で握力テストに引っかかり「腱鞘炎など職業病のリスクがありますが、それでよければ受け入れましょう。」と言う受験先の企業からの電話を母が受け、即座に断ったとのこと。

知らぬ間に。。。がっくり、3回続けばもうどうにでもなれ、と言う気持ちです。

家を出ると言う選択肢もあったと思うのですが、なぜかそれはせず、「行動を起こす」否定されるやり取りをやらずに日本舞踊しかなかった。

そんなサイクルがインプットされました。

あらあら、これではこの本を書く意味がありませんね。

我が母である師匠の踊りは、立ち姿ひとつとっても真似できないほどでした。

体幹の安定、動作のつなぎの滑らかさ、大地から呼吸し目線に至るまで全身が一体化し、無駄な動きが一つも無いのです。そんな師匠に手ほどきを受けたのだから、それはそれは恵まれているだろうと誰もが思っていたでしょう。

ところが実際は、お弟子さんのお稽古が終わると、もう夜中。他流のお師匠さんに預けられ、（イケメンの先生でそれはそれで楽しかったのですが！）順序がざっとわかっただころで手放され、早朝ひとりりで孤独な研究、そしてリハーサル。

ここで初めてダメ出しをされて、再びひとりで夜な夜な孤独な研究、本番に臨む！

本番は、誰もが良かったと本人の前では誉めてくれるもので、たとえ本心からの言葉だったとしても、母との格差は自分が一番よくわかっているし、役割を果たしたまで。自信をもとうにも持ちようがありませんでした。

さあ、好きでやりたかった楽しいはずのダンスはと言うと、バレエ教室に入門する前から一緒に踊っていた友人がどんどん上達してダンスの大会で優勝するのを横目で見ながら、私は日本舞踊7割ダンス3割。ダンスを踊るとあれ？！どこかしら日本舞踊っぽい。さらに、出産したら、

体型が変わってバランスが取りにくくなったり、体が硬くなったりと、なかなか思うようにいかない。

日本舞踊にしても、ダンスにしても、この中途半端さはなかなかないもの。自分の体に嫌気がさしました。踊ることそのものに、意味付けをして自分を納得させようとしたり、挙げ句の果ては何とかやらなくて済む方法は無いだろうかと考えたりと、そんなこともありました。

あれ？また、ストーリーは明るい未来に続きそうもない方向に向かっていきます。

そうなんです。

そんな思いを繰り返しながら、私の心の中は自信もないままに夢もずっと時間が経過していたわけなのです。

だからこそ、コツコツと積み重ね、やるべき事にたどり着けたのです。

#### ◆これから先思い通りの短期つながりストーリー

日々それなりに楽しく過ごしていましたが、人生いざという時に思うようにならないことは当たり前と思っていました。そうすると、将来やりたいことやなりたいたいものなど、先の見通しを立てられなかったのです。10年先を見据えて行動しましょうと、職場の人が話していましたがちっとも

#### ◆憧れのバレエに出会えた日

さて、まず手始めは、社交ダンスの選手権大会に出場することになりました。母の友人がダンス教室の校長先生の経営しているダンスホールに着物姿で母はいつもお弟子さん連れて行っていました。ある日、その先生から、娘さんを〇〇さんのダンスの相手役に抜擢したいと母に話しました。それを聞いた母は、お友達の頼みだからやりましょうと即答、次の日から早速お稽古が始まりました。忘れもしません。5月5日にスター1ト、2ヶ月後の7月7日が選手権大会。ラテンのチャチャチャとルンバ。高いヒールを履き、とにかく笑え！と、振り付けもさることながら、表情について1番指導されました。ぎこちなく、わざとらしくあった笑顔も2か月後には自然に笑顔が出てくるようになっていました。

その時ふっと思いました。振り付けや動き方を教えてくられても、細かいところの指導を受けていませんでした。先生により良くするためにはどうしたら良いか教えて欲しいとお願いをしました。すると、先生の答えは「日本舞踊に支障をきたしては困るから、あまり丁寧に教えるとお母さんに悪いなあ。」との事でした。その回答に拍子抜けして、基礎的な体の使い方をもう少し勉強してから出直しますとお伝えし、一旦卒業することに決めました。

ピンときていませんでした。かと言って、私の人生お先真っ暗という感じでもありませんでした。

今が良ければそれでいいとか、そんな考えすらも無いのです。それって、目の前にあるものや起こることに反応するだけなのでしょうか？思うようにいかないのが普通になっていたので、思いを叶えようという思いすら浮かばなかったのでしょうか？

それは、そうではなく、今思うと「ニュートラル」いわゆるZEROの状態のように無意識で心がけていたように思いました。自然体でした。

スポーツでも格闘技でも、相手が来る方向にあたりをつける、不意に違う方にボールや手が飛んで来ても返せないことがあるけれど、自分の中心を漂いながらアンテナを張り巡らせていると、瞬間で望む方に身体が動くみたいなことよく似ているかもしれません。

自然に抗わない、起こる出来事を隨機応変に受け止められる。行き当たりばったり力が、養われ、当人は無意識ながらさらに成り行きをより良い方向に向かわせることが、これから次々と起こるので。

そんな時、父の会社で寿退職をする方がいるので、少しの間働かないか？と話が出ました。建築関係の会社でしたので、自分が勉強したかったデザインの本や資料も本棚に沢山あるとのこと、手伝いながら勉強することになりました。仕事内容は事務、その日からオフィスレディです！ところが小さい会社で昔の事でしたので、掃除、お茶汲み、お使い、経理、何でもしました。中でも計算は、電卓、そろばん、紙に計算しても全て答えが違ったり、出張に行けば実印をなくしたり、電車に乗り間違えて、最終電車に間に合わずなどなど、まあ言えばキリがないほどの失敗で話のネタが尽きないほどでした。全世界中の事務の方を尊敬しました！そして人には向き不向きがあることを痛感しました笑。

初給料をいただいたその日のことです。街までぶらりぶらりと歩いていましたところ、スポーツ店の一階の張り紙が目にとまりました。

#### 『バレエ教室開講生徒募集中』

それを目にした瞬間、エレベーターのボタンを押して受付に向かっていました。扉が開くとすぐ受付、なんとそこには、高校時代仲の良かった同級生がいるではありませんか！「とても良い先生だからぜひおいで。」この一言で私

は入会をしました。これで体の使い方の基礎も学べると思いました。そしてバレエレッスンの用品一式揃え、すぐにレッスンを開始しました。憧れのバレエシューズ、そしてレオタードを着て、バーに手を添えた途端、目から涙が「っ」と流れました。そう、これがずうっとやりたかったことだったの…っ。

母がさせてくれた社交ダンスがきっかけで、憧れのバレエに出会えたのです。

#### ◆仕事にした途端に応援してくれたこと

バレエを習い始めてから、家には物干し竿にレオタードがかかっているわけですから、当然目につきます。そして母は当然、激怒しました。

しかし、もはややらない選択肢はどこにもありません。平日の夜は毎日通い、土日は開講から終いまでいました。日本舞踊はどこいったやら…、レッスンを楽しくて楽しくて仕方がない毎日でした。

ジャズダンスのクラスがあり、もブレイクダンスのクラスもありました。エアロビクスのクラスもありましたが、その時はダンスではなく体操の種類と思ひ、受講していませんでした。

ある日のこと、更衣室で、日本舞踊をやっていると話を

#### ◆おどりの人生

唯一強くやりたいと願っていたバレエに出会えてから、大好きなダンス、やるべき日本舞踊、そして仕事となったエアロビクスの三本柱の指導と公演に集中出来るようになりました。

当時は全く気がついていませんでしたが、思えば、理想的な生活になっていたので。

この頃から、何かに導かれるかのように次々とその時必要な事柄が目の前に来るようになりました。

#### ◆コスミックダンスとの出会い

そんな訳で、何も知識がないままインストラクターになってしまったのですが、ありがたいことに受講生はみるみる元気になりました。

しかし、目の前に、腰痛、疾患、不定愁訴など、もともと持っていた症状について相談に来る方が続々と現れました。それからです、皆さんの不調に配慮できるようにと学び始めました。

機能解剖学や運動生理学、施術法などの体についての勉強や資格取得、様々なジャンルの舞踊やメソッドを学びました。

すると、「かっこいいね!」と言われました。意外でした。かっこよく見えるなら、もっとちゃんと日本舞踊をやるうかなくて不純な動機ですがやる気になりました。

そんな時、バレエの先生から、「アルバイトしない?」とお誘いがありました。何かと思えばエアロビクスのインストラクターです。「先生! やったことありません。」「いいのよ。有酸素運動だから、振付の時間は走っていれば大丈夫!」なんて簡単なこと!? 手を出さなかったエアロビクスのクラスを数回受け、エアロビクスインストラクターとして、デビューする事になりました。

インストラクターになった途端に、仕事にしたのだから、あなたも洋舞を活かした日本舞踊もプロとして頑張りなさいと、大逆転です。母は応援してくれる様になりました。するとまもなく、自衛隊の音楽祭のお仕事をいただき、シンセサイザーと尺八と日本舞踊のコラボレーションをしてから、パッと変身、洋のダンスでルパン三世を踊りました。

これが、和と洋のコラボレーションの始まりです。それからの母は、エアロビクスや和洋の舞台が仕事になると、バレエまで応援してくれるようになったのです。そして、発声を学ぶためにNHK放送劇団でも学ばせてくれました。

そして、舞踊公演活動と並行して、カルチャースクール、フィットネススタジオ、体育専門学校などにて指導するようになりました。

ある日のこと、体育専門学校の山登りの先生から、「森さん、あなたにピッタリな踊りがあるから、ぜひ参加しましょう」と言われまして、それが「JUD」のコズミックダンスだったので。

お寺の会場で、みんなの手をつないで輪になってフォークダンスや盆踊りのように回ったり近づいたり離れたり。ただそれだけなのに、その輪の中心は何とも言えない暖かいなめらかな空気が感じられました。そしてつないでいる手は遠くの人ともつながり合っている感覚があり、なんとも不思議で心地の良いものでした。

そして、次々に様々な曲をかけてくださり、私からあなたへと手を胸に当てて目の前の相手に差し出合う動作から始まり、その手はだんだん大きく、そして後ろへ、気がついたら回り、飛び、転がり、みんながそれぞれ自由に踊っていました。踊ったこともある人もない人も、お互いの気をどこかで自然に感じながら、気がついたら、皆、同じ動きをしていたり、上手にコラボしていたり…。

そして踊っている皆さんの表情は穏やかでとても柔らかく空気が溶け合っている感じでした。



こんなにも自然に、みんなが動けるダンスってなんてすばらしい！！  
 目が覚めたようでした。  
 踊りってこんなに自由なんだ！って新しいワクワクの瞬間でした！

それから随分時が経ちました。  
 出産を機に、少しは仕事の仕方を変えたものの、子育てとお稽古とレッスント、舞台をこなしていくのはなかなか至難の業でした。

産後の体の変化ともあいまって、身体感覚は鈍くなり、子どもは行かないでと袖を引っ張る、日本舞踊も洋舞も、どれをとっても中途半端、おむつの洗濯物は山積み、踊りというのは生命を維持するのに必要なことではないし、ここまでして踊る意味があるのかなと、踊る意味を見失いかけた時です。

コスミックダンスカンパニーの詩愛さんから、連絡がありました。「きよりん、元氣?! コスミックダンスワークショップがあるよ！」

さっきまでの気持ちはどこへ行ったやら、早速、申し込みました。

そして、ワークショップ当日、今の心情を何一つ伝えていなかったのだけれども、JUUは私をぎゅっと抱きしめ動かしてみると、重い、息が切れる、または踊る価値などないのではと踊りから遠ざかることを考えなくなるほどの身体感覚の鈍さに焦りと、同時に氣力が薄れていきました。

持ちの面で自分は絶対に大丈夫なはずでしたが、力不足であるという悲観的な感情や非活動的な意気消沈な精神状態に近づいていく過程を体験していきました。やる気の低下、身体感覚の鈍り、突然の感情の揺れ、しかし、それをどこか遠くで俯瞰している自分もいました。このもやもやから脱出し、解決しなければ!と思いつつも、現状を味わっているような、おかしな自分とまともな自分が行ったり来たりしていきました。

またもやそんなある日、SNSの投稿に「JUUがぼん!と出てきました!」

なぜか、やっぱり!と思いました。タイミングがきたのです。  
 早速JUUに連絡を取ると、今、札幌にいらっしやるとのこと。  
 今回は、コスミックダンスはしませんでしたけれど、踊りの話が沢山できました。

それだけでもみるみる元気が戻ってきました!  
 「きよりの生き方は五次元思考だよ。」と。

それは何?それから、五次元七次元ライフの講座で、お

めて「あなたは踊る人よ。」と、一言だけ。私の目から涙がザブザブこぼれました。そのままぎゅっと抱きしめ続けてくれました。

それから25年が経過し、コロナで社会の環境がガラッと変わりました。大きく変わったことは、子どもや高齢者の体力氣力がすっかり弱ってしまったことでした。自分自身にも変化がありました。この環境下で高齢者の元氣をとり戻そうと、体力氣力認知力アップに和クササイズ(日本舞踊のエクササイズ)を役立てましよう、月の半分くらいの割合で関東圏に呼んでくださるようになりました。

また、子どもの元氣をとり戻そうというダンスの取り組みも関東中心に盛んに行われました。

私自身の生活もガラリと変わりました。張り切って行ったものの、月3回札幌東京を往復し、新しい環境で、新しい人間関係、医療現場での、初めてのことや手探りのことばかりでした。今までの経験は通用しないこともありましたが、意思疎通が上手くいかないことも多くありました。そこに一生懸命になっていて、地元のお弟子や生徒さんも不安になっていないだろうか?など気掛かりでした。そうこうしているうちに、自分の身体を研ぎ澄ませることをそっちのけにしていました。悲観自由に身体が動いていない、踊れていない自分に気づき、もっと動かなきゃと身体

勉強させていただくことに決めました。お話を聞けば聞くほど、「なるほど!やっぱりそうだったのね!」と納得がいくほど、今まで起こった出来事は辻褄が合っていました。

さらに今までは、「踊りは、ここに生まれて授かった役割」と割り切っているところもありました。が、学んでいくうちに、様々な発見がありました。舞踊は世界を救うというもっと大きな役割も。

「うちは日舞よ!」母が放ったこの言葉は、「日舞にチャネルを合わせて、そこから大切なことを受け取るのよ。だから、まず、日本舞踊をしっかりとマスターしなさい。」という言葉が秘められていたのかも知れませんが。不思議なもので、あちこち回り道をしながらか来たけれど、今は、日本舞踊という核を持って動いています。

母が合わせてくれた社交ダンスがきっかけで、憧れのバレエに出会えて、それから次々必要などところで必要なお役が回ってきました。

母の踊りに近づこう、また、舞台での見せ方を研究しよう、日本舞踊の動作を機能的解剖学的に分析したり、大地と天とを繋ぐ空間での氣のエネルギーの流れを放出したり收拾したり、それが、安全に機能的な所作を身につける為の「日本舞踊」や「和クササイズ」の元になっています。また、出産は「ベビー親子ビックダンス」の、身体感覚の

鈍りは「ナチュラルキネシス」を編み出しました。舞踊から遠ざかろうと思った時は必ずJUUJUUに再開しました。舞踊の凄さを再認識させてくれました。

舞踊の凄さを再認識という点、30年以上、毎年六月はさっぽろ祭りの山車の上で神様に奉納の踊りを、七月と八月は「浦安の舞」という雅楽のご神前で巫女の舞、一月は獅子舞を奉納させていただいています。

中でも「浦安の舞」は、通常はご神前で巫女ですが、平安を祈る舞であるので、世界にこの祈りを届けたいとのことで、JUUJUUから「浦安の舞」の講習を申し受けました。母から譲り受けて当たり前のように長年やってきたけれども、あらためて役割をになう大切さに感動し感謝の気持ちが湧きました。最近では、一般の大人の方が習いたいと言ってくる方もいます。それも今では納得できます。

もともと舞や踊りは、五穀豊穡のために雨を振るよう願っては踊り、喜びや感謝、お祝い事、地鎮など、神様に向けて行うもの、いってみれば身体の動きは神様に捧げる祈り、そして神様との共同作業でした。

大きな災害や事故等、たくさんの方が奪われることが多いこの時こそ、舞いや踊りの必要性を強く感じます。特にコロナ禍以降、みんなで心を合わせる、力を合わせる事の大切さを実感しています。舞い踊り、皆の祈りを届けましょう。

さらに、何か行き詰まった時や身体に良からぬ変化が起きた時、舞いましょう。人が動くことで、そのエネルギーは循環し、体の詰まりを促し、思考がすっきりと穏やかに、エネルギーは前向きになるでしょう。立ち座りなどの立ち居振る舞いもそうですが、思考も言葉も、私たちは無駄なものいっぱい抱えています。無駄な力を抜き、心研ぎ澄ませ、等速で静かに流れるように舞いましょう。

技術はいりません。

座っていても、寝ていても、手足が動かなかったとしても、呼吸を手先足先まで通すように想像の中で舞いましょう、踊りましょう。

こことからだを宙に浮かせ天に預け、造られた肉体に逆らわず、自らの創り出した気流に乗って、時間と空間を超え、生命の次元を高めましょう。

本来の皆さんの心と身体をゆったりとした、まるで無重力の感覚の中で味わえるでしょう。

26w×6行



# ENTER

あなたも5次元ライフナビゲーター

初刊・令和6年4月1日

\*

著者

JUJU JUNKO KOMIYA

池真埜子／ウィスタリア亜季／築木彩天／古宮三紗子／星音／サリバン知美／進藤詩愛／  
辰巳和代／街公江／寺本恵理／中筋麻記子／西崎鼓美／真碧カオリ／宮本喜美代

\*

編集

小宮純子

\*

装丁デザイン

小宮美佐子

発行所／サンジェルマン出版

(Saint German Publishing)

神奈川県中郡大磯町大磯 1939-34

<https://www.saint-germain-publishing.com/>

ISBN 978-4-909889-69-0

転載禁止

